

同窓生寄稿

あのことこのごろ

共学の思い出

河合洋子(旧姓・白木)

昭和二十五年卒



昭和二十三年夏、私達岐阜高生は、雲雀が丘より岐阜高校迄堤防伝いに、家財道具ならぬ机や椅子ミシン迄も持参してお嫁入り致しました。暑い暑い日でした。長い長い道程でしたが、何故だか楽しく歌

を歌いながらの引越越してました。

一クラスに七、八人の女生徒という割でしたがいきなり男子生徒と手を組んでスクエアダンスが始まりました。運動会に向けての練習です。指導は男の子がセンチョーと渾名で呼んでいた柴田先生と風間先生(女)でした。又堤防に集まって上級生から校歌や応援歌等一杯教わりました。楽しい行事でした。何組かの男女カップルも出来その中で結婚にゴールインした人達もま

した。ガスタッソンさんによって、改革された制度ですが今ではなつかしい思い出となり、ガスさんに感謝感謝です。音楽の岩田先生は大張り切りで混声合唱を夢中になって指導して下さいました。第九のコーラス部分では同級生の関谷崇夫さんの素晴らしいバス

で幕上げたあの感動は今も凄く迫力で想い出されます。ハレルヤを歌った時は当時の岐阜卓大の学長が一人起立して聴いて下さった事も大感激でした。

これらの触れ合いは、六ヶ月で終り昭和二十四年四月には学区制が敷かれ折角親しくなった男子生徒ともお別れになってしまいました。戦中の事として小学校の修学旅行さえなかった私達は皆が散り散りになる前にと昭和二十四年三月東京と江ノ島へと一年早い修学旅行をお米持参で実現致しました。これは小川徹さんの目

ざましい活躍のお陰でした。汽車の中で春の選抜野球が岐阜に決まった報が届き皆大喜び致しました。この野球部は前年もこの年も優勝戦迄戦い、この年には優勝パレードが計画されており女子も乗るようにと新聞社の方から電話を頂き楽しみにしていました。

今こうして思い返してみますと共学のお陰で味わえた数々の楽しさが沸々と沸きいで感無量です。喜寿になんなんとする年になって同級生の男子の方からお誘いがかかり学年の有志の集いが始まりました。

正に老春の訪れいや矢張り気持は高校生への返り咲きです。岐阜高女が終った寂しさはありますが、その伝統は脈々として岐阜高生に受け継がれています。私はこの事を本当に嬉しく有難い事と思っています。そして、最近始まったこの有志の会を大切にして行きたいと願っています。

我が青春の

サッカー

白木 哲朗

昭和二十四年卒



昭和十九年、私が岐阜一中(現岐阜高校前身)に入学した当時は、第二次世界大戦の真っ只中であつた。銃剣道部なる部があり入部したが、教練と称し重い銃剣を上げ下げさせられ、又それを研ぐ事に終始

勉学に励むという状況など、今考えると非常に少なかった様に思う。ましてや外国語に於いておやである。長良橋が爆破されるとの情報に躍らされ、学徒動員の名の許に新しい橋の建設に駆り出されたものである。戦況は日に日に劣勢の様相を呈し、空襲は岐阜にも及び、焼夷弾で実家が焼け落ちるのを目の辺りにするも為す術もなく、防空壕も危険となり逃げ惑ううち機銃掃射も受けた。岐阜の中心街も焼け野原となった。幸い生き延びる事が出来たのだが、戦争の無益さ悲惨さを身を以って体験し、二度と戦争をしてはならぬと誓ったものだ。

昭和二〇年、終戦の年、私は中学二年生。

翌昭和二十二年、国は新教育制度を制定、六、三、三制が施行され新制高校誕生、私は高校生となった。戦時中は休部（戦前は活動）していたサッカー部が復活し、私は勇んで入部、部員は猛者揃いであった。夏の合宿が始まったが、当時は終戦直後の食糧難の時代、各自米持参で体育の柴田先生宅でお世話になった。夫

人は厳しい食糧事情の中、食べ盛りの部員達の胃袋を満たす為に、日夜頭を悩まされた事であろうと、今も感謝の念で一杯である。

高校球児憧れの夏の甲子園野球大会も復活し、昭和二十三年、我が校野球部は夏の大会に出場、四回戦迄進出、翌二四年夏の大会には準優勝し、戦後復興の途上にあつた岐阜県民に、大きな活力を与えたものと思う。私自身は三度の飯より好きなサッカーに明け暮れた高校生活三年間であつた。この間サッカー部は全国高校サッカー選手権大会に、東海三県代表二校のうちの二校として出場したのである。

当時、サッカーが今日の様な隆盛を極めるとは誰が想像したであろうか。今、岐阜にもプロサッカーチームが誕生、名前もFC岐阜として二部昇格。先頃名古屋グランパスと対戦し善戦した。チーム運営資金は県民がサポーターになつてくれるのを期待したい。それによつて有望有名選手や監督の獲得を可能にし、それはFC岐阜の更なる活躍や岐阜の活性化につながる要因と

なるものと確信する。日本中に、更に大きく世界中に羽ばたき、岐阜にFC岐阜ありとその名を轟かせてくれるものと期待に胸ふくらませている昨今である。



六回目の干支

大竹貴美子

昭和三〇年卒

平成二〇年。何と干支の年を六回も迎える年齢になつてしまつた。卒業して五二年、半世紀も生きている自分に小さな畏れのような驚きを感じた。陳腐な言葉を使えば、一瞬の光に似た速さで五〇年が、後へ走り去つたようで、何人の親友と永遠の別れをしたことか。その度に死は自分の意志とはうらはらであることをご知らされた。言葉を変えれば、偉ぶつて肩はつて生きてみても、つまりは『生かされている』と言う事に尽きると思われた。半世紀余生生きてきてその後半近くで、言葉の世界で一番短かい文学の俳句に出合

つた。それは季語と言う一年を四季に分けた語彙を入れる詩である。勿論無季語の俳句を作る人達もある。余分な言葉を捨て、切り縮めて十七文字にする詩であり、日本の言葉の端的な美しさを再認識させられた。去年亡くなられた「松井利彦先生」にわずか一年余ほどではあつたが俳句入門をさせていただく幸せな刻を持てた。たつた一文字で意味や雰囲気が変わり「て、に、を、は」の大切なこと、使ひ方の難しさを教わつた。松井先生に少し直してもらつて生き返つた私の宝物となつた句を、ここに記したいと思う。

『落花敷きつめて、墓への道白し』『落花あふれたる参道の水たまり』と亡き両親と亡き友人達への鎮魂歌となり、自分流に曲をつけて口ずさみ、自分を癒している。出来れば自分の葬送曲としたいと願っている昨日今日である。



お役目卒業

同窓会副会長
後藤康彦
昭和三〇年卒



同窓会副会長のお役目をいただいて四〇年近く、今年で無事に勤め上げさせて戴けることは、それぞれの年度の校長先生、同窓会担当の諸先生方、同窓会会長、役員さんのご理解とご協力のおかげと心より感謝し厚く御礼申し上げます。第でありませぬ。思い起こせば、柳原三郎会長、関谷文二郎会長、杉山幹夫会長、野々垣孝会長と四代に渡つて任せさせて戴けたのも、それぞれの会長が大変ご理解があり、よく対応して下さつたことはもとより、先ずなにより私の住まいが学校のすぐ近くで、何かことが

あると直接会長に相談申し上げにくいこと、むつかしいこと等、私をクッション役として担当の先生方が気がるに私の所に足を運んで相談いただき、今日のようにFAXも携帯電話もメールもない時代、私は連絡役として走り廻りをさせて戴いたこと…

関谷会長の時、創立百周年記念にと昭和五八年十月に校庭に校歌の石碑を建てようと走り廻りようやく完成して除幕式を行ったらなんと!!

奮へ奮へ誇る最古の歴史ある…の「奮へ奮へ」の字が抜けていて皆顔面蒼白になってビックリしたこと…一大事と会長を車にのせて製作の石屋さんのにり込んだら、書道の先生に書いていただいた書体の原稿も抜けていて会長がその場でヘナヘナと座り込んでしまい、い、ショックを受けたこと…

大きな声では言えませんが、おかげであの歌碑は字を全部削り彫りなおして5cm程度厚みがうすくなってしまったこと…

卒業式に同窓会会長が全校生徒の前で挨拶をされるのですが、体調をくずされたり急

用が出来たりして二〜三度ピンチヒッターで代役を務めさせて戴き、父兄・先生方を入れると当時二〇〇〇人近い前で同窓会としてのお祝のスピーチをさせていただいたので、皆んなが真剣に聴いて下さって本当に話しいがあり、何と気持ちよく話しやすいのださすが岐阜高校と感激し、これじゃ会社の少人数の朝礼の方がよっぽどむつかしいやと苦笑いしたこと…

私は人形屋でひな人形、五月人形を商いをさせていただけいておりますが、今でも時に当時の私の話しをおぼえていますよ…とお祝のお人形を買って来て下さるお客様がいろいろ思い出して花を咲かせて戴いて、これも長きに渡っているいろいろなお役目をいただいたおかげ、と…

又音楽部のコーラスで全国優勝された記念にピアノを贈ろうと決め、岐阜県に数台しかないと云う一〇〇〇万近いピアノの購入にさいして交渉を私にまかされ、楽器屋さんと商談して社長さんが岐阜卒であったことなどで商談がスムーズに進み、大変勉強して

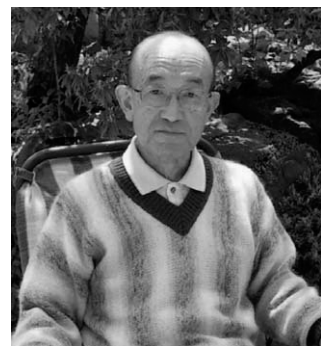
いただき皆さんに喜んでいただき嬉しかったこと…等々

うまく行ったこと、失敗談にはこと欠きませんが、想えば同窓会のお役目も私のhuman lifeの一端だったんだなあーと。

ラストイヤーを無事に迎えられるやれやれと安堵した気持ちと、何か一本筋が抜けるような寂しさと入り交じった気分ですが…お役目は終わっても、勉強と人生の一端を学ばせてくれた我が愛する母校岐阜高校はこれからも目の前に「デン」とあり!!と想いを馳せ、これからも元気に歩んで行きたいと思っています。長い間本当にお世話になりました。ありがとうございます。



岐阜を卒業して一〇年後の昭和四〇年四月の弁護士登録で、経験だけが四〇年超という消え去ることの近い老兵と



なり、昨年のこの同窓会も食道癌の手術のために無断欠席としてしまいました。

手術は、癌に侵された食道の切除と胃を縦に二分した胃の長い方をのどに結びつけて新しい食道を作ることが主体で、首の前部、右の脇下、みぞおちからへそ下までの三ヶ所を二〇〜三〇㎝の長さに切開するというものでした。

このような肉體への損傷は、一般人が実行すれば殺人とか傷害とかの違法な行為となりますが、資格を有する医師による場合はその違法性が阻却されるのが原則です。

そして、その理由は、医学的に正当な治療行為であるからと解されていましたが、一五年前から、このような正当な行為であっても患者の同意とそのための説明が必要であるとすると裁判例が現われるよ

うになりました。

仙台高等裁判所は、平成六年に「：患者は、手術によって自己の肉體に医的損傷が加えられることを承諾するかどうかをその自由意思に基づいて決定する権利を有するものである。…その前提として、患者には、手術の目的、方法及び内容のみならず、手術の危険性、手術の後遺傷害発生の危険性、手術に代わる治療手段の有無、手術をしない場合の予後の見通し等、承諾をするか否かを決めるにつき考慮の対象となるべき情報が与えられる必要がある。そのため、医師には、これらの事柄、とりわけ当該手術が重大な危険性を伴うものである場合には、専門的見地から、可能な限りその危険性のみならず、その発生頻度を具体的に患者に説明した上で、患者の自己決定に委ねる義務がある」と判示し、同旨の判例が続きました。

これらの裁判が切っ掛けとなつて、医療現場では「説明」と「同意」（インフォームドコンセント）が重視されるようになり、私も手術に対する

同意の前に、その内容の詳細とこれによるダメージの程度や死亡例の存在、術後に発生するかもしれない癌の転移や出血・肺炎・腸閉塞などの合併症と生命にかかわることもあるというその危険性についての説明をいやという程にうけました。

自分の生きざまを自分で決めるために受けた説明でしたが、術後の私は、体の傷みや体調の不良を感じるたびに聞かされた転移や合併症が頭に浮かび、生命にまつわる妄想や悪夢に眠れなかつたり眼の覚める夜を何度も経験するようになってきました。

そして、説明を受けることは自分の権利のためなのかと問い返すことの多いこのごろです。

ナベツネ氏と 闘った原動力

高橋 恒美

昭和三十五年卒

新聞記者を三五年間やった。岐阜新聞一一年、読売新聞二四年。



今にして思うと、この世界を駆け抜けた原動力は「岐阜高校での三年間」にある気がしている。三年間が充実していたわけではない。逆に劣等感に苛まれた「苦渋の時」だった。

大学区制に移行した初年度で、県下各地から優等生がどつと集まった。夏休み明けに分厚い英単語帳一冊分丸ごとのテストが行われ、百点満点が数人いたのには仰天した。私はせいぜい十何点ぐらい。「どえらい学校に来てしまった」と絶望の淵に突き落とされた。

それが落第高校生活のスタートだった。

新聞記者を生業にしたのだから、「国語はまあまあだったのでは？」と思われるかも知れないが、これがダメ。県教育長を経て現在、県芸術文

化会議会長の吉田豊先生の授業を受けたのだが、平均以下。チンプンカンプンの答えをして、立たされた思い出ばかり。大学（法政）に進んで、「やっと解放された」という思いが全身を貫いた。

先般、名古屋のあるジャーナリストたちの集まりに乞われて話をした。タイトルは「ナベツネとのわが闘い」。

「ナベツネ」とは渡辺恒雄氏。昨秋、福田首相と民主・小沢党首とを引き合わせて大連立を画策した読売新聞社長だ。権力と対峙し、庶民の味方であるべき新聞人がフィクサーとして政界を牛耳る。こんなことが許されていいわけがない。

私が「ナベツネと闘った」経緯は次のようなことだ。

一九七〇年代半ばまで東海地方は読売の空白地帯だった。ナベツネ氏は名古屋に奇襲攻勢をかけた。それが「中部読売」発刊だった。ところが、

その労働事情は悲惨で、私たちは労働組合を結成。「働く者が発言していく場」を確保した。怒った読売側は中心人物・私に不当配転を仕掛け、

組合も支配した。やむなく裁判に訴え、十四年間にわたる「高橋裁判」を闘った。

私の主張は「社内の自由な発言を保障しない新聞社に、ジャーナリズムを語る資格はない」だった。「大衆蔑視」の本質を持つナベツネ氏にあって、高橋は「獅子身中の虫」だったのだ。

話を岐阜高校時代に戻す。私の行動の原動力は、岐阜高時代にある、と最初に述べたが、まさにそうだ。落ちこぼれの自分に「こんなはずはない」と悲しみに打ち沈む日々

だった。直截に言えば、その思いが三十代後半になってしたたかに爆発したのだと思う。弓矢ではないが、引き絞った弦（つる）が満ちれば満ちるほど、その反動は大きい。それほど三年間に培われた劣等感という弦は強大だった。

劣等感と同時に、「日の当たらぬ人」「下積みの人」を思いやる気持ちを育む好機でもあった。

思い出したくもない岐阜高時代。しかし、それもトシを取ると、愛おしさに変じるのだから不思議だ。

（フリージャーナリスト）



1960年7月文芸部 句会
俳人 山口誓子先生を囲んで

「ほける」の語源は？

信田 さよ子

昭和四〇年卒

岐阜高校の三年間については、

思い出したいくもないという人から、懐かしんで大縄場という地名を時々復唱してみるという人までさまざまだ。

私は、よいか悪いかは別として、楽しいことしか浮かんでこないという得な性分である。今から思えば、教師に対するいじめじゃないかということもしたし、ひどく生意気なことばかり言っていた気もするが、それらがひどく楽しかった。勉強も大変だったはずなのに、すっかりそんな記憶は飛んでしまっている。でも、ひとつだけ、どうにもわけのわからない記憶がある。

たしか、ひとりの先生が欠勤されると、その空白の時間を割を繰り上げるといふ慣習があったと思う。結果的に終業が一時繰り上がり、早く帰れることになる。それを「ほける」と呼んでいた。



朝、担任からそのことを知らされると、クラス中がいつせいに「おっつ」と湧く。中には拍手する男子もいた。何しろ授業がひとつなくなり、おまけに一時早く帰れるのだから。隣のクラスが勉強しているのを尻目に意気揚々と合法的に早退する快感は、こたえられないものがあった。口々に「ほけた」「ほけた」と喜び合い、別のクラスからは「ほけたの？」とうらやましげに尋ねられる。

当時は当たり前に使っていたのだが、今改めて思うと、いったい「ほける」とはどこから来た言葉なんだろう。文的には、どのような活用形なんだろう。ほける、ほけたら、ほけたとききむむつ、これは難しい問いだ。もともとは、呆ける（ほうける）なのか、放る（ほうる）の変形なのか。

どうもあの語感、岐阜特有のものだ。それも、岐阜高校限定のきわめて狭い範囲だけに通じる方言なのだ。

今の岐阜高校で、果たして「ほける」ことはあるのだろうか。一時間も早く帰ってしまうことを平気で許容していたのは、生徒に対する大きな信頼感があつたからだと思う。柳ヶ瀬で遊んだり、徹明町で映画なんか見るより、みんな自宅に帰って勉強に励むに違いないという途方もない信頼感だ。そのありがたさ、幸せを感じず、当時はけっこう映画なんか見て帰ったりしていたものだ。

本稿をお読みになったかたで、もし「ほける」の語源、由来をご存知のかたがいらつしやったら、ぜひ同窓会でお教え願いたい。私の中で、それは、岐阜高校三年間のよき時代を象徴する言葉として今でも生き続けている。



三輪達つあんからの手紙

平光 孝司

昭和四〇年卒



定かではないが、卒業後、「どのような学生生活を送れば。」との質問の手紙に対する三輪先生のご返事は、私の答案を是とした上で、「先ず、本を読みなさい。」をはじめとして数々のアドバイスでした。推敲の跡や傍線の付いたお手紙は私の宝物です。

三年後、就職に当たって自分の第一希望とは異なる道を選ぶこととなった時にも、「大抵の人は、そこがどんな所であるかわからないまま、に自分勝手に想像して職場を考えているものだ。やがて配属される所が君に一番適していることもある。新しい職場で…、おめでとう、という所以だ。」とのお便りを頂いた。

その後も、折に触れ、関ヶ原のお宅を訪ね、相談したり愚痴をこぼしたりして、その都度的確なアドバイス頂きましたが、赤い枠で囲って新年に当たつての気概を披瀝される年賀状も、社会人生活を送る上で貴重な栄養になりました。

授業中だったか卒業後のことだったか定かではありませんが、「清濁併せのむ」等と言う

ことは、大変なことだ。大概は『専ら濁々』が関の山だ。」と、聞いたように思う。

最初に配属された花の生産振興を担当する職場では、上司にも恵まれて仕事に打ち込むことが出来た。その後の公務員生活三八年間、清廉潔白・純粹無垢とは言えないが、脳裏にこの言葉を浮かべつつ過ごして来たと思う。お陰で矩を踏えること無く役人生活を送り、又望外の大きな仕事を与えて頂いて充実した日々を過ごし、無事定年退職の日を昨春迎えることが出来た。感謝。感謝。唯々感謝。

新しい世紀を迎えた正月には、バブル時代の不始末に惑う社会を憂え、「今年は開かれた明るい時代の兆しを見たものです。」との賀状を頂き、四月初めには友と語って関ヶ原へ出掛け、駅前のお末廣で美酒を頂きながらいろいろご指導頂きましたが、猛暑の夏、体調を崩され奥様と二人揃っての入院中に、「ようやく毎日死を考える状態からまぬかれた。間もなく退院だが帰宅しても不便だし、…。御自愛下さい。」との葉書を

頂いたのは二千年八月末。二カ月ほど後には、不帰の客となられました。

近隣諸国との間に無用の軋轢を生み、激戦地であった沖縄の人々の神経を逆撫でするような事が起きたり、文民統制の要であるべき人の愚行を見るにつけ、歴史を学び「歴史に学ぶ」ことの重要性を難しさを今更ながらに感ずるものです。

更めて、三輪達先生のご冥福をお祈りします。合掌。

人生中間決算

柳原 三太郎

昭和四〇年卒



昭和四〇年三月、前年の東京オリンピックにあわせて開

通した国鉄新幹線の岐阜羽鳥駅より上京した。ホームに人影は無かった。四月下旬東京の清水谷公園で行われたベ平連（ベトナムに平和を市民連合）発足集会へ参加した。あこがれの人だった「何でも見てやろう」の著者小田実さんの熊みたいな巨体を間近で見て「やはりミヤコへ出てきた甲斐があった。」と嬉しかった。

波瀾万丈の二〇代前半をくぐりぬけ、二〇代後半に都営地下鉄の駅員となった。下町の浅草、蔵前、浅草橋、本所吾妻橋をめぐり、平成一九年三月に無事退職の日をむかえる事ができた。

まだまだ働けると四月一日から日本橋駅に移り再任用駅員をしながら二男の結婚式をすませた。この頃より高血圧が悪化。重度の睡眠時無呼吸症候群と診断され、降圧剤のほかにCpap（シーパップ）というイビキ防止器を寝る時は必ず鼻に着ける事となった。「ここが潮時かなあ。」と平成二〇年度の再任用は辞退した。駅では情にあつい先輩・仲間にも恵まれた。妻も教員とし

て三六年働いた。二人とも現場一筋で共働きして保育園、学童保育所のお世話になりながら二人の息子を育てた。息子達も就職し、よき伴侶を得て結婚し長男夫婦には孫も出来た。

自分では、なかなか良き人生を過ごしてこられたと感じている。

地下鉄の泊り勤務で欠乏していた太陽といい空気と土に触れる事は、これから回復運動しよう。四〇代に何年か習った太極拳を近くのオーブンカレッジで再開した。実に奥深い健康法だと痛感する。五十代に甲斐駒ヶ岳を最高峰に続けていた山歩きは、春になったら再開しよう。駅の仲間からは「似あわねー。」と言われても、昨年夏から始めた家庭菜園を充実させて、野菜を育てて食べよう。菜園から採りたての野菜の味は格別だ。

人生 お楽しみは これからじゃ。
（妻より）
本日は「東京に行けば吉永小百合に会える。」というのが上京の理由だったようです。最近、また小百合さん主演の「母べえ」を観て「相変わらずきれいだねえ。」と喜んでいました。（）

夫婦で「Shall we Dance?」

三輪智恵子
（旧姓・中島）
昭和四〇年卒

今から四〇年前、大学のサークルは活動資金を得るために、ダンスパーティーを頻繁に催したものです。ジルバの軽やかな曲ののって先輩達にステップを教えてもらい、楽しく踊ったのも青春時代の懐かしいよき思い出です。

五〇代になった頃、そろそろ自分の身体に老いの気配を感じようになりました。「これからの人生をもっと楽しむためには、まず運動をして元気な体づくりを！」と思った時、大学時代のあのダンスパーティーの光景がふと思い出されました。主人（三六年卒）も大学時代のサークルで踊った楽しさを思い出したのでしよう。それなら夫婦と一緒に楽しく運動できればと地域の社交ダンスのサークルに仲間入りしました。私達よりずっと年配の方がにこやかに笑顔で曲ののってワルツなど踊っ



ている姿はステキでした。

ある時、「せっかく夫婦でやるのなら競技会を目指してみれば」という先生の勧めに安易にのつたのが……。サークルで皆で楽しく踊る練習と異なり、競技会で見せるための練習法は高度で厳しく、「五〇の手習い」の私達夫婦は、背中も丸くなり、身体も固くなっていて、楽しいなんてとんでもない日々……。美しくみせるための無理なポーズに首、腰、膝に痛みが出て湿布をしたり、接骨院へ通院したり、元気な体力づくりのはずが、これではかえって体を痛めているのでは？と夫婦で苦笑いをしています。そして、悲しいかな、固くなった頭脳には、ステップがなかなか覚えられず、思う様に足も動かず、夫婦だからこそついつい

お互いの我がままから険悪ムードが流れ、先生にだめられる場面も多々あります。「もうやめようか」と弱気になる自分を励まし、夫婦でケンをカをしながらも十年以上続けてきました。

これは、エンビ服やきらびやかなドレスを装い、華やかなスポットライトの下で、ほんの短い時間ですが夫婦で踊る夢の世界に浸れる楽しさ、幸福を感じるからだと思つています。若い頃から経験しているペアにはとても敵いませんが、競技会の順位は結果であり、何よりも夫婦で踊れる楽しさ、幸福で私達は満足だと思つています。

社交ダンスは一見、優雅で華やかにみえますが、実はスポーツダンスの名の通りまさに体力勝負のスポーツだという事を実感しました。還暦を幾つか過ぎた夫婦ですの、二人でいつまで踊れるかわかりませんが、これらの老後を少しでも長く元気に踊り続けられたらいいなと思つております。



この数年矢鱈と同窓会や県人会などが大切に思える様になって来た。案内が来ると積極的に出席の返事を書く様になった気がする。在京岐阜県人会は理事を拝命するに至った。今迄はむしろ岐阜県の事や岐阜高校の出身を余り前面には出さない方であった。係わる事による時間が浪費と思われていた。

岐阜を出てから四三年の歳月が流れた。同級生を見ると自分の姿を顧みることなくその変わり様に驚愕する。けれど一方では信じられない位に肩の力が抜けて語り合える様になった。嬉しい事だ。互いにそれだけ人生の変節を経て

苦勞を重ねて円満になった印だろう。残りの人生の方が短くなった事は確かだ。私も苦勞もした。いや今も苦勞はしている。

昨年『総理の随行医』（大和書房刊）という本を著した。本の出版広告が九月一日の朝刊に可成り大きく出た。丁度その前日の午後安倍晋三総理の退陣表明があり、その報道と重なり、特に総理が外遊より帰国直後の入院、退陣という流れに符合し、ノンフィクション本としては珍しく五刷まで行つてしまった。「総理随行医」という異色の経験が妙にスポットライトを浴びる結果となった。

も十名以上の代議士達が患者メンバーに名を連ねている。昭和五七年西新宿の都庁に隣接する高層ビルの一角にクリニックを開いて今年で二十七年目となった。医師・職員数も非常勤を含めると七〇名を数える。平成三年からは会員制を中心とするクリニックとした。今では結構岐阜関係の方々の健康管理を担う事も多いが何より嬉しいのは同級生達の健康管理や、その家族等の相談を受ける事である。そんな時は話はずみ自然と診療時間も長くなる。

岐阜高校を卒業後、日本医大に進み医者となった。その後慶大内科に進み縁あつて総理随行医となった。鈴木善幸総理・中曽根康弘総理の外遊随行医として二三回の海外外遊同行、三〇カ国以上の海外を訪れ、その他都合四名の総理経験者の脈を摸る事が出来たのは得難い経験であった。この間に培った人間関係がクリニック開業後に多大なる影響を与えた事は間違いない。(今

私を追って上京した両親も母は既に他界し父も九三才を越し老境に久しい。故郷を失った様な寂しさは禁じ得ないが、忘れていた何かをいつも思い出させてくれるのは同級生だ。『功名が辻』を見る度に濃尾平野を懐かしみ、柳ヶ瀬ブルースを聞けば小柳町の友人の親父の店を想い出し、そして金華山に白雲が浮ぶ。厳しい進学勉強の合間を追って求めた下校の際の長良川のほとりの廻り道。かすかに触れた初恋の青い想い出も今は可愛く甦ってくる。

信じられない!

今の私

平井 花画

(旧姓・細野真弓)

昭和四〇年卒



人としやべるの嫌い、こども嫌い、出歩くの嫌い、学校嫌い、それが岐高時代の私。苦手意識は、今も変わらないが、何の因果か突然、岐阜県ユネスコ協会の会長になってしまった。ユネスコは戦後、文化や国際交流に軸足を置いていたが、私が会長になった頃から「世界寺子屋運動(つまり、教育の分野)」にシフトした。「ユネスコ世界寺子屋運動」とは、貧困、労働、慣習等の幾多の理由で、学ぶ機会の得られない子どもが現在、世界に九千万人、学ぶ機会が無いまま大人になった人が十億人、

うち女性が七割。その人達に学ぶ機会を作るのがユネスコ世界寺子屋運動。簡単に言えば「魚を贈るより、魚の釣り方を教える」支援。悩みは、この活動が目に見え難い事。

大金を投じて、学校を建て、何年か分の運営費を出すのは、意外と簡単。数年後に現地の人々が自分達で運営していけるように、その地に合う方法を探りながらのユネスコの支援は難しい。が、そうでなければ彼等の自立が促せない。しかも単に支援するだけでなく、私達も彼の地の人々から多くを学ぶ事も忘れてはならない。

引つ込み思案の私がユネスコに引き込まれた理由が三つある。一つには、勉強なんて大嫌いだったけれど、岐高で学び、なんとか大学に入れたことが私の人生を支えてくれていると感じる時、世界の、特に女性が、自分の名前さえ読み書き出来ないまま母親になり、その娘に「女が学ぶ必要は無い」と言う事にならないように、力が貸せるものなら……と、思うようになった事。ノーベル賞を受賞されたアル・ゴアさんは、前の著書「地球

の掟」で「地球環境問題を解決する最良で幸せな方法は、女性の識字である」と書いているし……。

二つ目、尻込みしていたのに近年、ベトナムの山奥(山道をマイクロバスで八時間)インド(お手洗いや無い道をバスで十一時間)、カンボジア等の支援先に日本の若者と訪問した。そして、現地の人々の学びへの情熱もだが、日本の若者の感性と真面目な思考と行動力に感動した。だから、今、出来るだけ多くの日本の若い人達の支援先へのスタディ・ツアー参加を考えている。

三つ目は、支援先の現状やなぜ非識字者を無くす必要があるのかを、岐阜県内の学校で話させてもらう。話をするのは、やはり苦手だけれど、行った先の児童生徒さんから「人生にこんな幸福があったのか!」と思うような反応が返ってくる。毎年、岐高の生徒さんも、事務局へユネスコの話の聞きに来て下さる。私は、教職なんかとても無理だと早々に諦めたのに、こんなに多くの児童生徒さんと出会い楽しい機会が持てるとは、岐高生

の頃を振り返ると、今の自分に戸惑いもする。でも、それが何かへの恩返しかと頑張っている。

最後に、「手伝って下さる方が同窓生から名乗り出てくださる事を願っています」

劣等生の

ひとりごと

小島 正憲

昭和四〇年卒



私は岐阜高校には、「楽しい思い出」がまったくない。なぜなら三年間いつも劣等生で、教室の片隅で小さくなっていたからである。だから同窓会など一度も出席したことがないし、岐高同級生との友達づ

きあいもほとんどない。そんな私に、先日、岐高同窓会の会報担当の方から、「高校時代の思い出や近況を会報に投稿してください」と、電話がかかってきた。断ろうかと思ったが、私のような劣等生でも楽しい人生が送れたということや皆さんにわかってもらえればと思いい、それをお受けすることにした。

私は勉強が嫌いだったので、岐阜高校在学中は、毎日登校するのが苦痛だった。還暦を迎えた今でも、岐高時代の試験や宿題のことを夢に見て、苦しんで目を覚ますほどである。当然のことながら、卒業時点の成績は五百人中の四百番以下だったと思う。それで



も身の程を知らず、名古屋大学の文学部哲学科を受け見事に落ちた。仕方がないので、滑り止めの同志社大学の経済学部に入った。

ところがその同志社大学で、無二の親友を作ることができ、生涯の伴侶ともめぐり会った。また中国経済のゼミにも入ることができた。そしてこれらのすべてが、その後の私の人生を決定した。私は大学卒業後、家業の縫製業を継いだ。一九八〇年代後半に人手不足に見舞われ、倒産寸前まで行ってしまった。仕方がないので中国へ工場進出した。ここで大学時代の中国经济専攻が生きてきたのである。九〇年代前半は、おりからのフォロワーの風で、中国の工場群が結構儲かった。

以後十五年余り、その儲けで事業を築き上げてもらった。中国では七か所で合計一万人の工場を経営してきたし、豪州やタイ、韓国、ミャンマー、ヨルダンなどにも工場を展開し、インド、フィリピン、サイパン、マダガスカル、極東ロシアなどでも仕事をしてきた。さらに現在、リビアとロシア：ユ

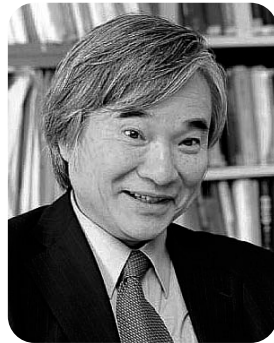
ダヤ人自治州に工場を展開するために調査中である。また香港やニューヨークにも事務所を持って、欧米向け製品を受注している。私はこれらの事業のすべてを自己資金でまかなってきたし、すべて現地で私が陣頭指揮をしてきた。

現在、これだけの体験を持つ日本人は、私を除いて他にはないと自負している次第である。そんな私も還暦を迎えて、そろそろ他人のために役に立つ活動を行わねばならないと思うようになってきた。そこで最近私は、私の体験を次世代の若者たちに語り継ぐために、著述や講演活動に多くの時間を割くようにしている。半年ほど前には、第四作目の「中国ありのまま仕事事情」を出版した。また「中小企業家同友会上海倶楽部」という組織を作り、中小企業家のための中国事業の支援活動をしている。

もし私が岐高時代に劣等生ではなく、運良く名古屋大学に入り哲学を専攻していたら、このような人生の展開はなかっただろう。つくづく人生とはおもしろいものだと思う。

たたらを現代に

永田 和宏
昭和四〇年卒



「たたら」が一般に知られ始めたのは、宮崎駿監督のアニメ「もののけ姫」が上映された頃である。この中で、室町時代を背景にたたら場で女たちが踏み輪を踏み、大きな炉が登場する。私は昭和五四年夏に関市の金子孫六刀匠を訪ねた。そこで簡単な鍛冶炉で砂鉄から三〇分ほどで鉄塊(ケラ)を作る技術を見て、目からウロコが落ちる思いであった。私の専門とする鉄冶金学では鉄鋼会社の大きな高炉で鉄鉄を造り、転炉で炭素を酸素ガスで燃焼させて脱炭し鋼を造る研究を行ってきた。大学で学生と小型炉を作って

書人不知 その1

「Yセンセイ」

あれはいつもの美術の野外写生の時間、二十分位で適当に描きあげた我々は、隠し持ってきた弁当を物陰でそそくさどたいらげ、「まだ腹が減っている」とばかり、近くの食堂へ潜り込んだ。金もないので、各々「すうどん」を注文したところ、後ろ向きに座っていた先客がくるりと振り向いた。な　なんと、(今は亡き)数学のYセンセイではないか……。これは「ズイ」とばかりに慌てて逃げ出そうとした我々をYセンセイは押しどめ「おい！どこへ行くう！　ええ若い者がすうどんでは体がもたんぞお。これも食べていけえ。」と、テーブルの上のガラス棚に入っていたぞぶらの盛り合わせを出してくれた。みんな、冷や汗をかきながら：無言で：ありがたく：頂戴した。明らかに授業をサボって食堂へ潜入したが、Y先生は我々を咎めなかった。あの時の胃の中に入ったのかどうか今でも定かではないなんともいえないぞぶらの味は、四十年以上たっても忘れることができない。

それにしても、アリガトウゴザイマス　人生の機微を教えてくださいなYセンセイ！

たたら製鉄を行うこと四年、ことごとく失敗した。改めて関市を訪れ、大野兼正刀匠の小型たたら製鉄を拝見してそのコツが分かった。以来、製鉄の原点を求めて最も簡単な銅塊や銑鉄を造る製鉄法を研究し、いわゆる「永田たたら」法を考案した。現在、炉づくりからケラ出しまで六時間（砂鉄二〇kgの場合）というレシ

ピがある。時間通りに進行し、炉材や木炭はホームセンターで全て調達できる。砂鉄は隣の河川や海辺で磁石を使って採取できる。毎年、小学校や中学校、高校、大学さらに科学技術館などから操業と授業の依頼が来る。昨年は、岐阜市長良東小学校から依頼があった。東京工業大学金属工学科では学生実験のテーマになっている。

島根県雲南市横田町の中国山地に今も昔ながらの「たたら」を行っている場所がある。高さ1.2m、長さ3m、幅1mの粘土で作った箱型の炉が高殿と呼ぶ暗い建物の中で、ゴーゴーという人の呼吸のような音と共に黄金色の炎を吹き上げている。村下の木原氏と裏

村下の渡部氏が三〇分毎に種鋤と呼ぶ木製の匙で砂鉄を炉に装荷する。すかさず炭灰が木炭を補充する。三日三晩の操業の後、炉は壊され中から三トンの大きなケラが取り出される。このケラから採れる「玉鋼」で日本刀が造られる。その優れた鋼の性質は現代製鉄法では実現できない。特に錆び難い性質を持っている。

もつと簡単に鉄はできないだろうか。そこで「電子レンジ製鉄」を考案した。セラミックルツボに粉鉄鉱石と黒鉛の粉を入れ、蓋をしてレンジで囲う。これを1kwの家庭用電子レンジに入れ、スイッチを入れる。五分ほどで「チン」と鳴る。ルツボから直径2cm程の鉄の玉がころりと転がり出る。

粉鉄鉱石を使うと非常に早く反応が進む。たたら製鉄では入れた砂鉄が二〇分程で銅や銑鉄になる。石炭を燃焼させて高温ガスでエネルギーを与える高炉法では粉は飛んでしまうので塊銑しか使えず六時間かかる。私は、電子レンジのマイクロ波をエネルギーに使う研究を行っている。二

〇五〇年までに炭酸ガスの排出量を半減させねばならない。化石燃料に依らない電気製の造が近い将来発展するであろう。電気を有効に使う新しい製鉄法の開発に燃えている。

子どもに 温かいまなざしを

勝野 洋子（旧姓・伊神）
昭和四〇年卒



私は、長年小学校の教員として勤め、今は適応指導教室に通っています。思えば、私なりにあるべき教育の姿にこだわりのながら、教員生活を送ることができたのは、岐高時代の恩師や演劇部の仲間の影響が大きかったようです。国

語の吉田先生、岡本先生、社会の三輪先生に、言葉や日本文化の美しさ、社会観、歴史

観を持つ大切さなど導いていただいたように思います。演劇部の仲間には、自分の考えを持つこと、演劇を通し、文化の価値観、政治観等々、それこそ私には受け止め切れな

いほど多くのことを教えられました。教員時代「何を子どもに伝えたいのか」を常に自分に問いかけ子どもの心に響く授業を心掛けてきました。また、子どもの声に耳を傾ける教師であり続けたいと思っ

ていました。ところが、教員時代の後半になると、軽度発達障害の子と出会うことになり、集団の中でこの子達の指導の難しさを思いました。しかし、情緒障害児学級や、精神遅滞児学級の担任の経験もあり、「私ならよりこの子達のこと

が理解してあげられるのでは」という自負があつて、該当の子がいれば、自分のクラスに入れるようにしていました。教員時代、このような経験をしてきたので、適応指導教室もその延長線のような気持ちで引き受けました。ところが、教室に通う子どもは、傷ついたり子どもなので、少し違いま

支え、認めることで自信を持たせ、回復させていきます。ゆっくり、ゆっくりですが、子どもは、自ら成長する力を持つていて、居場所が見つければ、立ち直っていきます。でも、そうでない子もいます。それは、乳幼児の養育期に、大きな問題を持つ子です。教室に來ている子の例では、乳幼児期の母子関係が希薄で、

一対一の対人関係の体験も乏しいと思われました。この子は、相手と好ましい関わりをもつてもその場限りで、相手との関係は育ちません。相手が自分が望まないことを求めてくれば、一度でよくない感情を抱き、相手を拒否するようになります。判断の基準は、自分にとって快か不快かということだけです。私たちの子ども時代は、子育ては、親だけでなく、祖父母も、近所の大人も加わりました。今の時代、

よくも悪くも親だけに育てられる子が大部分です。未熟な親に育てられれば、その子は大人になって、さらに未熟な親になってしまふという連鎖が生じます。これでは、社会に適応しない人が、増加して

いくことが懸念されます。

ところで、十カ月前まで、娘の一家が韓国で暮らしていました。私も孫に会いたくて何度か韓国に行きましたが、むこうでは、孫が行く先々で大歓迎されます。大人という大人が、にこやかに声をかけてきます。子どもは、みんな大切にされ、だれもが愛情を示します。日本では、こんな風景は全くお目にかかれません。一才八カ月で帰国した孫は、買い物に出かけても、レストランへ行っても、回りの大人からは、誰にも声をかけられず、とまどっていました。他人の事には、関わらないのが日本の風潮です。幼ない子どもをいとおしむという感情も、あまりわかないのでしょうか。

日本人は、もつと子どもを大切にしていかなないと、大きな問題を持つ社会になっていってしまうのではないのでしょうか。子どもは環境で育ちます。親だけでなく、社会で子育てをしていくという意識を持たないと、引き込みりや、反社会的な行動をする人達が今後増加し続けてしまうのではないのでしょうか。制度ではなく、

ごく身近なところでこそ、子どもへの愛情を示し大切に育てなければなりません。私は、今後も適応指導教室で一人でも多くの子と触れ合いたいと思っています。

あるベンチャー企業の軌跡

吉田 和彦

昭和四〇年卒



それは、突然の事でした。

NHKの夜のニュースで日航機が行方不明となっているとの報道がありました。その時は余り気にもしていませんでしたが、「そう言えば今日、社長のIさんが大阪に戻って来るはずだったが…」と気付き、以降の報道に注目していました。そして、夜半になって漸く乗客名簿が公表され、

不幸にもIさんの名前を発見しました。すぐさま、ご家族に確認の電話を入れたところ間違いなく、乗っていたとの返事で、お互い動顛の中、会社幹部への連絡と情報収集の方法を確認しあつたのです。これが会社設立三年後の苦難の始まりになるうとは、夢にも思いませんでした。

Iさんは五歳年上の富士通系SEで私は日本電気系のSE、お互いコンピュータの黎明期を創出している気概が有りました。丁度世の中にマイコンが出だした頃で、今までのコンピュータが大企業・中堅企業利用が主だったのが、中小企業さらには個人に利用範囲が広がる時期で、この潮流を捉えるべくIさんが社長、私が専務でベンチャー企業「アイク・コンピュータ」を大阪に設立しました。

当初はマイコン（後にパソコンと言われる）普及のためN新聞社と協賛で「マイコン革命」のセミナーを開催したり、Iさん著作の本をテキストに「パソコン教室」を百貨店の文化教室や大手スーパーD社と大阪・東京を中心に

展開して行きました。そうした中でシャープのS専務より日本で最初のマイコン見本市を開きたいと言っている人がいるので手伝って欲しいとの依頼があり、協賛する事になりました。それがソフトバンク孫社長との最初の出会いで、以降ソフト流通の世界で一緒でした。また、大阪のJ電機からは家電量販店として初めてパソコンを中心とする新店舗を建設するのでパソコンビジネス全般のコンサルティング依頼の話をいただき、目出度く「テクノランド」がオープンできました。その数年後東京のL社が同様の「コンピュータ館」を完成させ、家電からパソコンビジネスの転換が始まりました。こうした実績が広がるにつれ、京都のO社のパソコン新規事業のコンサルティングや上述のD社向けにはパソコンソフトの全国流通や東京本社1階での大規模パソコンショールームと教室運営を引き受けるほどになりました。

まさしくその時は、Iさんと交代で東京・大阪をピストンの如く往き来していました。

一方パソコンの世界もハード（機械）中心から次第にソフトへと需要が変わり始め、我々の会社も新機軸を定める時が来ました。既に個人向けにはワープロソフトの一太郎や計算ソフトのマルチプラン、カード型データ管理ソフト、Data Boxなどが普及し始め、企業向けには米国製データベースソフト「Base」も高額にも関わらず順調に販売を伸ばしていた時期です。我々は、このデータベース分野に着目し、より高機能で日本人にも分かり易い国産初の本格的なデータベースソフトを開発・販売しようとして計画し、その当時は珍しい基本設計と製品化は日本側で、開発は台湾で行う分業体制を実施し、幸いにして一年余りで完成させる事が出来ました。並行して米国進出を目指し英語版作成にも着手して行きました。また同時にこの製品の流通を行う新規の流通組織を主要企業の参画を得て別に設立し、軌道に乗せようとしていた所でした。

この最中に日本航空123便御巣鷹山墜落事故が発生したのです。

中小企業にとって主を亡くす事は即破綻に直結します。その後の日航との補償交渉は難攻を極め個人補償は勝ち得ても法人補償は決着を得られませんでした。またこの時の銀行団も残ったソフトウェアーを正当に評価出来ず、融資の道を絶たれてしまったのです。

あの悲惨な事故から二〇〇八年の夏で二三年を迎えますが、日本航空の独人的体質は変わらず、またコンピュータもITの名前に変わっても「モノ志向」と「ハコモノ行政」の両輪は変わらず税金の垂れ流し状態です。

現在は、IT関連のコンサルタントを現役で行っていますが、付き合いの有る米国やインド、中国（台湾）、韓国の取り組み姿勢を見るにつけ国の取り組み姿勢の違いに愕然とします。

日本のこの「不幸になるシステム」を早急に破棄・脱却すべきと願っています。



中村(佐光)さんを 読んで。

岡田淳子(旧姓・松野)
國井恵子(旧姓・吉野)
昭和四〇年卒

二〇〇六年九月に逝去された同級生の中村(佐光)慧美さんのことについて書きたいと思います。彼女は四〇年卒首都圏同窓会の設立に大変尽力してくれました。この四〇年卒同窓会の存在が一昨年催行された首都圏岐阜高校同窓会の幹事学年としての活動に大いに助けになったと思っています。今から二〇年以上前、「同窓会名簿で近所に住んでいることが判った。」と突然、彼女から電話がありました。高校時代と変わらぬ朗らかな声でした。故郷を遠く離れて生活している者は、いつも寂しさと緊張を感じて暮らしているように思います。そんな時、岐阜高校の同級生の存在は心強くまた、ホッと安心させてくれるものです。それ以来、子育て、岐阜の思い出話等、東京生活の支えとなってくれました。



彼女は岐阜高校の佐光校長先生のお嬢さんだったこともあり、岐阜高校の同窓会に心を持っていたようです。それで首都圏に住んでいる女性に声をかけて一度集まってみようということになりました。そうしましたところ、十数名も集まり、その後一年に一度位のペースで会っていました。ちようど子供たちも手を離れつつあるところで、また女性の生き方も考える時期にさしかかっていった時期もよかつたのでしよう。その後、男性にも声をかけて盛大にやろうと一九九五年に帝国ホテルの

同窓会パックで第一回同期会を企画。五〇名以上集まり大盛況でした。名古屋からも女性四名も参加していただき華やかな会になりました。隣で帝国ホテルの犬丸社長の慶応幼稚舎の同窓会が行われていたのを覚えています。彼女は企画から運営と中心となって活躍してくれ、元気で華やかな司会ぶりも印象に残っています。久しぶりに会う男性たち

ちはみな立派に社会で活躍しているように流石に岐阜高校の人と頼もしく、嬉しく思いました。その後もヒルトンホテル、アメリカンクラブ、学士会館、と続き今に至っています。一昨年の首都圏岐阜高校同窓会でも幹事学年として執行部から絶賛されるような会になったのも、彼女が学年幹事としてずっと支えてくれた賜物と思います。写真や寄せ書きを持って報告に伺ったときは、頑張れば出席できたのに残念な様子でした。それから程なく病篤く、九月に還ら

ぬ人となりました。とても辛く、淋しいことですが彼女の思いを大切に、益々、岐阜高校同窓会が発展されることを願ってやみません。

時間

中山 真一
昭和四〇年卒



年々、時間が経つのが早く感じられるようになってきた。「ゾウの時間ネズミの時間」(本川達雄)によると大きな動物の時間はゆっくり流れ、小さな動物の時間は早く流れる、同じ種の子供と大人に当てはめると大人はあまり活動しなくなり物理的な時の流れを速く感じるというところらしい。活動が鈍化してきたのか? 物的にはこれまでの半分もない残りの時間が更に速くな

れるのか？

体については、昨年ドクター・ストップがかかったが、トレイルランニング、マラソンの記録は上昇中であった。一定のスピードで走り続けるのは意外に苦しくなく走り終わった後もストリーと達成感がある。ゴルフのチョロの連続と後ハーフ位回りたいのというフラストの集積とは違う。ハーフ・マラソンはキロ五分を切り、フルはサブ・フォー一步手前まで来た。これは高校時代、毎朝「四屋」まで走っていたおかげかもしれない。ただ疲れが二日後位に出るので、やっぱり肉体活動は鈍化してきたということか。

知的な面では度忘れが多くなった。記憶が鮮明なのに名前だけ思い出せないことが多い。これは年々記憶している量が増えれば忘れる量も絶対的に増えるということもある。うし、もともと単純な記憶は苦手であった。高校時代、英語の時間に毎回赤尾の豆車で十語暗記する小テストがあったが、よく引つかかった。理屈を理解するのは楽しかったが単純な記憶作業は嫌いであ

った。どうしたかというのと、英単語では対訳本を辞書と訳文を頼りに読む、歴史系はよ

り詳しい本を読むというように、単純でなくすという迂遠な方法を行った。最近ネット上でネットの辞書を使って読む所為か、なかなか憶えられない。やはり知的能力も落ちて

いるのか。興味・好奇心の対象は歳とともに抽象世界(数学)から現実世界(政治経済)、そして歴史へと移ってきているが、基本的には複雑な動きのなか

にある本質を見出すことに楽しさを見出す。「定説」を鵜呑みにするのではなく、何でも疑ってかかるところから出発するので結構大変だ。もっとも安直な疑似体験として、ストーリー・テラーの小説を

次の展開を想像しながら読んでいる。若いころの人間は何かというシリアスな小説と比較すると墮落し、やはりという気もしないのでもない。こうしてみると、年をとり活動が衰えて物理的時間の経つのが速く感じられるというのは、半分以上当たっていいうだ。今後色々やり残しは出

ようが悔いのないように過ごしたい。その間にも「人間はどこから来てどこへ行くのか」という問題にも自分なりの答えを探したい。これは、子供のころ宇宙が膨張している、さらにはビッグバンで宇宙が発生したという説に接し、そもそも宇宙は何処で膨張しているのか、何処で発生したのか、さらにその中の極々小さな存在自体のあやふやさに恐怖感を持ったところから気になっている。

今までのこと

そして

石原 隆昌

昭和四〇年卒



旧加茂郡富加村生まれ、同級に加藤君の尊父の奨めと支援のもと岐高に入学できた。朝六時前に起床し通学した。

書人不知

かきびとららず

その2

「純情 岐高生？」

花も蕾の十八歳。天下の岐高生といえども、世間並みに思春期は訪れる。「性」に対する好奇心が日々強くなっていった昭和三九年の夏だったと思う…。M座やS劇場と呼ばれている所のいわゆる「実演」を見たいと思っただけ、切符を買う度胸はさすがになかった。しかたなく、映画でも…と思うが、これまた「成人指定」の看板がやけに重くのしかかってくる。しかし、「世界残酷物語」や「世界民族物語」というドキュメンタリー映画を観ては蘆薈を傾け映画少年を気取っていた自分としては、当時の映画監督の第一人者とされている今村昌平や武智鉄二の映すエロスの世界をなんとしても観たくなった。そこで、ある日、悪友のS君と意を決して成人映画館へ乗り込んだ。当時の男子高校生では岐高生のみが長髪OKであったのを活(?)用し、私服を着て、精一杯大人の振りして変装…。窓口のもぎりのオバチャンが「あんたたちいくつう？」と聞く、「ハタチ…」と答える。オバチャンは怪訝な顔して「何年生まれ？」「千支は何？」と畳み掛ける。我々は答えに窮し、万事休して撃沈。しかし、ここで学んだことを生かさなければ岐高生の名が廃るとばかり、後日、予習復習ならぬ予行演習をみっちり行い、別の映画館へ変装した。みごと成功！もぎりのオバチャンはきつと見破っていたと思うが…。オバチャン アリガトウ！

二年生の時成績が下がったので一五歳上の兄の手配で三年生から高校正門前のお宅に下宿し何とか希望校に入れた。機械学科だったが特段好きで得意だったわけではない。「まじめ（褒め言葉ではなさそうだが）だから文科系は無理だろう機械系はツブシが利くし人文学科だ」という空気で決めた、自主性はない。

教養部では数学と物理の授業の進展に追いついていけず、その他の文系の授業の方が面白くなった。柄にもなく合唱団と技術思想を研究する集まりに出て色々な人と交わった。学部ではメカは苦手で動かない塑性加工の講座を選んだが追従が精一杯、同じ実験テーマで岐高同級の森君のお蔭もあってやっと卒業できた。レポート未提出の夢を今も見る。

子部品部門の品質保証担当。

ここは研究開発部門の敷地内に立地していたので、電子、医薬、バイオ、石油、セラミックス、センサー、分析技術等の碩学、専門家、才能ある若者と接触できたのは大学教養部での経験と似た面白さがあった。当方一応品質保証の専門、複数の製品群を扱う新規事業で、色々な会社出身の技術者が夫々ご自分の経験で品質保証像を語られる。これらをまとめる解決策として見つけたのがISO基準の品質保証体制、九一年頃のことである。

子会社のISO九〇〇一認証取得に注力し九五年に達成自分で仕掛けたこと、文系理系を含めた今までの広く雑多な興味の対象とも近く、心底楽しめた。この認証を事業部全体に広げる予定でいたが当事業から撤退の会社方針。九六年に希望退職制度に乗ってやむなく退職。

手術手配その後でお世話になっている。会社という共同体から離れることには不思議と不安感はなかった。種々の交わりの他、趣味を仕事にしたのも大きいかもしれない。

米造船協会系の審査機関で、品質、環境、労働安全衛生の審査員を主に、頼まれれば認証取得支援を行って一年になるが、その面白さはまだ増して行くと思っている。

開始から二〇年過ぎたISO基準の品質保証体制は、第三者認証制度と相まって、環境、労働安全衛生、食品、情報、医薬医療等へ膨張させようとしている様子。日本では品質と環境は頭打ちで縮小傾向だが、生い立ちを辿れば、現在の状況は全体としては繰返しのほんの一齣に見える。

約一七〇年前のロイド船級協会、約七〇年前の世界大戦で米国反撃の基となる戦時標準船基準、戦後の品質保証用米軍規格、原子力発電関連・一般そして食品、医薬品等のGMP、欧州等でも次々と品質保証規格ができた。そしてISO九〇〇一。

機関を設置」という解決策が出されるが、本来の狙いに沿って運用されていくのかは定かではない。形式だけ、手抜き、最近では偽装も目立ってきた。

「第三者機関は実績で評価され信頼を得るもので国等の上部のお墨付きは二次要素」という第三者判断の本質を考えながら、現役で審査できること、そしてこの「第三者判断の本質」を多くの人に解っていただけすることもこの仕事の一つの楽しみと考えている。

岐高と大学卒という「お墨付きと拠所」の恩恵に預かった者として、母校と関係者に「何か恩返しをしなければ」という思いになって来ている。

還暦を

過ぎてなお感う

大江 俊夫

昭和四〇年卒

○はじめに

不器用なことは、この一文だけではない。生き方もそうである。還暦を過ぎて、いまだにいろいろなことに気を過探み、悪いながらの日々を過



ごしている。この一文は、日頃、自分が思っていることや、やっていることを書きながら文中にもあるよう協力者が現れることを期待している。

○永い教員生活を終えて

後半一〇年ほど、生徒指導や教育相談をやってきた関係で、いろいろな子どもや親を数多く見てきた。初めは「私が問題や困難を解決してやろう」と取り組み、一定の成果も上がった。しかし、うまくいかないこともあった。そんなことから心理系の研修会や学習会に首を突っ込むようになった。そのようなことを積み重ねながら、最近気づかされたことは、「助けてやろう」とか「救ってやろう」という思いの中に潜む私の傲慢さやいやらし

さである。この傲慢さは、今も私の中にあつて、油断をすると時々顔を出す。自分の気づかないところでそれが顔を出すから始末が悪い。その後で、自分の中にある傲慢さを見つけ自己嫌悪に陥るのである。

○今、不登校生徒たちと

退職した今、北方町で不登校生徒たちと、週に四日生活している。毎日、公園へ行って子どもたちとキャッチボールをしたり、勉強やゲーム、卓球、時には調理実習(写真)などをしながら、健康的な生活をしている。子どもに寄り添い、子どもの心を見つめながら、子ども自身が自分の中にある前向きに生きていく力をいっしょに見つけ出そうとしている。しかし、たまに、子どもの心の状態と、こちらの思いのずれが大きくて子どもが来なくなってしまうこともある。そんな時は、私自身を振り返りながら、自分の力の至らなさを味わっている。

○NPO団体との関わり

現在、「NPO法人岐阜ソーシャルワークアソシエーション」という団体とも深く関わっている。今、社会のひずみや様々な人間関係の中で起

きるトラブルの渦中で苦しんでいる人たちがいる。いじめ、不登校、引きこもり、そして虐待、DV、増加している自殺者など毎日のニュースを見てもその現状が分かる。

私の所属するこのNPO団体は問題や困難を抱えた人たちの理解者になり寄り添うことで、自らの力で歩みだす手助けをしたいという人たちの集まりである。教員、相談員、看護師、保育士、主婦といった人たちが、ソーシャルワークやカウンセリングの研修・研究を積み重ねている。この団体が岐阜の地に根付き、事業体としても自立していくことを願っている。事業の内容は、①ソーシャルワーカーやカウンセラーの養成講座(基礎講座は今年五期目)、②公開講演会、③相談事業(電話、メール、対面)、④研修会の講師派遣など、無料もあるが有料もある。この同窓会会報に、

広告も載せたが貧乏団体なので小さな広告しか載せられなかった。

当面、安定した財源の確保と拠点の充実が課題である。特に拠点として、三部屋(事

務室、電話室、カウンセリングルーム)あり、できれば車が五〜六台置けるような所でさらに賃貸料が格安な所を探している。現在、日野の狭いアパート一室を借りているがとても不自由している。この一文を目にされた方で趣旨に賛同されたり、大江に協力しようと思われる方はぜひ、ご一報ください。

○終わりに

なんだか青臭いことを書いてしまったようだ。還暦を過ぎててもなお落ち着かない生活をしている自分はこれでよいのかと思うこの頃でもある。



私は大学卒業後「農業の教員」として勤務し、昨年三月退職いたしました。四六歳の時「農業高校生海外実習派遣事業」

に引率者として参加し、ブラジルにおいて農業と関連した体験実習、視察見学、親善交

かきひとしらす
書人不知
その3

「今だから言える、私の高校時代」

私は那部出身、中学校迄はお山の大将、自負するつもりはないが、勉強もスポーツも出来た。通信簿もオール5だ。(県レベルではなかった)。それが我が校に入るやレベルの高さに驚き上には上がっている事を思い知らされた。毎日が予習復習の連続、いや予習は出来ず、復習だけでも満足に出来なかつた事を思い出す。しかし真面目に机に向つていたのは事実だ。育ち盛り、食(盛り)の私は母のこしらえた弁当を持ち五十分程の自転車通学。今から思えば、よく風雪雨に耐えたものだ。頭より体を動かす方が得意な私、通学で体力を使い、学校に着くや腹がグーグーと泣く。一時限・二時限終るやカバンから弁当を取り出し、皆の目も気にせず、バクバクと。昼食時には弁当はなく、パンと牛乳を購入。常に腹にモノを入れていないと満足しない私。血は腹にあつて頭がない。その結果、成績はそのままついて来た。けれど後悔なし。勉強ばかりが能じやない、思い出多い三年だった。卒業して四〇年になるも未だ食欲衰えず、すっかりメタボになり、学生時代の面影はない。しかし今日迄現役で働かせてもらい、大病もせず、友達にも恵まれ、今もエンジョイの人生を送らせて頂いている事に感謝〜で合掌。



ロンドリーナ市庁訪問 (中央右が私)

つてきた方々の想いが忍ばれようなきがしました。「ブラジルでひと稼ぎして故郷へ錦を飾ってやるう」という気持ちでできた者も多かったが、ブラジルでの生活は抱いてきた「夢」とはひどくかけ離れたもので、故郷日本を想いながら苦勞して生活してきたものだとお聞きしました。

流などを体験しました。二五日間程の研修でしたが、岐阜県出身者の日系ブラジル人へ組織する「岐阜県人会」の方々にお世話になり、彼らと接するなかで日本人として感動したこと、考えさせられたことについて報告いたします。

「このあたりは、まるで日本の山村を見ているようだ。違うのは、赤い屋根瓦、点在するバナナの木、それに時々見かける黒い肌や金髪の人」、サンパウロ近郊の宿泊農家へ団員を送るバスの中で、ふとそう思いました。同行の日系の方にお話ししたところ、「この地域は日本の風景とよく似ているので、多くの日本人が入植した」と言われました。日本を離れ遠いブラジルへ渡

からよいのではないかと言う方もおられました。



移住当時の過重な労働

ブラジルへは多くの国からの移住者がありますが、農業への貢献という点では日本移民の功績が他に比べ格別

大きいと言われています。すなわち、現在のブラジル農業は日本人によって築き上げられたと言っても過言ではありません。ブラジルの日系人約百万人のうち二〇万人前後が農業に従事しています。この数字はブラジル全農家の僅か〇・六%ですが、生産額では一二%であると言われています。

ブラジルで最大のセアザ市場では日系生産者が七割を占めており、日系農業者により設立された農業組合はブラジル各地の農地開発を行い、多くの農業試験場を持っています。しかし、インフレによる経済不安定、政府の農業政策の見切り、若者の農業離れなどブラジル農業は深刻な状況にあります。そんななか、日

系農業者がそれぞれの地域で不況を乗り越えるため頑張っておられる姿に触れ、日本人として胸をうつものがありました。サンパウロ近郊の農家では比較的不況に強い果実、花を栽培していました。団員達が宿泊実習でお世話になった農場では、ハウスによる高度な栽培技術により新しい花、品質の良い花を作り、不況を乗り越ろうと頑張っておられました。

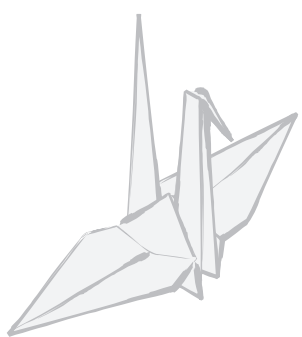
ブラジリア近郊の農家は日本的な小規模農場（小規模といっても四ヘクタールの農場）ですが、手をかけて質の良い農作物を栽培したり、品種改良などもやっておられました。「大規模に農産物を栽培するより品質の良い物を作った方が確実で良い収益になる」と、言っておられました。アマゾン川河口近くにある果樹栽培農家では、従来栽培していたピメンタ（こしょう）やカカオだけではだめであると早くから気付かれ、クパス、マラクジャ、アセロラ等の新しい熱帯果樹の栽培を数年前から始められました。

こうした日系農業者の方と接して強く感じましたが、農

業に対する考え方や取り組みがすばらしいということですが「農業に夢を持っている」「農業が本当に好きである」と感じさせる方ばかりで、自分で判断して良いことはどんどんやる、というチャレンジ精神が見られました。また、新しいものの研究や導入など、常に将来を考えた農業経営をしていました。

ブラジル移民百周年を過ぎましたが、日本を離れ遠いブラジルへ渡った日本人が異国の地ブラジルで苦勞を重ねた歴史や現在活躍している姿を目の当たりにし、日本人として奮い立たせるものがありました。

「若者は夢を持って、一人の夢が社会をすばらしいものに変える」、ある日系の方が言われた言葉が印象的でした。



胡椒爆弾事件

土川 三郎

昭和四〇年卒



岐阜地方裁判所の斜め向かに公会堂が建っていた。今ある市民会館は竹筒を斜に伐ったデザインで、斬新というのか、まあ好きずきだろうけど、昔の公会堂もどっしりした風格を印す建物だった。高校時代は「スクラップ&ビルド」ということがささやかれるほどだった。大正そして昭和、それも戦後の建物がつぎつぎに解体されて、建築家が競うように公共建物建設ラッシュをしていた。

校庭にある建築の覆いを掻き潜り、打ちっぱなしのコンクリートの上に足跡を付け、ニョキニョキ鉄筋が生えている駆体の上を飛んで階上へ上るといった、悪戯鬼の楽しみ場をそこは提供していたのだ。

悪戯鬼の戯れ。

鴉の群れの中身はどうなっているか知るよしもないが、意匠となると度肝を抜くやつがいたなあ。あまたいる鴉のなかから頭一つ出るのは、地元産業の息子たち。岐阜はそのころ、縫製業がまだまだ盛んだったからだろうか。学生服の単調な黒の外見に反して、真っ白なシルクの裏地、そのコントラストだけでも、十分

(鈴木) 清順調だよ。そういう奴らの、目立ちたがりの骨頂を真に受け止めるにおつりが来るほど十分だ。浮世絵美人が肩から襦袢をずらせ、内ポケットの鈕が、ちょうどピシンの乳首になっているという、なんとも羨ましいデザインだった。

後学のためにもうすこし拝ませてもらいたかったが、青い尻を抜かすほどには堪能さ

せてもらえなかった。そんな婆沙羅が赦されるほど時代はくだけていない。見つければ親の呼び出しは必死だ。そんなこんながいたるところだ。

そうして胡椒事件は起きたというより起きてしまった。

三日間の学校祭の中日は文化祭。市の公会堂で胡椒爆弾が炸裂した。お昼に蕎麦屋かなんかで調達した胡椒を紙に包んで、二階席から投げ込んだのだ。

一年九組が疑われて、昼休みも返上して応援歌の練習にお昼が潰されたのだった。

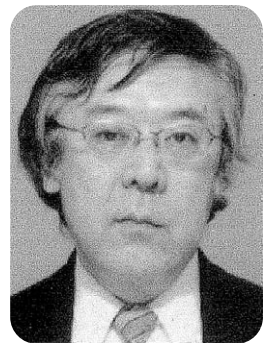
余談だけど、翌年は学校祭が一日に縮小された、生徒会が頑張ったけれど、何とも事件の余波は乗り越え難かったようである。

岐阜時代の思い出

小林 千秋

昭和四〇年卒

私の岐阜時代の思い出といえば、「演劇部活動」と「三年間の名鉄美濃町線電車通学」



そして「大学受験勉強」の三つに集約できる。

しかし、「勉強」については人様に語れるほどの成果は出せなかったもので、ここでは、楽しかった「部活」と「電車通学」について記すことにする。

まず「部活」についてだが、演劇部に入部したのは二年生になったばかりの時だった。きっかけは、この同窓会報の編集委員をしている田中常隆君と一年時に同じクラスで、彼が入部を誘ってくれたのだ。たしか二年に進級したばかりの土曜日の午後、グラウンド脇の土手で昼食のパンを食べた後、ぼんやりしていたところに、田中君が話しかけてきた。「おい小林、演劇部に入らないか、楽しいぞ。」

その時、即答はしなかったが、結局、やはり一年時同じクラスで美濃町線の下芥見から乗ってきていた通学仲間の菅尾（現姓・鰐部）好道君と一緒に演

劇部に入部したのだった。

高校時代といえば青春まつただ中、おそらく人生で一番ノリノリで楽しい時であろう。だが、私の高校時代はすべてが灰色ではなかったが、それほど楽しいものではなかった。超進学校の岐阜高校である。一部の成績優秀者を除けば、大部分

の同窓生がそうだったのではないだろうか。私も、ほんの一時だけ東大・京大進学の間だけ見ることができた程度の成績だった。ようやく三年生後半になって勉学に力を入れ始めたがすでに遅し、国立二期校はスクラ散り、浪人するほどの根性もなく、実力相応の大学に入って納得したのだった。もう少し努力すればよかったとの悔いは現在も払拭されていない。

すなわち、私の高校生活の中心は、勉学よりも演劇部で人前で演技をすることなどにまつた経験も興味もなかったにもかかわらず演劇部に入部したのは、美濃市の中学校から入学したため親しい学友も少なく、また、そのころ、小学校時代から好きだった女の子が神戸へ転居してしまい、ぼつかりと虚しさを感じていた心に、田中君の

勧誘がすつと入ってきたからだった。田中君に熱心に誘われ、演劇部室を覗き、そのやや不良っぽい自由さに魅入られてしまった。また魅力的な同僚・先輩達もいて、薄暗い部室でダべつたり、歌を歌ったりすることが楽しく、さらに全員で脚本を選び、それを読み合わせて解釈を深め、一つの舞台を創り上げていくという演劇部本来の活動も楽しく、最後まで居つくことになつてしまった。

名鉄美濃町線は数年前に廃線になつてしまつたが、明治時代製造の木造の二両だけ(時々二両編成もあったが)の電車での「三年間の美濃町線通学」については、往復約三時間の通学を三年間やり通したのは、多少自慢してもいいかなと思つている。成績がもう少し良かったら大きな声で自慢するのだが。

例年、母校・美濃中学校から岐高に進学するのはほんの数名で、昭和三七年入学組も、私と日君の二名だけだった。美濃町線の始発である「美濃市駅」から終点の「徹明町駅」まで約一時間、そして乗り換

えて市内線で「西野町駅」へ。自宅を午前六時四五分頃に出て、校門をくぐるのは八時十五分、たつぷり一時間半はかかる。帰りも、まっすぐ帰宅しても夕方五時近くだ。岐高の厳しい授業に脱落せずついていくのはなかなか困難だ。美濃中学から進学した人は一年の夏休みが過ぎると学校の近くに下宿するのが通例だった。日君も一年の後半から下宿生活に入つた。私の兄も弟もそうだった。けれども、私は家を離れることは考えなかつた。さびしいのは嫌だったし、電車通学を貫徹するのがカッコ良く思えたせいもあった。始発駅から乗車するので、ほぼ毎日座ることができた。

一年時は、木村先生(あだ名はニグロだった)の授業では毎時間英単語の小テストがあり、赤短の単語を七ページ分暗記しようとするのだが、関駅を過ぎ、日野橋駅あたりまで来るころにはグッスリ眠りかけているのが常だった。

「部活」と「電車通学」と「学業」を鼎立させるのは困難だった。演劇部の活動を熱心にやっていると、だいたい

二二時過ぎの終電車になつてしまい、自宅に着くのは真夜中だ。夜食、風呂を済ませ、深夜番組を聞きながら少し勉強して床に着くのは三時か四時。これでは朝、起きられるはずがない。かといって、遅刻してノコノコ教室へ入つていくのもカッコ悪い。休むことにしよう。それでも楽しい演劇部には顔を出したい。それで、終業時刻に合わせて登校することが多くなつた。下校する同級生たちとすれ違つて登校したのだつた。

二年途中からそんな日が多くなり、三年では、週の半ばの水曜日、木曜日はかなり欠席した。水、木に授業のある科目はヤバイ。世界史がそうだった。なんとか赤点はとらずに済んだが、卒業後四〇年以上たった今でも、授業時間が足らず卒業できそうにないという怖い夢を見ることがある。

こうして書いてくると、まだまだ楽しかった思い出、苦しかった思い出が湧いてくる。機会があれば、また書かせてもらいたいものだ。

レアメタルに出会ってから37年…

渡邊 英暉
昭和四〇年卒



最近レアメタルが高騰してニュースになることが多くなりましたが、いったいレアメタルとはなんだろうと思われている人が多いと思います。レアメタルというのは学術用語ではなく希少と思われる金属の俗称です。

私がレアメタルに関わつたのは一九七一年アメリカの鉱山会社に就職し、モリブデンの用途開発のための研究所に属したのが最初で、もうすでに三七年になります。

研究員から、市場開発、モリブデンの販売、転職して商社マンを経験し、今では独立して各種レアメタルの輸入販

- ① トピックス
- ・日紡貝塚女子バレエ世界制覇
 - ・ピートルズレコードデビュー
 - ・YS11完成
 - ・ファイティング原田 世界フライ級王座に
 - ・ラジオ岐阜放送開始(4番目)
 - ・唐十郎、状況劇場結成
 - ・新三人娘(中尾ミエ、伊東ゆかり、園まり)デビュー
 - ・無責任男ブーム
 - ・三河島列車事故
 - ・三宅島噴火
 - ・世界初の1000万人都市、東京
 - ・マレード号太平洋単独横断
 - ・キューバ危機
 - ・ソ連宇宙船、初のランデブー飛行
 - ・春の甲子園優勝(作新学院(栃木))
 - ・夏の甲子園優勝(作新学院(栃木))
 - ・日本シリーズ優勝・東映フライヤーズ
- ② 物価
- ・サラリーマン平均年収 61万円
 - ・大卒初任給 17815円
 - ・ガソリン(リットル) 45円
 - ・コーヒー(杯) 62円
 - ・ビール(大瓶一本) 115円
 - ・たばこ(ハイライト)一箱 80円
 - ・新聞購読料(一月) 450円
- ③ 流行語
- ・スカッとさわやかココロコラ
 - ・吹けば飛ぶよな
 - ・無責任時代
 - ・ハイそれまでよ
 - ・あたり前田のクラッカー
 - ・世界残酷物語
 - ・三ちゃん農業
 - ・おわかりかな
 - ・分かっちゃいるけどやめられない
 - ・どーんといっぺみよう
 - ・気楽な稼業
 - ・パツチリヨ
 - ・かあちゃん、いっばいやっか
- ④ 音楽
- ・日本レコード大賞(いつでも夢を)橋幸夫、吉永小百合
 - ・江梨子
 - ・寒い朝
 - ・恋は神代の昔から

売をしています。

人と交渉するのが苦手な高校では技術屋になろうと理科系を選びましたが、現在商売ができているのはレアメタルのお蔭だと思います。

レアメタルの一番大きな用途は鉄鋼・銅・アルミ等基本的に構造材として使われている材料の合金添加剤であり、クロム・ニッケル・モリブデン・タンゲステン等がその代表的なものです。レアメタル

の典型的な応用例にはステンレス鋼があり、一八%クロム一八%ニッケルを含有しています。ではステンレスが何故錆びないかというと、クロム含有量が高い為空気中の酸素と結びついて鋼の表面に酸化クロムの皮膜を形成するからです。傷がついて酸化皮膜が破れても、瞬時に酸化クロムの皮膜が再生されます。すばらしいですね！最近ではIT関連の分野でもあたらしいレアメタルが使用されており、液晶のインジウム、テレビのイットリウム、電池のリチウム・コバルトバッテリー、ハイブリッドエンジンに多く使用されている磁石のネオジ

ム等があります。皆それぞれの用途ですばらしい役割を果たしています。現在レアメタルが高騰している背景には、中国経済の発展があります。中国の二〇〇七年鉄鋼生産量は昨年四億八千万トン。これは世界の二七・五%に当たり日本・米国・欧州の全生産量よりも多く、二〇〇一年の五・四%から比べると、驚異的な伸びです。

自動車の生産はというと、昨年七百万台、日本の千百万台にはまだ及びませんが、すぐに追抜かれ、数年のうちに世界一位になるのは目に見えています。本来、原料の価格は需給バランスにより決まります。これだけ需要が急激に増えれば高騰するのが当たり前です。主なレアメタルは原油価格共に上昇してきました。今後このパターンが続くと

思われます。

思われます。



かきひとしらす
書人不知 (その4)

「雑感」

さて時代は中学校までさかのぼります。

入学時は全学年で四〇〇名以上いたと思いますが、成績順位は二〇〇番台。三年間頑張った卒業時は二〇番ぐらいいいたと思う。

担任は、よく頑張った、岐阜高校は合格はする、しかし上位には行けないだろうといっていた。

さて合格発表の日、父親としては心配であったのか仕事の途中で来ており、会場ではなかった。合格しており、岐阜県で一番の高校に入学したと、家族は自慢の息子と思ったに違いない。

さて一年生になり、いざテストが始まり成績が戻されて得点を見てみると、なんなんどほとんどが二〇〜三〇点。なんとレベルが高く、難しい問題ばかり。ここでやつと中学の先生の言っていたことが実感。

まあそれでも何とか落第もせず卒業できた。

さて三年間で印象に残っているクラスメートは、特に一生懸命勉強していたと思われないが、いつも成績上位で東大に行った奴。ホームルームの時間は、無駄と思つたのかいつも帰ってしまつてほとんど話をしたことがなく、名前も覚えられなかったガリ勉タイプの彼。半分落ちこぼれそうで、よく昼休みには生垣の間から抜け出して、食料調達に行ったメンバー各位。

いろんな人がいたが、ほとんどはよく勉強していた。

この年になって、同級生を見てみると、海外、東京、また地元でも、いろいろな分野でトップクラスで活躍している人がいかに多いことか！

私も職業人としての終盤近くなつたが、何とか自分なりに満足できる状況にあるのは、優秀な同級生に恵まれたことと思う。

在校生のみならず今は勉強するとき(遊ぶ機会は後でいくらでもあります)クラスメートと切磋琢磨し、岐阜高校がいつまでも県下のトップ校として存続することを願っています。

ヴァケイション

赤いウカチ

下町の太陽

鳥育ち

王将

遠くへ行きたい

小さい秋みつけた

愛さずにはいられない

電話でキッス

霧のサンフランシスコ

トゥナイト

⑤文学・ベストセラー

芥川賞「美談の出発」川村晃

直木賞「天才と狂人の間」杉森久英

直木賞「江分利満氏の優雅な生活」山口瞳

直木賞「孤愁の岸」杉本苑子

愛と死のかたみ

徳川家康

性生活の知恵

野生のエルサ

日本百科大事典

⑥映画

アラビアのロレンス

椿三十郎

キングコング対ゴジラ

銀座の恋の物語

キューポラのある街

破戒

史上最大の作戦

世界残酷物語

101匹わんちゃん大行進

ウエストサイド物語

太陽はひとりぼっち

スルタカス

⑦テレビ

シャープさんフラットさん

アベック歌合戦

てなもんや三度笠

隠密剣士

ベンケイシー

コンバット

⑧有名人を偲ぶ

室生犀星(72歳) 詩人

マリリン・モンロー(36歳) 女優

柳田田男(87歳) 民俗学者

ヘルマン・ヘッセ(85歳) 作家

吉川英治(69歳) 小説家

フロッツクライスター(88歳) 作曲家バイオリニスト

悩みは宝、 生まれてきたは、 また宝

林 再寿
昭和四〇年卒



私は四三年前の挫折に思いを馳せた。それは高校の最後、大学入試の失敗が、自身の心の動揺、自信喪失をもたらした事だった。これが青春の残影か、節目の今、六〇年の人生を振り返ってみる。
希望の岐阜高校へ入ったものの、自分より優秀な逸材ばかり、青春の光と影が交差する中で、影の部分だけが増幅されて、灰色の日々を送っていた時代だ。青春の悩みを味わった時代は、「社会の悪、不条理と戦う」「どうして私

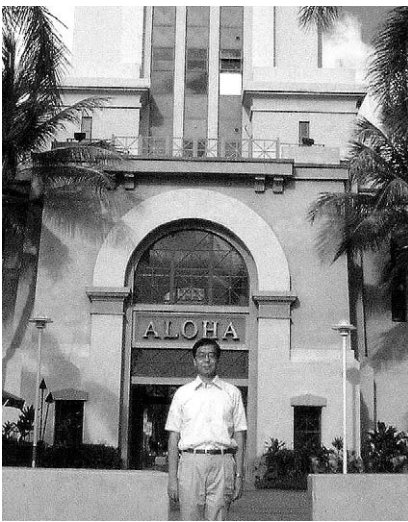
だけ苦勞しなければならぬのか」という、正義感と失望感がない交ぜになった心の切迫感があった。小心の性格、目標の迷い、自信喪失、そんな中で、自分は何がやりたいか、何をやらなければならないのか、誰にも相談できず煩悶の状況であった。

そんな私が、大学へ入って変わった、というより、変わるような心がけた。人といろいろな問題を話したい。「国際問題研究会」に入った。政治の話もした。国連の話もした。稚拙な論文も書いた。討論会ディベートにも出場した。二〇歳の時には、岐阜市の「私たちの論文」にも入賞した。卒業後、金融関係の職業に就いた。学生時代に国際問題に興味を示したおかげで、国際業務の仕事に回された。一方、家庭的には、失敗の人生、不幸が襲う人生だったかもしれない。思い悩んだ時期も二〇年近く続いた。

お陰でどんな試練にもびくともしない、心胆が据わったというのであろうか。悩む事は無駄ではなかった。そんな人生訓を学び取った人生を経験した。「色々あったけど、いろんな宝を得たなあ」、今では皆にそう言える人生だったと痛感する、良い人生だった。今は三三年余の銀行生活を五年前に退職し、経済団体の仕事に携わりながら、今までの経験を社会人先輩として、経済・企業財務を後進に伝える仕事をしています。また、地域デビューとして岐阜市や地域のボランティア、趣味として歴史博物館ボランティア、国際ボランティアに専心する毎日である。現役時代には出来なかつた経験、友人が拡がり、忙しくも楽しい生活を送っている。

人生の悩み、経験を宝にした事により、「ボランティア」という位置を見つけ、「楽しくなければ人生じゃない」、「人生は六〇歳から」という心で新しい発見、交流の毎日を過ごしています。

老後の行動で「かきくけ」運動（感動・興味・工夫・健康・恋心）と



いうものがある。私たちが、湧き上がってくる感性で挑戦しよう。ついでに、老後の不安も同じく「かきくけ」（介護・気持・暮らし・健康・孤独）である。でも我らには、「そんなの関係ねえ」と言いたいねえ。ご同輩。

ハワイのレストランと日本人のこと

根岸 正博
昭和四〇年卒

昨年二度ハワイに出張した。滞在期間は結構長く二回で約三週間。元々米国は転勤・出張がよく知っていたつもりだが、苦手なものは昔から食事。はつきり言って、海外特に米国

あんなことこんなこと

一九六三年昭和三八年

①トピックス

- ・ケネディ暗殺
- ・北九州市誕生
- ・日本初、名神高速・東東・尼崎開通
- ・宮城県でササニキ開発
- ・大阪駅前に初の横断歩道橋誕生
- ・マイホームの時代到来
- ・小さな親切運動、あゆみの箱
- ・ON時代の幕開け
- ・新千円札・伊藤博文発行
- ・吉展ちゃん誘拐事件
- ・黒四ダム完成
- ・草加次郎事件・東京地下鉄で時限爆弾爆発
- ・日米初のテレビ中継実験成功
- ・坂本九の「スキヤキング」米で大ヒット
- ・ソ連初の女性飛行士テレシコワ誕生
- ・春の甲子園優勝・下関商業（山口）
- ・夏の甲子園優勝（明星大坂）
- ・日本シリーズ優勝 読売ジャイアンツ

②物価

- ・サラリーマン平均年収 76万円
- ・大卒初任給 19460円
- ・カウリン・リットル 47円
- ・コーヒー一杯 66円
- ・ビール大瓶一本 115円
- ・たばこハイライト一箱 80円
- ・新聞購読料一カ月 450円

③流行語

- ・カギっ子
- ・なんであるアイデアル
- ・巨人、大鵬、卵焼き
- ・丈夫で長もち
- ・お呼びでない
- ・ガチャーン
- ・こりやまた失礼しました
- ・ちーともしらなかつたわー
- ・おえりやーせんない
- ・ガバネー

④音楽

- ・日本レコード大賞「こんちわ赤ちゃん 梓みちよ
- ・高校三年生
- ・修学旅行
- ・東京五輪音頭
- ・見上げてごらん夜の星を
- ・美しい十代

の食事はまずい。そこで現地の日本レストランや中華にお世話になる。しかしハワイは日本に近いせいか、美味しいレストランがあった。少々紹介してみたい。

出張先はホノルルだけであったので、紹介と言ってもホノルル圏内である。

メインストリートのカラカウア通りから南にルワーズ通りを百メートルほど進むと、ホノルルの最高級ホテル、ハレクラニの前に二軒—NOBUとPops。共に東京にも出店しているが、日系人が経営する和食を西洋風にコラボレートした創作的なレストラン。共にチェーン店で米国本土では大変な人気。どのメニューもお洒落で美味い。

その北に一ブロック行ったビーチウォーク通りがあるのが、イタリアンのアランチーノ。ワイキキビーチに面したマリOTTホテルの二階にもオープンした。従業員全員がイタリア人風だが経営者は日系人。なかなか美味で評判だ。

北にカラカウア通りに戻って角にあるのが、ラーメンなむら。テレビキャスターの

小倉智昭がオーナーで、オックスターの入ったラーメンが美味と評判だ。

このエリアは、東京で言えば白金台・西麻布と言ったところで、現在不動産王として有名なドナルド・トランプが超高層の最高級ホテル・コンドミニアムを建設中。ハワイでは長期滞在用ホテルやタイムシェアのコンドミニアムが年々増加している。

ホノルル中心街から西へ車で十分くらいのところにあるアラモアナ・ショッピングセンター。その北側約百メートルのところは飲茶のパンダ・キューズ（大三元酒樓）がある。お手ごろな値段で美味い。日本の多くの芸能人、スポーツ選手も訪れており、入口には有名人の来店時の写真がずらり。

さらに車で西に約一五分、ダウンタウンの北に中国人街がある。日本の中華街より汚い感じだが、本場の中華を食べられる。ただし治安がやや宜しくないの、知っている人から聞いて行くのが良い。

日本人は普通、日本食・中華・イタリアンを好むが、今特に

日本食が世界的に大注目されている。私は前から何故日本料理が世界で評価されないのか不思議に思っていたが、ようやく認知され始めたようだ。東京のミシュラン・ガイドは大評判となった。

日本の料理は私に言わせれば全ての面で世界ナンバーワンだと思う。

さてその一方目を転じて、海外と比べてお粗末なのが、日本人の公共でのマナーの低さ、そして特にタイミングの悪さやテンポ感のなさを感じる。この二つは全く何の繋がりもないように見えるが、外部との関り合いに無頓着な点に共通点があるように思える。

日本人のDNAに無意識に刻み込まれた、狭い社会で世間体を気にする部分と、それと正反対の「見ざる・言わざる・聞かざる」の、変だなと気付いても無関心を装う遺伝子。『村社会』の中でお行儀の良さを保持しようとする点で合致する。これが一歩外界に出れば、厚顔無恥、無頓着、無関心、無配慮になる。

これからのグローバル社会を生き抜くには、こうした我々

の内なる部分も変えて行かなければと思うのだが。

拾いものは褒め言葉？

下谷靖子（旧姓神蘭）
昭和四〇年卒



昨年四月から、夫一人を大津市の自宅に残して福岡に來ています。「奥さんが単身赴任ですか？」、陰から『いい年してよくやるよ』、『旦那さん、かわいそうに』という言葉も聞こえてきそうでしたが、若い頃からの夢を叶える最後のチャンスと思いい、平成一五年十月に裁判官となり、大阪で三年半勤務した後、福岡家庭裁判所に転勤となったのです。私は、昭和五二年から二六年半の間、神戸、京都で弁護士を続けてきました。といっても、何とか続けて来ただけ

- ・恋のバカンス
- ・おもちゃのチャチャチャ
- ・星空に両手を
- ・悲しき悪魔
- ・ビー・マイ・ベイビー
- ・抱きしめたい
- ・夢であいましょう
- ⑤文学・ベストセラー
 - ・芥川賞「蟹」河野多恵子
 - ・芥川賞「感傷旅行」セシメタルジャー「田辺聖子
 - ・直木賞「女のいくさ」佐藤得一
 - ・直木賞「巻談本牧亭」安藤鶴夫
 - ・直木賞「魔の中」和田芳恵
 - ・物の見方考え方
 - ・永遠のエルザ
 - ・交換日記
- ⑥映画
 - ・天国と地獄
 - ・にっぽん昆虫記
 - ・武士道残酷物語
 - ・青い山脈
 - ・いつでも夢を
 - ・五番町夕霧楼
 - ・大脱走
 - ・クレオパトラ
 - ・地下鉄のメロディ
 - ・奇跡の人
 - ・予期せぬ出来事
 - ⑦テレビ
 - ・底抜け脱線ゲーム
 - ・3分クッキング
 - ・夫婦善哉
 - ・新日本紀行
 - ・凶々しい奴
 - ・三匹の侍
 - ・鉄腕アトム
 - ・鉄人28号
 - ・コンバット
 - ・アップダウンクイズ
 - ⑧有名人を偲ぶ
 - ・ジヨウ・F・ケネディ46歳米大統領
 - ・力道山40歳プロレスラー
 - ・小津安二郎60歳映画監督
 - ・フランスス・プーランク65歳作曲家
 - ・久保田万太郎74歳小説家
 - ・エイト・ピアフ48歳歌手
 - ・ジャン・コクトー74歳前衛芸術家

の落ちこぼれ弁護士、同じくラスだった森川幸江弁護士が、岐阜で堂々と頑張っておられる様子を知るにつけ、私は高校生時代から劣等生だったのだからまあ仕方ないかと思いつつ、でも、いつか、もう少し、しっかりした仕事ができたらと思いつけてきました。そんな中、両親の介護や子育ても終わり、思い切り仕事ができる環境が整ったちょうどその時期に、あきらめていた裁判官への道が大きく開かれることになりました。すでに五七歳規定の「五五歳位」を若干オーバーしてはいましたが、無事採用され、私の経験が最も生かせる家庭裁判所の裁判官にという希望も叶えられました。今、とても幸せな気持ちで毎日の仕事に取り組んでいます。とはいっても、最近、父母が双方の祖父母までも巻き込んだ形で子を奪い合ったり、非監護親からの面接交渉要求など、子どもを巡る難しい事件が多く、子の福祉のためにどうすべきかに頭を悩ませられることばかりです。精神を病んだ夫から逃れるため子どもを連れて家を出ようとす

妻に、「僕が、お父さんの面倒をみないと」と言う子、両親のどちらと暮らしたいのかの調査の中で、「またみんなと一緒に暮らしたい。」と言う子、子どもは本当はどちらの親も好きなのに、そんな子どもの気持ちなどお構いなしに、婚姻生活の破綻を全て相手の責任にし、子どもにまで相手の悪口を言わせて争いを続ける夫婦を見ると、「いい加減にして。」と叫びたくくなります。夫婦のきずなが弱まり、子どもに対する責任感もなく、勝手な行動に走る夫婦の多さに驚き、又、家事事件と少年事件が連動し、DVが連鎖している事件を目の当たりにすると、子どもが健やかに育つためには、幸せな家庭こそが重要と実感する日々です。幸せな家庭を築くことができにくい世の中、誰もがそう感じ、何とかしなければと思っているのに、何をしたらよいかかわからず、右往左往して日々が過ぎていつているような気がします。小さなことであっても、それぞれの持ち場で、努力していくことが大切なんだろうと思っ

て仕事を続けています。

ところで、以前私は、「あなたは拾いものですね。」と言ったところ、「所詮僕は捨てられていたのですから」とちよっぴりむくられたことがあります。私は、「拾いもの」は褒め言葉と思っているのですがいかがでしょう。捨てられたものの中からの拾いものでもいい、「弁護士からの拾いもの」と言われるよう、六五歳の定年までもう一頑張りしてみます。不便な一人生活に耐えている夫への感謝の気持ちも忘れないで。



しまいちのひろ
島津 昌弘
昭和四〇年卒

岐阜には昭和四〇年高校を卒業する一八歳までの生活。昭和四〇年から昭和四七年までの東京生活を経て、浜松には昭和四七年三月から還暦を過ぎた現在まで三六年になりました。

岐阜・濃尾平野・長良川・金華山・岐阜城・織田信長。

浜松・遠州平野・三方原台地・天竜川・浜名湖・遠州灘・浜松城・徳川家康。

浜松に来て一一年目、羽田から沖繩への飛行機の窓から出ている丸い富士山、雲の切れ間から見える何処か判らない山や湖を見ているうちに、見たことのある地形、木曾三川、濃尾平野、岐阜育ちの自分を認識した。

私は両親が戦争疎開で大垣に来てからの岐阜県民。妻と三人の子供は浜松っ子。今、妻と二人暮らし。長女は香川県観音寺市で二児の母、長男は東京で一人暮らし、次女は結婚して浜松にいる。

子供が産まれる頃、男の子がいいとか女の子がいいとか思ったりしたが、今は娘がいい。娘二人はよく顔を見せに帰ってくるが、息子はめつたに帰らない。自分もそうだった。

岐阜にいる母は八八歳。夫婦が一緒に暮らしている。今になって、できる限り月に一度は母と兄夫婦の顔を見に岐阜に帰る。妻と二人の時は車で、一人の時はオートバイで走る。還暦を過ぎた今でもオートバイに乗り少林寺拳法

あんなことこんなこと

一九六四年(昭和三九年)

①トピックス

- ・東京オリンピック大会開催
- ・新幹線「ひかり」「こだま」デビュー
- ・日本O.E.C.D.に加盟
- ・海外旅行自由化(二番人気はハワイ)
- ・ミロのヴェイナス展
- ・御三家(橋幸夫、舟木 夫、西郷輝彦)誕生
- ・マイカー時代到来
- ・佐田啓二自動車事故死

- ・太平洋横断海底ケーブル完成
- ・営団日比谷線全線開通(東京モノレール開業)
- ・中国、核実験を強行
- ・春の甲子園優勝(徳島海南海南(徳島))
- ・夏の甲子園優勝(高知(高知))
- ・日本シリーズ優勝(南海ホークス)

②物価

- ・サラリーマン平均年取 7.6万円
- ・大卒初任給 21190円
- ・ガソリン(リッター) 4.8円
- ・コーヒー一杯 69円
- ・ビール大瓶一本 120円
- ・タバコ(ハイライト)一箱 80円
- ・新聞購読料(一月) 450円
- ・東海道新幹線(東京大阪間) 2480円

③流行語

- ・ウルトラC
- ・みゆきスタイル
- ・俺について来い
- ・東京砂漠
- ・東洋の魔女
- ・シー

- ・いいと思うよ
- ・豚とクラテス
- ・フアイトでいこう
- ・おめえ、へっねまじゃねえか
- ・インド人もびっくり!
- ・ピョーン

④音楽

- ・日本レコード大賞「愛と死をみつめて」青山和子
- ・アン椿は恋の花
- ・君だけを
- ・幸せなら手をたたこう
- ・お座敷小唄
- ・愛と死をみつめて
- ・夜明けのうた



憧れの蝶を求め ニューギニアへ

高田 清
昭和四〇年卒

私が蝶を追い求めるようになったのは、生家が岐阜公園に近く、小学生の頃、名和昆虫館の故名和秀雄前館長に師事し金華山や近在の野山で昆虫採集をしたのがきっかけである、そして還暦を過ぎた今

も続けている。ヨット（ディンギー）は、昔冬でも浜名湖に出かけていたのがウソみたいに寒いのが億劫になって、離れた。
創造性、獨創性、感性のある人を、羨ましいと思いついて今に至っていますが、大病しないのには感謝。心身ともに健康だけが自慢のこの頃だ。

でも網を持ち、憧れの蝶を求めて野山を駆け巡っている。昨秋、岐阜近在の還暦超えの蝶屋四人がニューギニアに憧れのトリバナアゲハを探りに行こうということになった。メンバーの一人は同級生で長年の虫友達、水谷治雄君。
和名のトリバナからもうかがえるように、鳥と見間違えるほどの大型の蝶で、翅を広げると二十cmを超える種もいる。また、黒の地に緑と金色を配した神々しいほどの美しさを兼ね備える美麗種で、ビクトリア、アレクサンドラ、ゴライアス、ロスチャイルドなど、国威を表す学名が付いた珍しいアゲハで、蝶屋にとつては垂涎的である。
十一月一日、我々四人はバリ島を経てまずニューギニア島マノクワリに向かった。マノクワリでは、食料品や飲料水等を段ボール六箱分、ガイド、料理人、作業員の若者なども雇った。

二度も渡った。道路に落石があると、作業員の出番だ。こうして、日本を出て三日目に最終目的地であるアルファク山塊の標高千メートル地点にあるメニ村に到着した。小さな部落の周辺は土地が切り開かれバナナの木が植えられていたが、それ以外は密林だ。
トリバナアゲハのオスは高い木の梢に止まり、密林で羽化するメスを求めて縄張りを持つが、このオスはどういうわけか赤い色に反応するという習性がある。
我々は、赤い布を草地に敷き、赤い捕虫ネットを持ち待つ。突然、私の背後から緑と金色に輝く蝶が舞い降りてきた。

「ゴライアスだ！しかも完璧」……私は一兔に走り出し、ネットを振った。GET? いや、無情にも蝶は私のネットをすり抜け上空へ。がっかりする私を見ながら、現地住民は大歓声、しかもガイドまでが『ゴライアス タカダサン サヨナラ バイバイネ』と冷やかす有様。
私は『ゴライアス カムバック』と「シェーン」ばりのジエスチャーで照れ隠しをしたが、ガイドは『サヨナラ サヨナラ』を笑いながら連発。四日間こんな調子で明け暮れたが、幸いにもこの地に棲息する四種類のトリバナアゲハを採集することに成功した。
憧れのトリバナアゲハが飛び交うメニ村には電気もトイレもないので、近くの草地や畑で用を足すことになるが、毎日二〜三回あるスコールが、これらの汚物をみんな肥料として地中に還元してしまう。

ある時、シャワー代わりにと、スコールの中に裸でとび出したが、標高千メートルの自然シャワーはとても寒く、一度でこりこりした。
こんな非日常的で夢のような日々も過ぎ、我々の九日間の旅は終わってしまった。
水谷君とは、六月の同窓会が終わったたら、今度は中国・青海省の高地に、氷河期の残存種バルナシウスというとても清楚な蝶を採集にいきたいねえ……とお互いに胸のときめきを押さえている今日この頃である。

- ・ウナチデイ東京
- ・青春の城下町
- ・涙を抱いた渡り鳥
- ・東京五輪音頭
- ・花はどへ行った
- ⑤文学ベストセラー
 - ・芥川賞「されどわれらが日々」柴田翔
 - ・直木賞「炎環」永井路子
 - ・直木賞「張少子」安西篤子
 - ・愛と死をみつめて
 - ・若きいのちの日記
 - ・炎は流れる
 - ・アネネの日記
 - ・山田風太郎忍者全集
 - ・「平凡パンチ」出版
- ⑥映画
 - ・愛と死をみつめて
 - ・若草物語
 - ・赤いハンカチ
 - ・宮本武蔵 乗寺の決闘
 - ・黒の海峡
 - ・喜劇 駅前茶釜
 - ・赤い殺意
 - ・飢餓海峡
 - ・傷だらけの山河
 - ・マイ・フュー・レディ
 - ・ローマ帝国の滅亡
 - ・太陽の帝王
 - ・メリポピンズ
 - ・プーへの恋人
 - ・モラ村ゴジラ
- ⑦テレビ
 - ・木島則夫モーニングショー
 - ・ミュージックフェア
 - ・赤穂浪士
 - ・忍者部隊 月光一
 - ・ひょろこりひょうたん島
 - ・逃亡者
 - ・パークにまかせろ
 - ・トムとジェリー
- ⑧有名人を偲ぶ
 - ・八波むと志(37歳)
 - ・三好達治(64歳)
 - ・ダグラス・マッカーサー(83歳)
 - ・佐田啓二(37歳)
 - ・佐藤春夫(72歳) 小説家
 - ・三木露風(75歳) 詩人
 - ・ネール(76歳) 初代インド首相
 - ・イアン・フレミング(57歳) 小説家



球技大会を終えて(40年同窓生)

思い出: 演劇部活動のこと

藤原 隆

昭和四二年卒

卒業以来四三年、卒業後転居したこともあって、学校へも久しく訪れていない。

高校時代の三年間を過ごした岐阜であるが、高校時代の思い出というと、やはり一番に演劇部での活動を思い出す。中学時代の先輩に誘われて、何気なしに部室を訪問したら早速台本を持たされてせりふの稽古が始まった。運動部には入る気はなかったたので、まあいいか、といった軽い気分です通っているうちに何か面白く、自分でもいっぱしの役者

気分が続けていたが、春の公演までにもものになるかハラハラ物だったと、あとから先輩に聞かされた。結局、役者・裏方と結局三年の秋まで続いた。

勉強の方といえば、授業に入る前に毎回赤字(こんな言葉もあるのかな?)からの単語テストの英語の授業、先生の話が半分の授業、先生の話を半分もわからない数学の授業、毎日夜中近くまで予習をしていても、なかなかついていけない。ものすごいショックだった。まさに知らぬ間に猛烈な受験競争の真っ只中に放り込まれて、右往左往している毎日からの逃げでのクラブ活動という側面もあったかもしれない。

文化系クラブといっても、結構伝統もあり、全国大会まで行ったこともあり、毎日の練習は結構きつく、春・秋の公演前には夜七時八時まで練習だった。練習は厳しかったが、和気あいあいとした家族の雰囲気、練習合間の他愛ないおしゃべりが楽しかった。それよりも一番記憶に残っているのは、授業が欠(ほ)

けた時など:当時岐阜高独自用語だったと思うが、今は死語だろう:授業が早く終わるので、他のクラスが正規の授業時間が終わるまで部室でべったりこっそり学校を抜け出して買

い食いしたことなど覚えていて。通学途中、昼休みなどの買い食いなんか今ではごく当たり前だろうが、当時は禁止されていたし、休みの日にも繁華街へ行くことなども控えるように言われていた硬い受験校だっただけに、多少の反発心も手伝つてのことだったかもしれない。

学校に内緒で夏休みに合宿と称して、市内から少し離れたお寺にクラブ全員で宿泊旅行に行ったことなども思い出す。毎日の厳しい授業と定期的な実力テスト、順位の公表、と、今思うと典型的な受験校・予備校的な学校で、勉強には厳しい学校だったと思うが、クラブ活動・生徒会活動などは結構生徒の自主性に任されていたと思う。

って、生徒主体で実行できていたように思う。

将来のことなど余り深く考えずに今やりたいことに全力で取り組む。楽しさと共に、自主性を育ててくれたクラブ活動だったと思う。

年齢を重ねて、次第に現実的利己的になってきたと時々感じることもあるが、何時までもこうした若い気持ち・エネルギーを持ち続けたいものだ。

岐阜のネットワークと

思い出

後藤 三郎

昭和四二年卒



四〇歳の頃だったと思いますが、卒業してから初めて岐阜の同窓会に出席してみました。卒業以来ずっとご無沙汰だった人に久しぶり会え、また、

あんなことこんなこと

一九六五年(昭和四〇年)

①トピックス

- ・戦後初の赤字国債発行を閣議決定
- ・いなきき景気始まる
- ・明治村オープン
- ・大学生百万人突破
- ・名神高速道路全線開通
- ・富士山頂気象レーダー完成
- ・朝永振一郎「ベル物理学賞受賞
- ・米北「トナム爆撃開始
- ・小田実ら「平連」結成
- ・ソ連人類初の宇宙遊泳に成功
- ・米宇宙船「初のランデブー」に成功
- ・中国 文化大革命の始まり
- ・日本サッカーリーグ開幕
- ・春の甲子園優勝・岡山東商業(岡山)
- ・夏の甲子園優勝・三池工業(福岡)
- ・日本シリーズ優勝・読売ジャイアンツ

②物価

- ・サラリーマン平均年収 8.2万円
- ・大卒初任給 23000円
- ・ガソリンリットル 51円
- ・コーヒー一杯 72円
- ・ビール大瓶一本 120円
- ・たばこ「ハイライト」一箱 80円

③流行語

- ・ブルーフィルム
- ・ゼロメートル地帯
- ・期待される人間像
- ・私にも写せます
- ・やったるで

- ・メントー見きれねーな
- ・タンクバク質が足りないよ
- ・指圧の心は母心

④音楽

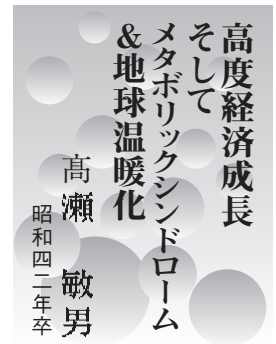
- ・日本レコード大賞 「柔」美空ひばり
- ・網走番外地
- ・さよならはダンスの後に
- ・帰ろかな
- ・愛して愛して愛しちゃったのよ
- ・君といっつも
- ・知りたくないの
- ・女の唄
- ・学生時代
- ・逢いたくて逢いたくて
- ・夢みるシャンソン人形

地元自治会や仕事でお付き合いしている人など数人に会い「えー岐阜高校卒業だったの」と感激し結構うきうきした覚えがあります。その後も時々出席しているうちに、四二年卒組の常連になってきました。高校三年間一度も同級にならず、同窓会を通じて初めて知り合った人も何人かいます。

数年前、それまで勤務していた会社を退職し、不思議な縁で岐阜県に戻ってきましたが、岐阜県の人のネットワークの狭さ、というか岐阜高のネットワークの凄さを実感しました。いろいろな団体のいろいろな会合に出ていると、見たことのある人によく出会いますが、それが岐阜高の同級生だったり、同窓生だったり、先輩・後輩だったりする事がしょっちゅうあります。それが縁で何となくお互い親しみを覚え、付き合いが続いているケースも随分あります。岐阜高校同窓会は本当に強力で有効なネットワークだと実感しています。その大切なネットワークの基である岐高時代の思い出といえ、結構まじめに勉強していた事、評議員なるものを

まじめにこなしていた事、不幸にして三年間男子クラスだった事、一年の担任のN先生に「男子生徒が少ないので図書部入らないか」と言われ何となく楽しそうだったので入部した事、図書部なのに夏のキャンプが年中行事であり結構楽しかった事、などです。

今思えばチョット小恥ずかしい、でも羨ましい青春時代の思い出をひとつ。自宅から高校までの通学のバスの中で、S君とT君と三人で、毎日大真面目で大議論を展開していました。内容はほとんど覚えていませんが、宇宙とは何か、人間とは、日本・世界・人類はどうあるべきか、などという、とんでもない話題だったような気がします。議論に陶酔し、周りの人々に注目され、若き哲学者気取りで悦に入っていた気がします。同乗していた担任のG先生に手厳しく注意された事が新鮮に思い出されます。多少小声にはなりませんが、その後も相変わらず白熱した議論を毎日展開し、通学をしていた記憶があります。青春真っ只中の頃の思い出です。



高校に入学した年（今から四四年前）は、東京オリンピックに、東海道新幹線開通等といった輝かしいイベントがあり、翌年には岐阜国体も開催され、まさに国内は高度経済成長に沸き立っていたころです。そして、いわゆる我々団塊の世代は、戦後からの経済復興を支えた落とし子であり、工業立国、所得倍増の政策にのって、働くことが美德(?)とわき目もふらずにひたすら勤労に励んできたように思います。その結果は確かに報われました。便利なものがどんどん

開発されると同時に、品質の良いものが大量に市場に出回り、快適な生活を送ることができるようになったのです。携帯電話が出現するなんてあのころは想像だにできませんでした。パソコン、DVD、プリンタ、ICチップ等々皆しかりです。

しかし、一方で利便性のあるものに頼りすぎる生活は、人間本来の姿に真の意味で恩恵を与えたのでしょうか。マイカーの普及は運動不足を招き、冷凍技術の発達は海外から広範囲に食品の輸入を可能にし、今や日本はあり余るほどの食生活を堪能しています。その結果、慢性的な余剰カロリーの摂取で内臓脂肪を増やし、メタボリックシンドローム予備軍となっているのが、このごろの団塊の世代かなと思います。

「あれから四〇年…」と某氏が漫談で中高年層の人気を博していますが、私たちの便利な生活は、まさにこの四〇年の間に個人的な内臓肥満だけにはとどまらず、化石エネルギーの大量使用によって地球温暖化を招いています。今や、喫緊の地球規模の環境問題と

- ・新聞少年
- ・マイガール
- ・赤いグラス
- ・ヨイトマケの唄
- ・星娘
- ⑤文学・ベストセラー
 - ・芥川賞「玩具」津村節子
 - ・芥川賞「北の河」高井有一
 - ・直木賞「虹」藤井重夫
 - ・直木賞「八百長」新橋遊吉
 - ・直木賞「唐葱記」千葉治平
 - ・なせば成る
 - ・わが愛を星に祈りて
 - ・妻の日の愛のかたみに
 - ・南ベトナム戦争従軍記
 - ・白い巨塔
 - ・泥と炎のインディナ
- ⑥懐かしの映画
 - ・サウンドオブミュージック
 - ・東京オリンピック
 - ・赤ひげ
 - ・網走番外地
 - ・日本旅客伝
 - ・けものみち
 - ・007/ゴルドフィンガー
 - ・メリーポピンズ
 - ・わんわん物語
 - ・素晴らしきヒーキー野郎
 - ・マイフレディ
 - ・いそしぎ
 - ・何かいいことないか子猫ちゃん
- ⑦テレビ
 - ・太閤記
 - ・小川安シヨ
 - ・HPM
 - ・青春とは何だ
 - ・ザガードマン
 - ・サザエさん
 - ・ジャングル大帝
 - ・パイクラー牧場
 - ・F・B・I
- ⑧有名人を偲ぶ
 - ・チャールズ90歳政治家
 - ・谷崎潤一郎79歳作家
 - ・江戸川乱歩70歳作家
 - ・池田勇人65歳政治家
 - ・高見順58歳作家
 - ・シバイツァー90歳医師哲学者
 - ・山田耕伴79歳作曲家
 - ・ナットキングコール49歳歌手



在校生2年 辻 悠佑

いうことで京都議定書以降の取組みが昨年のバリ島におけるCOP13でも議論されました。しかし、先進国と開発途上国との駆け引き、最大のCO2排出国である米国の思惑、南北間の格差など、なかなか『宇宙船地球号』として一つにまとまらないのが現状です。世界の情報がこれだけ瞬時に地球を駆け巡るようになって、なお、人類共通の課題に対する有効策がお互いの利害関係で見出せないでいることについて、人間とは厄介な動物だなど思うのは私だけでしょうか。そんなこのごろです。

日本語に 溺れ続けて

川島 博文

昭和四三年卒

【それは一年次の四月に始まる】
● 岐高演劇部入部。春公演にて昭和四〇年卒の先輩達に出会う。東京の息吹き享受。
● 明けても暮れても演劇演劇。二年次に上田正樹（R&Bソウルシンガー）を擁して台本「学校」で中部大会出場。
● 卒業してW大へ。時は学生運動の絶頂期。自由な時代。「我々わア」「異議なアし」



▲演劇部での活動
当時の私の写真です。

「闘うぞオ」「ブルジョアあ」「国家権力ウ」「労働者ア」「本質は何かア」「何をなすべきかア」

● 東京には俳優座文学座民芸劇団四季など大劇団有り。渋谷新宿六本木池袋「アングラ小劇場」跳梁跋扈。赤テント黒テント自由劇場天井棧敷つかこうへい事務所。
☆「おおロミオロミオ！」
☆「生きなければ・・・生きなければ・・・」

★《白い舞台。天井から、首吊り用の縄・》
「女：こんにちは。」
「男：こんにちは。」
「女：いいお天気ね。」

「男：いいお天気です。」
● 東大闘争早大闘争以降運動変質収縮。
● 大学在五年関東の鉄道会社に就職。会社でも「がんばろオ」
四〇才Uターン税理士開業。
◎そして今・・・日本語の海へ・
「姉三六角蛸錦・」
「アヴォンリー街道をだらだらと・」

「あかねさす紫野行き・」
「雨ニモマケズ・」
「いつの御代のことでしたか・」
「E=mc²」
「みじかびのきやぶりき・」
「マダガスカル島にはアタオコロイノナという・」
「善人なをもて往生をとぐ・」
「分け入っても分け入っても青い山」
「祇園精舎の鐘の声・」
「やまとうたは、人の心を種として・」

「むかし男ありけり・」
「Aは黒、Eは白、Iは赤、Oは青、Uは緑。」
「僕の前に道はない・」
「男もすなる・」
「ミラボー橋の下を・」
「『近江』というこのあわわわとした・」
「結構毛だらけ猫灰だらけ」

あんなことこんなこと 一九七二年昭和四七年

①トピックス

- ・横井庄二、グアム島から二八年ぶりの帰還
- ・札幌冬季五輪日の丸飛行隊（金銀銅）
- ・浅間山荘事件・連合赤軍五人全員逮捕
- ・山陽新幹線・新大阪ー岡山間開業
- ・高松塚古墳で極彩色壁画発見
- ・沖縄本土復帰・沖縄県発足
- ・自動車に初心者マーク登場
- ・ロッキード事件で逮捕者
- ・高見山、外人力士として初優勝
- ・電卓カシオ三三三大ヒット
- ・日中国交回復・記念にパンダ来日
- ・全日本男子レール五輪で金メダル獲得
- ・テルアビブ事件・岡本公三逮捕
- ・春の甲子園優勝・日大桜丘（東京）
- ・夏の甲子園優勝・津久見（大分）
- ・日本シリーズ優勝・読売ジャイアンツ

②物価

- ・サラリーマン平均年収 168万円
- ・大卒初任給 49900円
- ・ガソリンリットル 588円
- ・コーヒ一杯 115円
- ・ビール大瓶一本 160円
- ・たばこハイライト一箱 120円
- ・新聞購読料一カ月 1100円

③流行語

- ・あしにはかわりのねさごとでござんす
- ・恥ずかしながら
- ・恍惚
- ・ハゲシ
- ・総括する
- ・三角大福
- ・ランランカンカン
- ・知る権利
- ・未婚の母
- ・わんぱくでもいい
- ・決断と実行
- ・お客様は神様です

④音楽

- ・日本レコード大賞「陽平」ちあきなおみ
- ・結婚しようよ
- ・瀬戸の花嫁
- ・さよならをするために
- ・ひとりじゃないの
- ・別れの朝

「『この味がいいね』と君が言ったから七月六日はサラダ記念日」

「月日は百代の…」

「立てば芍薬…」

「漢の武帝の天漢二年秋…」

「花はさかりに、月はくまなきを…」

「モンローと名付けられたる猫の恋」

「かっぱかっぱらった…」

「知らざあ言つて聞かせやしよう」

「マッチ擦るつかのま海に霧深し身捨つるほどの祖国はありや」

「メロスは激怒した。…」

「せりなずな…」

「少年老い易く…」

（以上引用作者に感謝）

「昭和…」

★ テレビ、車、ゲーム携帯の無い時代。日本語の海を泳ぐのはちと上手かろう皆さん！

岐阜高校の頃、

そして今…

伊井 和彦

昭和五〇年卒

大学に入り、岐阜を出て東京に来てから、早三〇年以上

が経ちました。いつの間にか五〇歳を過ぎ、俺もそんな年になったのかと、正直、信じられない気持ちです。

岐阜高校時代は、たいして目立ちもせず劣等生の私でしたが、一浪して何とか大学の法学部に入り、運よく司法試験に合格して、現在は東京で弁護士をしています。

東京に出て以来、盆と正月は岐阜の実家に帰っていましたが、平成一七年に父が、そして昨年平成一九年に母が亡くなり、一人息子の私は、岐阜に帰るべき場所がなくなっ

てしまいました。両親が健在の間は、帰省しても特に友人と会うこともなく、いつしか岐阜高校時代の思い出も薄れかけていましたが、不思議なもので、自分の帰るべき場所が岐阜になくなると

思うと、やたらと高校時代が思い出され、懐かしく、切なくなります。これも五〇を超えた歳のせいでしょうか。

ここ数年は、東京で行われる岐阜高校の同窓会には毎年出席していますし、一昨年は岐阜で行われた同学年の同窓会にも初めて出席させてもら

いました。懐かしい顔、すぐには思い出せない人といろいろでしたが、話をしているとあつという間に三〇数年前にタイムスリップしているような気がして、何とも楽しい時間でした。

私の高校時代は、クラブ活動をやるでもなく、友達同士でヤンチャなことをするでもなく、かといって勉強するわけでもなく、家と学校を毎日往復するだけでしたが、それでも私なりの青春を過ごしていました。当時流行りのフ

ォークソングにかぶれ、特に吉田拓郎の歌にのめり込みながら、他人の引いたレールの上を走りたくない、自分らしい生き方をしたい、世の中の矛盾と戦って生きていきたいと願う、生意気な自分がいました。

あれから三〇数年、世間の荒波に揉まれ、余計な知識や世渡りの術を身につけた私ですが、今でも心身ともに疲れたときは、一人部屋にこもり、吉田拓郎の歌を聴き続けます。見かけは年相応に変わり、自分と家族のために世間と妥協して生きてはいますが、

「俺の内面は、あの頃と何一つ変わってはいない」、そうずっと信じてきた自分がいます。私が弁護士という仕事を選んだのも、その思いがあったからかもしれません。

「体より老けた心を持つな、青春の長さを測るものはない」、私の好きな歌のフレーズです。できれば、これからは高校時代の仲間の皆さんと交流すること、より心を若返らしていきたく、そう願っています。これからも、よろしくお願

恩師・授業

大倉 光弘

昭和五〇年卒



① 佐光義民校長先生

内村鑑三の孫弟子。「姿勢を正しくし、呼吸を深くする。

- ・ ひまわりの小径
- ・ 学生街の喫茶店
- ・ ひなげしの花
- ・ どうにもとまらない
- ・ 女のみち
- ・ あの鐘を鳴らすのはあなた
- ・ せんせい
- ⑤ 文学・ベストセラー
 - ・ 芥川賞「つか汽笛を鳴らして」畑山博
 - ・ 芥川賞「誰かが触った」宮原昭夫
 - ・ 芥川賞「ベティさんの庭」山本道子
 - ・ 芥川賞「れいむ」郷藤子
 - ・ 直木賞「斬」綱淵謙錠
 - ・ 直木賞「手鎖心中」井上ひさし
 - ・ 恍惚の人
- ・ 日本列島改造論
- ・ HOW TO SEX
- ・ マヤの商法
- ・ 女の子の髪け方
- ・ 般若心経入門
- ・ 坂の上の雲
- ・ 新平家物語
- ⑥ 映画
 - ・ ゴッドファーザー
 - ・ 忍ぶ川
 - ・ 関東緋桜家
 - ・ 夏の妹
 - ・ 屋根の上のバイオリン弾き
 - ・ 風と共に去りぬ
 - ・ 死刑台のメロディ
 - ・ 時計じかけのオレンジ
- ⑦ テレビ
 - ・ お笑いオアシステージ
 - ・ セサミストリート
 - ・ 藍より青く
 - ・ 新平家物語
 - ・ 泣くな青春
 - ・ 飛び出せ！青春
 - ・ 太陽にはえろ！
 - ・ 木枯し紋次郎
 - ・ 必殺仕掛人
- ⑧ 有名人を偲ぶ
 - ・ 川端康成(72歳)小説家
 - ・ 柳家金語楼(71歳)落語家
 - ・ 江戸川乱歩(70歳)作家
 - ・ 東海林太郎(73歳)歌手
 - ・ 伊東深水(75歳)日本画家
 - ・ トレーン(89歳)元米国大統領

A T Pが増え、頭がよく働く…」
A T P校長先生と呼んでいま
した。

②岩田 望先生(英語)

赤点を取ると、モモ上げや、
教壇周りの掃除やらをさせら
れました。「SHOULD、
ウド、クド、マイト、プラハ
ブ十ペーパー(過去分詞)これ、
過去の事実と反すること。『ど
ウソの過去』…だつたらうに」
と訳せ、と教わりました。

④大山敬一先生(数学)

皆、頑張っているいい大学へ入る。
駄目なら次頑張っている会社
へ入る。駄目なら、いい嫁も
らう。駄目なら、お婆さん作る。
駄目なら、脱俗。私と一緒に
山へ入り、新興宗教をやりま
しょう。

英語の勉強をすると、日本
語の勉強になるぞ、とも教わ
りました。

③二年三組

化学元素記号を縦に覚える
一、H・Li…
変なライオン仲間とのラ
ブシーンふられた

⑤平田 章先生(地学)

水金地火木土天海…(惑星
の名称)、おひ牡牛ふかしお
天さい山水魚(黄道十二星座
の名称)、先カンブリアカン
ブリアオルシルデボン石炭紀
ペトリジュラ白…(地質時
代の名称)

四、C・S i…

苦心の玄関すんなり
五、N・P…

六、O・S…

雄の先生照れてポツ

七、F・C I…

ふつくらブラジャーいじ
つてあとんだ

八、H e・N e…

変なねえちゃんある草む
らでX e乱発

⑨飯尾誠太郎先生(国語)

授業中、「わかりません」
と言うと、「何で、わからん？
ようわからんジンやな。そう
いうジンはな、後藤ヒヨコ工
場の屋上に立つとれ」と言わ
れました。

下宿生活のギターから
この頃の
津軽三味線まで

金子規子(旧姓・梅原)
昭和五〇年卒

早いもので卒業してから三
〇年以上が経ちました。三重
大学医学部に奇跡的に合格し、
卒業後は外科医をしていまし
ましたが、結婚を機に一度事実上
引退して数年前に復帰し、現
在は伊勢市で嘱託医として健診・
女性外来・乳腺外来に従事し
ています。遅ればせながら女
児にも恵まれました。
高校の三年間は、クラブ活
動の演劇部を中心に過ごしな

がら、小さい頃からの夢であ
った医者になるためにぼちぼ
ち勉強していました。飛騨か
らの越境入学だったため、下
宿生活でしたが、それに伴う
楽しい思い出がいろいろあり
ます。

一年生の時、地学の平田先
生が「速報！ジャコビニ流星
群来たる」というプリントを
授業で配ってくださいました。
先生のテンションに私達生徒
も盛り上がり、ぜひ見ようと
相談して、学校に近い私の下
宿に女子数名が集合して夜を
待つことになりました。その
うち噂を聞いた友達も何人か



あんなことこんなこと
一九七三年(昭和四八年)

①トピックス

- ・江崎玲奈ノール物理学賞受賞
- ・金大中事件
- ・円変動相場制に移行
- ・筑波大学開学
- ・江戸川競艇を最後に都営キヤンブル廃止
- ・ハイセイコー、NHK杯を制して10連勝
- ・ツチノコ探し 大子言 超能力チーム
- ・国鉄中央線快速に「シルバシート」設置
- ・服部セイコーアウォーツデジタル腕時計(世界初)
- ・オイルショック トイレレットペーパー騒動
- ・中国自動車道を九州自動車道を結ぶ関門橋開業
- ・輪島 学生相撲出身初の横綱昇進
- ・吉永小百合、岡田太郎と結婚
- ・国民の祝日法改正(振替休日制実施)
- ・春の甲子園優勝(横浜(神奈川))
- ・夏の甲子園優勝(広島商(広島))
- ・日本シリーズ優勝読売ジャイアンツ

②物価

- ・サラリーマン平均年収 2,033万円
- ・大卒初任給 57,000円
- ・ガソリン(リットル) 66円
- ・コーヒー一杯 133円
- ・ビール大瓶一本 160円
- ・たばこ(ハイライト)一箱 1,200円
- ・新聞購読料(一月) 1,100円

③流行語

- ・じつと我慢の子であった
- ・狭い日本をそんなに急いでどこへ行く
- ・石油ショック
- ・日本沈没
- ・ちよとだけよ
- ・いままんときですか
- ・ユウクリズム
- ・これにて一件落着
- ・パニック
- ・三分待のぞ

④音楽

- ・日本レコード大賞 「夜空に五木ひろし
- ・神田川
- ・心もよう
- ・あなた
- ・涙の操
- ・恋文
- ・わたしの青い鳥

来て、さながらミニ修学旅行のように賑やかでした。その夜は、校庭ですっと空を見上げていました。結局深夜になっても流星群は現れず、皆眠気のために普通の星が流れ星に見え始めた頃、夜は明けてしまいました。その後、三畳の狭い私の部屋で座った状態で仮眠をとり、登校した覚えがあります。

翌日、平田先生ががっくりと肩を落として廊下を歩いてみえたのが切なかつたですが、親と離れて寂しい下宿生活を送る私にとっては、最も楽しい日だったかもしれません。

今は三重県で暮らしているため、岐阜の友人に会う機会もあまりなく、高校時代は思い出になりつつありましたが、その頃の出会いが私に津軽三味線という新しい世界を与えてくれました。

フオークが全盛だった当時、私の下宿でギターを一緒に弾いて自作の曲を披露し合っていた旧姓浅見代里子さん（雅号は加藤訓里さん）に、約三年前、御園座の津軽三味線の大演奏会に招待していただき、大演奏会に感激しました。今私

が教えていただいている加藤流三弦道藤会会で浅見さんと同門の加藤訓峯先生が、日舞を教えている義母の知り合いで、しかも浅見さんとずっと同期で精進してみえることを知り、少しおおげさですが運命を感じて早速入門しました。

それ以来、津軽三味線は生活の一部になり、診療の合間には楽譜とICレコーダーを机上に出してエアー三味線を弾き、台所で撥（びち）に見立ててヘラを振り、また最近では一〇歳の娘を民謡の世界に引き込みつつあります。写真は娘との共演で、右端が私です。

昨年の初弾きの日には、高山で医院を開業してみえる加藤成信さん（O先生）が声をかけてくださいましたが、岐高の大先輩であることが判って嬉しい驚きでした。

まだまだ初心者の域を出ませんが、津軽三味線は趣味として楽しみを与えてくれただけでなく、人より少しでも大きい音を出そうと努力する津軽の「じよっぱり」の精神は、きつと今後の私の人生に張りをもたらししてくれると思います。



昭和五〇年卒

私が岐阜高校に入学したのは今から三六年前、担任は数学の大山敬一先生。けっして愛想がいいとは言えないもの、とても趣のあるおもしろい先生でした。

入学して間もなく、その大山先生が山岳部の募集を始めたのです。細身だった私は、山登りなんてそれまで考えたことがなかったのですが、たまたま私の前の席にいたなりたての友人の「面白そうだから入ってみようよ」という言葉に誘われて入部したわけです。しばらくして一年生は私のクラスから三人、二年生は五人、六人が集まってきました。

最初の登山は御在所山でした。確か五月末頃の土・日、一泊二日の行程です。岐阜高校に入って間もない頃で、毎日の授業についていくのに必死だったその頃、二三日前にはあまり行きたくないなあと思いましたが、友人に誘われて

出かけました。キスリングという大型のリュックに食料と水とテントと寝袋などを詰め込んで出かけたわけですね。

岐阜高校には山岳部の歴史があったのでしょうか。（そんなことも知らずに活動していました。）なぜかキスリングはいくつもありました。今から思えば大山先生以外の部員は皆素人でしたが、先生の指導力にまさ

らながら驚くばかりです。確かに滋賀県側から沢伝いに登り、御在所の麓の川沿いにテントを張ってキャンプしました。翌日は御在所山に登って帰って来ましたが、すべてが初めての体験ばかりで、しんどかったものの、日頃の生活を忘れて楽しむことができました。それからの高校生活を楽しめる大きなきっかけになったような気がします。

二回目の登山は夏休みに八ヶ岳でした。小淵沢側の六合目辺りからまず網笠山へ、そのまま北へ権現岳、赤岳、横岳…。キャンプ場でテントを張ったり、ぎゅうぎゅう詰め山の小屋で寝袋に入って泊まったり。大山先生は常に私達部員の体調に気を配りながら休憩し、泊まる場所も決められていたように思いま

- ・学生街の喫茶店
- ・イェスタティウンスモア
- ・さそり座の女
- ・赤い風船
- ・ジヨ一への伝言
- ・てんとう虫のサンバ
- ⑤文学：ベストセラー
- ・芥川賞「鶴三木卓
- ・芥川賞「草のつぎ」野呂邦暢
- ・芥川賞「月山」森敦
- ・直木賞「津軽世去れ節」長部日出雄
- ・直木賞「津軽じよんがら節」長部日出雄
- ・直木賞「暗教の年輪」藤沢周平
- ・日本沈没（上・下）
- ・ぐうたら人間学、ぐうたら愛情学
- ・国盗り物語（前後）
- ・死海のほとり
- ・スフィン杯の幸せ

- ⑥映画
- ・恍惚の人
- ・戦争と人間 完結編
- ・四畳半襖の裏張り
- ・花と龍
- ・同棲時代
- ・街の灯
- ・ラストタンゴインパリ
- ・十戒
- ・ジヨ一は戦場へ行った
- ・ベンハー
- ⑦テレビ
- ・北の家族
- ・国盗り物語
- ・うわさのチャンネル！
- ・太陽にほえろ
- ・子連れ狼
- ・刑事コロンボ

- ⑧有名人を偲ぶ
- ・パブロピカソ 91歳 画家
- ・パールバック 81歳 小説家
- ・大仏次郎 76歳 小説家
- ・椎名麟三 62歳 小説家
- ・オートクレンペラー 89歳 指揮者
- ・ブルースリー 32歳 武道家 俳優
- ・我妻栄 76歳 法学者
- ・サトウハチロー 70歳 詩人
- ・アプロカザルス 97歳 子口奏者
- ・アベベピキラ 41歳 マラソン選手

す。決して焦らせることも無理をさせることもなく、でも甘やかすこともない。すばらしいリーダーでした。

三回目の登山は秋に御嶽山でした。岐阜県側の濁河にキャンプして、早朝起きた時に見た、まさに全天降り注ぐような星空は、今も鮮明に脳裏に残っています。あまりの星の多さに、いつものオリオン座を見つけるの時間がかかったほどでした。

残念ながら、この三回の登山で山岳部の活動はなくなってしまうました。苦しかった時の先生の言葉を思い出します。「一歩登れば一歩頂上に近づく。これは永遠の真実だ」この言葉は、その後もずっと私の心の支えになっています。もしかしたら大山先生は今でも山に登っていらっしゃるのでしょうか。

雑感

小島 邦彦

昭和五〇年卒

本稿は、小島邦彦君から送られてきたメールです。ご本人の承諾を得て会報に掲載致しました。

私は、一九七五年に卒業後、大学を経て総合商社に勤務し、昨年春に石油化学製造メーカーへ転職して、現在はその会社のインドネシア子会社に勤務中です。総合商社時代から一貫して石油化学製品を扱い、勤務地は東京、米国、韓国、インドネシアと外地での生活が日本よりも長くなりました。

現在は二度目のインドネシア駐在、インドネシアだけで通算十年を超えました。日本を離れた生活を続けると、日本にいた時以上に日本の状況が気になりますし、日本人としての自覚も増すように思えます。今回、こうして寄稿できる場をいただき、ビジネス界から見た日本（人）の問題点や今後の在り方について述べさせていただけようと思います。

日本人は、平均的に「まだ」優秀です。資源もない小さな土地に一億を超える人が住み、第二次世界大戦の敗戦国がここまで成長したのです。トヨタを始めとする大企業のみならず、中小企業でも誰にも真似ができない技術を有しています。仕事に取組む姿勢では、東南アジア諸国はもちろん、

欧米にも決して負けないし、むしろ凌駕していると自明できます。

しかし最近では、いろいろな面で陰りや衰退がはじめています。端的には、中国が台頭し、日本のGNPを抜くと言われています。ビジネスは、言わば武器無き戦と極言できるでしょう。昔の欧米列強の極東、東南アジア植民地化ではありませませんが、経済による覇権主義は明らかです。日本が、欧米や中国に経済で呑み込まれることなく生き残って繁栄していくには、この経済競争を勝ち抜く必要があります。

そのための根本となるのは教育であると信じます。今日の日本は、サムライ魂や和の精神など種々の要素により国際的な地位を確立したわけですが、その基礎は教育にあつたと思えます。しかも、単純な詰め込み教育ではなく、日本の文化・歴史を把握し、物事を論理的に展開し、相手を説得・理解せしめる力を養う能力の教育です。理系ならば、新たな技術理論への飽くなき追求と探求心の養成です。こういう日本人が真の日本人で

あり、世界で通用することでしょう。

昨今の日本の疲弊は、煎じ詰めればこの教育が疎かになつているためではないか。その意味で、我々の子供（若者たち）や次世代の子供たちの教育は、非常に大きな意味をもつと言えます。どの企業も、日本国内だけで稼げなくなつていきます。海外市場で事業を展開するのは商社だけではないなつていきます。因みに、ここインドネシアのジャカルタには、一万人強の邦人が生活し、タイのバンコクには、この三倍が住んでいます。海外でも十分仕事をこなせる子弟を養成していくことが、これまでに以上で大切になるでしょう。

岐阜高校出身者は、ビジネス界よりも象牙の塔や官公庁へ進む方が多い傾向がありますが、石油化学業界にも少なからず出身者がおられます。皆さんおしなべて有能で活躍されておられます。現在の岐阜高校にも、我々の時代同様、優秀な子弟が勉学に励んでいられると思います。彼らの親御さんが我々の世代ではないでしょうか。彼らが順調に成長し、

あんなことこんなこと
一九七四年(昭和四九年)

- ①トピックス
 - ・東京国立博物館で「モナリザ展」開催
 - ・高野連「金属バット」使用を許可
 - ・日本女性山岳隊女性初のマナスル登頂成功
 - ・伊豆半島地震
 - ・東京の人口初めて減少
 - ・丸の内線過激派による企業爆破事件
 - ・佐藤栄作「ヘルプ」平和賞受賞
 - ・超能力アーム ユリゲラー来日
 - ・ブルガリア国際バレエで森下洋子第一位
 - ・ガッツ石松、世界ライト級チャンピオンに
 - ・堀江謙一、単独無寄港世界一周(75日間)に成功
 - ・ルパン3号島から小野田寛郎元少尉帰還
 - ・「ルサイ」のばら「アーム」長谷川天演出演
 - ・長嶋茂雄現役引退、巨人軍監督就任
 - ・巨人軍王二連続で三冠王
 - ・愛国「発」幸福「行き」切符アーム
 - ・国鉄初の全面連休、戦後最大の4日決戦ゼネスト
 - ・田中内閣総辞職、三木内閣成立
 - ・ピニン・ホルク、最年少十八歳で全仏テニス優勝
 - ・春の甲子園優勝、報徳学園(兵庫)
 - ・夏の甲子園優勝、銚子商(千葉)
 - ・日本シリーズ優勝、ロッテオリオンズ
- ②物価
 - ・サラリーマン平均年収 251万円
 - ・大卒初任給 67400円
 - ・ガソリンリットル 98円
 - ・コーヒ一杯 167円
 - ・ビール大瓶一本 160円
 - ・たばこ「ハイライト」一箱 120円
- ③流行語
 - ・新聞購読料一カ月 1700円
 - ・金脈
 - ・狂乱物価
 - ・省エネ
 - ・スフィン曲げ
 - ・オカルト
 - ・優しさありがとう
 - ・〇〇と日記には書いておこう
 - ・クミコ、君をのせるのだから
 - ・弱者救済国民春闘
 - ・保革伯仲
 - ・かめの音さん
- ④音楽
 - ・日本レコード大賞「傑出賞」森進一

どの分野でも海外勢に伍して
いける環境をつくって行くこ
ともまた、我々の世代の重要
な使命だと痛感しております。

電車のなかで思うこと 通勤時の随想

後藤 伸夫

昭和五〇年卒

会報の世話役の園部さん（通
称「そんち」）だったと記憶し
ております）から執筆の願
いをいただきました。高校を
卒業して以来、年賀状のやり
取りだけで、もう三二年会っ
ていないなあと考えたら、歴
史を感じてしまいました。例
えば第二次大戦の終戦から三
二年後といえば、昭和五二年
：高校も卒業している：自分
自身では、そんなに時が経過
しているという認識など全く
無かったのに。

そんな感慨にふけて通勤
のJR京葉線に乗っていると、
扉の上部の「ぎふデスティネ
ーション・キャンペーン」柿
葉味噌・飛騨牛・連柿・栗き
んとん」なる広告が目飛び
込んできました。私の意識の

中にある岐阜のイメージとは
違う。いや、今はこれなのか？
正直ピンときませんでした。

「岐阜ってどこ？」と聞く人
が多い東京で、目立たないし
これで観光客呼べるのかな、
とマイナス思考になってしま
いました。マイナス思考のス
パイラルは続き、そういえば、
岐阜高校を「ぎこう」と言っ
ても、東海地方出身者以外に
は分からなかったことを思い
出している、電車は八丁堀
駅に着き、このマイナス思考
は終了しました。

地下鉄・日比谷線に乗り換え、
高校時代の記憶をたどると、
校歌の中の「百折不撓」以外に、
数学の大山先生がよく使った
台詞「三歳の童子でも解かる！」
とか「えーい五月蠅い、撃ち
落とせ！」が蘇ってきました。

幼児でも解ける簡単？な問題
を解くことにもう少し努力を
傾注すれば、数学嫌いの典型
的文系人間にならなかつたの
かな：とか、結局撃ち落され
たのは上空の飛行機ではなく、
一六歳の高校生だったかもし
れないとか：。その時期が人
生の転機の一つで、今の自分
に高校時代が大きく影響して

いるなあと思いました。

岐阜から上京し、出稼ぎ生
活が長くなりましたが、ふる
さと納税制度ができれば違和
感なく前向きに考えるだろうし、
ワーキングプアのTV番組で
岐阜の繊維業のことが取り上
げられると他人事とは思えな
いし、高校野球やラグビーな
どの大会も岐阜県の代表を自
然に応援するし。ぼんやりと
郷土愛、母校愛が根底にある
んだな、とも思いました。

故郷や母校に何ができるのか。
今は具体的には何もありません
が、今後はいろいろ考える
局面が増えるような気がして
います。そうこうするうちに
地下鉄は六本木駅に到着し、
今春オーブンした東京ミッド
タウン内の勤務先に着いてい
ました。

正月の帰省スケジュールを
調整していると、今年も帰省
できそうにありません。帰省
は私にとっては字の如く「岐
阜に帰る」ことですが、妻と
子供たちにとっては「岐阜に
行く」ことです。岐阜に対す
る思いを駅伝の襷のようにつ
なげないことで、寂しい気持
ちになる今日この頃です。

今日まで そして明日から

澤田 勝範

昭和五〇年卒

：わたしは今日まで生きてみ
ました。時にはだれかの力を
かりて：

タクローを聞き、少年サン
デーに連載の漫画「男組」の
流全次郎・神竜剛次の生き様
と主義に感動し、でも実生活
は山上たつひこの「新喜劇思
想体系」の練馬変態クラブの
ような生き方に憧れた。

加藤の下宿で麻雀し、タバ
コで彼の布団を焦がし、佐藤
の家ではよく酒を飲んでゲロ
入りバケツを抱え柱にもたれ
て寝てしまったり、バレンタ
インデーにサッカー部の後で
誰からもチョコをもらえなさ



- ・ひと夏の経験
- ・なごり雪
- ・精霊流し
- ・あなた
- ・うそ
- ・ふれあい
- ・くちなしの花
- ・積木の部屋
- ・小さな恋の物語
- ・二人でお酒を
- ・私は泣いています
- ・心もよう
- ・天使のさよさき
- ⑤文学・ベストセラー
 - ・芥川賞「あの夕陽」日野啓三
 - ・芥川賞「土の器」阪田寛夫
 - ・直木賞「鬼の詩」藤本義一
 - ・直木賞「雨やどり」半村良
 - ・直木賞「アトラス伝説」井出孫六
 - ・かもめのジョナサン
 - ・ノストラダムスの大予言
 - ・華麗なる一族
 - ・ローラ叫んでごらん
 - ・青春の門・放浪編
- ⑥映画
 - ・「田中角栄研究その金脈と人脈」文芸春秋記事
 - ・ゴッドファーザーII
 - ・日本沈没
 - ・ノストラダムスの大予言
 - ・砂の器
 - ・サンタカン八番館望郷
 - ・青春の蹊跡
 - ・伊豆の踊子
 - ・アマネス
- ⑦テレビ
 - ・ジ・サスケライスト・スト・パスター
 - ・パンチD.E.アード
 - ・レッツゴーヤング
 - ・鳩子の海
 - ・勝海舟
 - ・寺内貫太郎家
 - ・宇宙戦艦ヤマト
- ⑧有名人を偲ぶ
 - ・いわさきちひろ(56歳)画家
 - ・山本有三(86歳)小説家
 - ・デーブ・エレントン(75歳)ジャズピアニスト
 - ・花菱アチャコ(77歳)漫才師
 - ・高田敏子(82歳)教育家
 - ・南原繁(85歳)政治学者

そんなバスケット部の佐藤・森を誘って体育館横の駄菓子屋で三人でストロベリーチョコを買って交換したり。下校時、自転車の後ろに永井を乗せ、忠節駅前のニュージャパンで、学生服の上着を脱いだだけで下は黒ズボンのままでパチンコしたり、ブルース・リーの「燃えよドラゴン」に感化され、図書館の掃除用モップを拝借しスUNCHャクを自作してコブだらけになりながら特訓したり、伊藤とイタズラでお互いの自転車部品をバラしあったのがエスカレートし、いつの間にか自転車が十数台吊り上げられる事件になったり。その件で職員室で先生から雷くらつたとき、張本人の伊藤が学生服に見せかけた黒いジーパンをはいていたのがばれてダブルで叱られたり。

本格的に受験勉強を始めなければならぬ三年の夏休みみに敦賀の水晶浜まで海水浴キャンプに行き、結構沖まで漕いだボートが転覆し冷や汗かいたり。たまに学校近くの雀荘で先生方とハチあわせしたり（ちなみに、ここに名前が出た同級生、みなさん立派な

社会人として活躍されてます）。

まあ、今思い出すとなんとも幼稚ではあるが楽しいことばかりやっていった。かといってあの頃に戻りたいとは思わない。五〇歳になった今まで、概ね楽しい人生だったけど、辛い経験したことしか分らないし語れないし想像もできない人間なので、日々年をとって体が衰え、頭脳が落ち着き、これらの老化自体が新たな体験で、これまた楽しい。

老眼鏡が必須になったり、白髪が束になってきたり、酒好きの度合いは変わらないうけど随分早く酔えるようになったし、どんどん早寝早起きになっていく。写経したくなったり、山歩きが好きになったり、メチャ典型的なオヤジに進化している。でもそれが新鮮。老化しないといいなど感じる事ができない事がいかに多いか…。

多分、これからもささやかな人生で、大向こうをうならすような生き方や新聞を賑わすような活躍もないだろうけど、長良川の流れに浮くゴミの如く、自ら廻ることもなく、時には風に吹き寄せられながら日々

暮らしてゆくのだろう。では、また一〇年後。…そして今わたしは思っています。明日からもこうして生きてゆくだろうと…



昭和五〇年に卒業して既に三〇年余りが過ぎました。私の娘たちのうち一人が昨年まで、そしてもう一人が現在岐高にお世話になっていきます。今回、会報に執筆の依頼をいただいたので、私たちが過ごした三〇年前と現在の岐高との比較を、「新人類」である娘たちを観察しつつ紹介したいと存じます。

まず、最大の驚きは、娘の入学式に、創立百周年記念として建設された体育館に入った時のことです。何と女子生徒が極めて多いのです。四割強が女子だとか。私たちの頃は、四六〇名中女子は八〇名と少なく、今思い出すだけでも青臭い「男子クラス」が六クラ

スも存在しました。最近はその方が真面目に勉強するため、進学校で女子の割合が増えているとのこと。日本の将来を担う男子諸君の奮闘を祈りたいと思います。

さて、岐高の女子生徒の「箱髷スカート」は、元来縦に長いものであり、さらに受験の際に風邪をひいては、という理由で、素敵であったろう御足を堅固な肌色ストッキングで包んでおられたのがあの頃でした。ところが流行に敏感な（周囲に同調しやすい）上の娘は、父親の私にスカートを一五センチ切ってくるよう依頼する始末。お蔭で私は、変な趣味のオヤジと勘違いされました。もちろん足は生足で、親からもらった大切な眉毛まで剃ってしまった。

私たちの頃は「親単」を手放したことがなかったのに、今の娘は携帯とかいうものを寝るときも手に持って、極めて散文的文章で友人と会話しています。現代国語の先生にはご迷惑をかけたと思います。二人目の娘は、勉強ではなく部活に命をかけているようです。私たちの頃は午後三時

あんなことこんなこと

一九七五年(昭和五〇年)

①トピックス

- ・天皇・皇后両陛下、日米国交史上初の訪米
- ・山陽新幹線、岡山―博多間開通
- ・ザ・ビートルズ芸界引退
- ・かくや姫、神田共立講堂で解散コンサート
- ・田部井淳子、女性で世界初の六人レスト登頂
- ・沖縄海洋博覧会開幕
- ・SL最後の走行(室蘭本線)
- ・三億円事件時効成立
- ・京都に「東映大衆映画村」オープン
- ・東京女子医科大学、日本初のCTスキャナー導入
- ・赤ヘル軍団広島東洋カープ悲願の初優勝
- ・大関貴ノ花初優勝
- ・サイゴン陥落、ベトナム戦争終結
- ・春の甲子園優勝(習志野(千葉))
- ・夏の甲子園優勝(高知(高知))
- ・日本シリーズ優勝(阪急ブレーブス)

②物価

- ・サラリーマン平均年収 288.3万円
- ・大卒初任給 83600円
- ・ガソリン(リットル) 112円
- ・コーヒー一杯 194円
- ・ビール大瓶一本 180円
- ・たばこ(ハイライト)一箱 120円
- ・新聞購読料(一月) 2000円

③流行語

- ・チャレタビ
- ・乱塾時代
- ・私つくる人僕食べる人
- ・複合汚染
- ・アンタあの娘のなんなのさ
- ・オヨヨ
- ・負けそー
- ・中ビ連
- ・お邪魔虫
- ・世界同時不況
- ・スト権スト
- ・ライフサイクル
- ・フラックホール
- ・植物人間
- ・バカうけ

④音楽

- ・日本レコード大賞「シラメンのかほり」布施明
- ・あの日に帰りたい
- ・北の宿から
- ・時代

半に授業が終わると飛ぶように帰宅したのですが、娘はトロンボーンという地味な楽器に熱中しています。学年順位や点数に一喜一憂した私たちと違い、「実力テストは追試がないし、実力でやるんだ」などと大胆な発言をしてテレビ鑑賞に精を出している娘の姿を見ると、本来の高校生活を送っているようで羨ましくもあります。

さて、あの頃高校生だった私は、順調に年だけを重ね、「五〇過ぎのオッサン」になってしまいました。近況としては、残り少ないサラリーマン生活を細々と、窓から少し離れた所で送りながら、厄年を過ぎた記念と老後のボケ防止を兼ねて始めたチエロの練習に精を出しています。

毎年、あの岐阜県音楽の殿堂サラマンカホールを冒流するような恥ずかしいソロ演奏をしても、「百折不撓」。めげることなく、手が動く限り



弾き続けたいと思います。一昨年、娘に新しい携帯電話を買ってやると言ってピアノで伴奏させ、エルガーの「愛の挨拶」を弾きました。娘の結婚式では絶対に弾かない（弾けない）ので、最初で最後の共演となりました。

そして、二人の姉にプレッシャーをかけられている中学の息子が、もしも岐高に入学できたなら、おそらく新品の校舎で親父と同じような楽しい日々を送れるだろうと、彼の健闘を祈っています。

筆者は一〇年前に会報の編集作業をお手伝いし、その際には駄文をもつ機会を得ました。その後もおかげさまで健康に過ごすことができましたが、この一〇年で新たに始めたことがあります。それは全国の鉱山を巡ることです。

我が国は小さな列島ながら、近世以降に様々な鉱山が栄枯盛衰を繰り返し、それが近代化と産業化の源泉となりました。しかし現在では国内で稼働する鉱山は極めて少なくなり、環境問題の逆風の中、日本人のものづくり文化は加速度的に稀薄化しつつあります。こうした状況の中で、近代化産業遺産が静かな注目を集めています。この文を書いている〇七年には、石見銀山がユネスコの世界遺産に認定されましたし、秋には足尾銅山跡が国の史跡に指定されました。

鉱山史と産業近代化遺産を訪ねる旅のこと

園部 利彦
昭和五〇年卒

筆者は、大学で工業化学を

学び、今は母校で化学を教えています。そしていつの頃からか、産業近代化への貢献とものづくりの技術から鉱山の歴史に興味をもつようになったわけですが、これまでに訪ねた主な鉱山と近代化産業遺産を挙げますと、以下のとおりです。

- (九八年) 足尾銅山
- (九九年) 日立銅山、那珂湊反射炉
- (〇〇年) 佐渡金山、葦山反射炉
- (〇一年) 石見銀山、丹生水銀鉱山
- (〇二年) 尾小屋鉱山、奥出雲の鉄山と鑛、由良台場、六尾反射炉
- (〇三年) 多田銀山
- (〇四年) 生野銀山、明延鉱山、相良油田
- (〇五年) 甲斐湯之奥金山、半田銀山、高玉金山、筑豊炭鉱
- (〇六年) 別子銅山
- (〇七年) 釜石の鉄山と製鉄遺構、官営富岡製糸場

旅の楽しみは、いつもその計画からです。筆者の鉱山の旅の場合は、行き先の鉱山の歴史を知るところから始まる

- ・今はもうだれも
- ・心のこり
- ・およげたいやきくん
- ・昭和枯れすすき
- ・時の過ぎゆくままに
- ・ロマネス
- ・想い出まくら
- ・港のヨロコボハマヨコスカ
- ・「いち」白書」をもう一度
- ・私鉄沿線
- ・年下の男の子
- ⑥文学：ベストセラー
 - ・芥川賞「祭りの場」林京子
 - ・芥川賞「中上健次
 - ・芥川賞「志賀島」岡松和夫
 - ・直木賞「復讐するは我にあり」佐木隆三
 - ・播磨灘物語
 - ・複合汚染
 - ・火宅の人
 - ・崩れゆく日本をどう救うか
 - ・ブラック・ホール
 - ・元禄太平記
 - ・梅干しと日本刀
- ⑥映画
 - ・カッコーの巣の上で
 - ・伊豆の踊子
 - ・青い山脈
 - ・青春の門
 - ・潮騒
 - ・金環蝕
 - ・実録阿部定
 - ・タワーリング・インフレノ
 - ・大地震
 - ・エミール夫人
 - ・アランドロンのゾロ
- ⑦テレビ
 - ・欽ちゃんのドンとやってみよう
 - ・パルケイデアアタック255
 - ・プロポーズ大作戦
 - ・元禄太平記
 - ・Gメン75
 - ・まんが日本昔ばなし
 - ・一休さん
- ⑧有名人を偲ぶ
 - ・蔭介石 87歳 政治家
 - ・佐藤栄作 74歳 政治家
 - ・榎方志功 72歳 版画家
 - ・アールドトインビー 86歳 歴史学者
 - ・ルイ・アンダーソン 67歳 作曲家

のです。文献は鉾山によって様々で、関連書籍が多く出版され、容易に入手できる鉾山もあれば、地元の資料館や古書店に行かないと入手できない場合、さらには国土地理院の地形図しか資料がない（つまりは研究者が少ない）こともあります。



松本市・開智学校にて

鉾山は、冬は氷雪に閉ざされ夏は藪や蛇に閉ざされます。現地では、山道や道なき道と格闘することもあります。坑道の広さは時代をよく反映しており、機械化以前の手掘りの鉾山は狭くて、開発された時代の特徴を伝えていきます。また、観光化の点では千差万別で、旅番組の一大観光地もあれば、例えばゴールデンウィークなのに自分の前にも後

ろにも車を見ないという時もあります。バブル期以前に企画された総合開発が頓挫したところから地域振興策や真摯な保存がなされている所など、現代日本の断面を見る思いです。こうした旅を、筆者は毎年一度のお楽しみにしています。足腰が丈夫なうちに、現在の研究を重ね、かつ深めたいと考えています。

私にとつての

岐阜高校

高村 茂

昭和五〇年卒



岐阜を卒業して早三〇余年が経った。ということは、岐阜を離れてほぼ同じ時間が経過したということである。

帰省する回数も限りなくゼロに近づいてしまっているので、

岐阜の街の変化についても疎く、ましてや岐阜の情報についてはずっと入手していなかった。ところが、全日本合唱コンクールでの大活躍を新聞で読み、久々に岐阜のホームページを見てみた。おおつ、校舎が新しくなるようです。何と柔道部はほとんど部員がいない！

三〇余年が経過し、私にとつての岐阜高校は何だったのかと考えると、やはりクラブ活動に帰着すると思われる。

当時、私は柔道部に所属していたのである。短い時間ではあったが、毎日放課後の練習が生活のリズムであった。とは言うものの、当時はタイムマネジメントなどという概念は持ち合わせていなかった。次は勉強など効率良い生活はできず、家に帰ると疲れきっていつとあえず寝る、という生活だったことを思い出す。

柔道部では、顧問の渥美先生や諸先輩が大変厳しかったので、練習が楽しかったわけでは決してなかったが、その時に培われた精神力が今でも自分の中に宿っていると感ずることがある。

強かろうが強くなかろうが先

輩は先輩としてリスベクトする上下関係、積極的に前に出ないと練習相手すら見付けられない稽古の仕組み、勝たなくてもよいがどうしても引き分けなければならぬ団体戦のプレッシャー。これらは全て、今私が社会で活動する際に役立っていることである。

そして、寝技で口を塞がれて呼吸困難になりながらも、何とかそこから逃れようとする顧問との攻防も、今は良き思い出である（今時このような指導は認められないかも……）。

このような活動が三年間続いたおかげで、学力はさておき、精神面では知らず知らずのうちに鍛えられたような気がする。

一方で、高校生活という観点からすると、岐阜の受験一辺倒の雰囲気は好きではなかったことを思い出す。勉強があるからと掃除をしないで帰るクラスメイトを見、「高校生活を真面目に送らない奴に、いい受験の結果が出るわけがない」などと思っていたら、そいつが現役で合格して自分が浪人したとか、担任から「高村は普通の高校でいい生徒なんだが岐阜高じゃなあ……」などという言葉を戴いた

あんなことこんなこと

一九八二年(昭和五七年)

①トピックス

- ・千年ふり九惑星による惑星直列現象
- ・五〇〇円硬貨発行
- ・中央自動車道全線開通
- ・警察官立ち会いの卒業式増加
- ・米穀通帳消える
- ・岡本綾子、全米ツアーで優勝
- ・IEM産業スバイ事件
- ・ホテルニューグランド火災
- ・羽田沖で日航機墜落

- ・東北新幹線・上越新幹線開通
- ・リニアモーターカー世界初の有人走行実験
- ・オリエンタル急行「復活」(ワンダフル)
- ・ソ連の「金星13号」金星に初着陸
- ・モナコレース王妃、自動車事故死
- ・国連特別総会に反核百万人デモ
- ・春の甲子園優勝PL学園(大阪)
- ・夏の甲子園優勝池田(徳島)
- ・日本シリーズ優勝 西部ライオンズ

- #### ②物価
- ・サラリーマン平均年収 476万円
 - ・大卒初任給 1,772,000円
 - ・ガソリン(リッター) 172円
 - ・コーヒ一杯 264円
 - ・ビール大瓶一本 265円
 - ・たばこ(ハイライト)一箱 110円
 - ・新聞購読料一月 2800円

- #### ③流行語
- ・ネクラネアカ
 - ・心身症
 - ・ほとんど病氣
 - ・田中曾根内閣
 - ・風見鶏
 - ・ロリコン
 - ・んちゃ
 - ・イマイ
 - ・なめたらあかんぜよ

- #### ④音楽
- ・日本レコード大賞 「北酒場」細川たかし
 - ・シルエットロマンス
 - ・待つわ
 - ・セーラー服と機関銃
 - ・聖母たちのララバイ
 - ・チャコの海岸物語
 - ・赤いスイートピー

いった具合である。

しかし、今の自分があるのは、
岐阜に在籍していたことが少な
からず影響していることは間違
いない。今でも六歌仙が言える
のも、「ここに変なボールがあ
る」と言つて物理的にものを考
えられるのも、やはり岐阜のお
かけである。この積み重ねが岐
高の伝統なのかもしれないが、
いずれにせよ、柔道部現役の皆
さんには廃部ということのない
ように頑張つていただきたい。

PSセミナーを 担当させて いただいて

寺嶋 昌代
(旧姓・野田)

昭和五〇年卒



この原稿を書く少し前(昨年
一〇月二日)に岐阜高校の「P
Sセミナー」で講師を担当させ
ていただきました。この催しは、

生徒の人生観・職業観の育成を
目的として、親の世代が人生の
先輩として伝えたいことを語る
会で、毎年一年生を対象に秋に
行われています。

高校生の皆さんの手本となる
ような人生を歩んでいるとは思
えないので、ふらふらしている
一例として考えていただければ
とお引き受けし、私の自分探し
という題でお話しました。その
ときの内容を簡単に述べたいと
思います。

私の高校時代は、それこそ勉
強ばかりしていた記憶しかあり
ません。私は基本的に勉強が好
きです。新しいことを学ぶこと
が大好きです。私が岐阜高校に
感謝することは英語に関してで
す。英語は得意ではありません
が、後にアメリカに滞在した際
には語彙が豊かだとか、英語力
があるとか、国際学会で発表し
たときには発音がきれいだとか
褒められたことがあります。き
つと岐阜高校で鍛えられたお蔭
だと思えます。そうは言っても、
未だに英語で論文を書くのは本
当に苦しいです。

私は、科学を勉強したくて京
都大学理学部に入りました。と
ころが、五〇人ぐらいのクラス

に女性が一人で、カルチャーシ
ョックを受けました。四回生に
なつて研究室に入つても女性は
一人という状態で、緊張は続き
ました。修士課程までは化学専
攻で、有機化合物の励起三重項
状態の研究を終えて卒業しまし
た。その後、各務原市にある東
海女子大学(現東海学院大学)、
東海女子短期大学に勤務してお
ります。夫の仕事の関係で仙台
に住んだ四年間は、子どもを背
負つて週末週明毎に、東海道新
幹線・山の手線・東北新幹線を
乗り継いで通いました。

今は大津に住んでおり、山科
米原、大垣経由で毎日JR通勤
しています。遠距離通勤に関し
ては専門家です。時間の無駄使
いだと思ふこともありますし、
働く夫婦は別居も一つの選択肢
かもしれません。しかし、一緒
に暮らすのがいいとの考え方で、
私の方が遠距離通勤しています。

大変ですけれども、電車に乗つ
てぼつとしているのが嫌いじゃ
ないからできるのだらうと思ひ
ます。今の通勤で一番好きな景
色は、垂井から醒ヶ井にかけて
です。伊吹山の裾野をぐるつと
巡ると、豊かな自然に癒されま
す。伊吹山に朝陽があたる光景

は、すがすがしく、凜とした
気持ちになります。

四〇歳の時、奈良女子大学
大学院(博士課程)に入りま
した。ここでは生物専攻で、
原生動物の中の繊毛虫ブレフ
アリズマの毒性色素の機能の
研究をしました。女性が多い
環境の中で、のびのびとでき
ました。

現在は、東海女子短期大学
での教育の傍ら、生涯学習セ
ンター長として、公開講演会
や様々な生涯学習講座の企画、
運営の仕事が三年ほど続いて
おります。また、私は心の対
話者やコーチング、キャリア
カウンセラーの資格をもつて
います。これらは学生との対
話やカウンセリングに生かせ
ればと取得したのですが、最
近ではこちらの方でも講演依
頼を受けることがあります。

適性を考える上で、データ
かアイデアか、関心の対象が
人かモノか、という点で自分
を見てみるとどうでしょうか？
そういう自分は、両方なの
です。スペシャリストになり
たかったのですが、私はとて
もジェネラルでバランスのと
れた人間であることが今頃に

- ・渚のバルコニー
- ・夢の途中
- ・少女A
- ・アソ
- ・居酒屋
- ・フワイスオーナー
- ⑤文学・ベストセラー
 - ・芥川賞「夢の壁」加藤幸子
 - ・芥川賞「佐川君からの手紙」唐十郎
 - ・直木賞「炎熱商人」深田祐介
 - ・直木賞「時代屋の女房」村松友視
 - ・悪魔の飽食
 - ・怒きわのトットちゃん
 - ・吉里吉里人
 - ・気くばりのすずめ
 - ・日本国憲法
 - ・功大好き
- ⑥映画
 - ・ガンジー
 - ・セーラー服と機関銃
 - ・ソフィーの選択
 - ・大日本帝国
 - ・鬼龍院花子の生涯
 - ・蒲田行進曲
 - ・ひめゆりの塔
 - ・ロッキー3
 - ・黄昏
- ⑦テレビ
 - ・時の群像
 - ・三国志(人形劇)
 - ・笑っていいとも!
 - ・ハイカラさん
 - ・よいいドン
 - ・家族の神話
 - ・南の虹のルーシー
 - ・魔法のプリンセス ミキシーモモ
 - ⑧有名人を偲ぶ
 - ・江利チエミ(45歳)歌手
 - ・水原茂(74歳)プロ野球監督
 - ・クレンケルド(51歳)ピアニスト
 - ・ルービンシュタイン(96歳)ピアニスト
 - ・マリオン・ヘレン(54歳)ピアニスト
 - ・クレステルモナコ(68歳)テノール歌手
 - ・シリー・フオオン(77歳)俳優
 - ・イングリッド・バーグマン(67歳)女優
 - ・灰田勝彦(71歳)歌手
 - ・ロイ・ジーンズ(53歳)俳優
 - ・南伸介(52歳)コメディアン



文楽の桐竹勘十郎さんと

あろう君たちが、
卓高校の生徒とも
り落胆され、「岐
阜高校の生徒とも
あろう君たちが、



「晴れ」と「曇り」

西崎 美也子
昭和五〇年卒

なつて分かりました。また最近、
エニアグラム（人間を九つの
タイプに分け、キャリアカウ
ンセリングや企業の人材開発
研究で使われる手法）を紹介
する活動も行っています。
さて、高校生たちは、今自
分に必要なものを私の話から
切り取り、彼らの糧にしてく
れたようで、講演会というも
のは、そういう利点があるの
だと逆に学びました。狭い教
室で学びながらも、将来に目
を輝かせている若者から元氣
をもらうことができました。

高校時代に理数系の科目が
苦手だった私が、唯一楽しみ
にしていた授業がありました。
それは岡本靖先生の現代国語
の授業です。今日はどんな講
義が聞けるのかな、と楽しみ
に思つて授業に臨んでいまし
た。特によく覚えていたのが現
代詩の授業で、先生が朗読し
てくださった草野心平や中原
中也の詩の響きは、今でも耳
に残っています。また、小説「海
の沈黙」を読んで感想文を書
いたことも強く印象に残って
います。最近は何でもすぐに
忘れてしましますが、主人公
のヴェルネル・フォン・エプ
レナクの名前はなぜか今も覚
えています。

この字を読めないとは情けない
というような意味のことを言わ
れ、私はその時大いに恥じ入
つたものでした。（ただし、最近
職場の同僚にこの字を読めるか
聞いてみたら誰も読めなかつた
ので、高校生の私がそんなに恥
じ入ることはなかったかもしれ
ません。）その言葉が「晴れ」
の反対の意味であることもその
時初めて知りました。
あれから三〇年以上が経ちま
したが、私は最近特にこの「晴
れ」と「曇り」という言葉を意識
します。「晴れ」の場面をもつ
こと、それはすなわち人が研ぎ
澄まされた瞬間を生きたことだ
と思います。私はもう半世紀も
生きてきてしまったので、やや
もすると気持ちの上で「曇り」ば
かりになってしまいがちですが、
人間にはいくつになつても「晴
れ」の場面が必要だと思つてい
ます。

を求めれば、おのずと「曇り」
の部分ではできるだけ秘めてお
こうという気持ちが働き、今盛
んに取り沙汰されている「品格」
が保たれるのではないでしょ
うか。
岡本先生のあの日の授業の
意図は違ったものであつたか
もしれませんが、三〇年以上
経つた今、私はこんなことを
考えるのです。



鉄腕アトムに

あこがれて
広瀬 かおる
昭和五〇年卒

- ①トピックス
- ・おしぐす
 - ・東京アイズ「ランドオブパン
 - ・任天堂「ファミコン発売
 - ・天井棧歌解散
 - ・奈良明日香で彩色壁画
 - ・将棋・谷川浩司史上最年少名人に
 - ・東北六医学部で日本初の「試験管ビー」誕生
 - ・日本海中部地震（M7.7）
 - ・三宅島大噴火
 - ・フィリピン、アキノ氏暗殺
 - ・大韓航空機ソ連戦闘機に撃墜
 - ・ミスアメリカに初の黒人
 - ・春の甲子園優勝・池田（徳島）
 - ・夏の甲子園優勝・PL学園（大阪）
 - ・日本シリーズ優勝・西武ライオンズ
- ②物価
- ・サラリーマン平均年収 490万円
 - ・大卒初任給 132200円
 - ・ガソリン（リットル） 156円
 - ・コーヒー一杯 274円
 - ・ビール大瓶一本 285円
 - ・たばこ（ハイライト）一箱 170円
 - ・新聞購読料一カ月 2800円
- ③流行語
- ・積不くすし
 - ・軽薄短小
 - ・愛人バンク
 - ・いいとも
 - ・フォーカスされる
 - ・少し愛して、ながく愛して
 - ・マ・カセ・ナサイツ
 - ・やるきやない
 - ・ルンレン
 - ・気くばりのすすめ
- ④音楽
- ・日本レコード大賞「矢切の渡し」細川たかし
 - ・悲しい色やね
 - ・ささやかな宿
 - ・越えつばめ
 - ・めだかの兄妹
 - ・水雨
 - ・キャッツアイ
 - ・ガラスの林檎
 - ・ボヘミアン

る「科学」に何となくあこがれるようになりました。そんな影響もあってか、大学は薬学部を選択し、学部時代には発癌性化学物質の作用機序に興味をもち、卒業実習に取り組みました。

卒業後は愛知県がんセンター研究所で発癌に関する研究の一部にでも携われれば、と愛知県に就職しました。ところが、実際に配属されたのは愛知県がんセンター研究所の疫学部でした。実験などは全く行わず、コンピューターを相手にひたすら疫学の調査研究をする部門です。疫学の知識がほとんどなかった私が、テキストをばらばらとめくって目に入ったのが、疫学の歴史上注目すべき業績として紹介されていたジョン・スノウ(John Snow)の業績でした。

スノウは、英国のヴィクトリア女王の分婉にクロロホルムを使用した麻酔科医として有名な一九世紀の人物です。一八五四年にロンドンのブロードストリートでコレラの大流行が起こり、通りから数ブロック内の地域だけでも六百人の人がコレラで死亡しま

した。

当時、病因として広く支持されていたのは「ミアスマ」でした。つまりは雲のような物質を介して伝播すると考えられていたのです。ところがスノウの考えは違いました。スノウは一軒一軒家を訪ね、死者の発生地図、死亡の日別分布表を作成するなどの検討を加え、流行の原因になっているのが共同井戸の汚染であることを突き止めたのです。

もちろん、コレラが伝染病であることは、今では誰もが知っていることですが、当時は、腸管毒性のあるビブリオ・コレラという病原菌の存在が発見される二〇年前です。

スノウのこの史実は、病気の原因が分からなければ病気が予防できないと考えていた私にとって、目から鱗が落ちる思いでした。病気の原因に関する研究はもちろん必要ですが、病気を予防する上では、必ずしも病因や病態が完全に解明されていなくても予防ができるという「予防医学」の重要性を教えられました。以来ちよつとはまったまま、現在に至るといったところで

その後は、主に乳癌の疫学研究に携わり、肥満や栄養・食事との関連を中心に取り組んできました。米国の推計によれば、癌の原因の約三割は食事にあるといわれています。私たちは食事をしない日はないので、食習慣のささいな偏りが、将来の生活習慣病につながります。癌を中心とした生活習慣病の予防に有用な情報が提供できれば、と励んでいるわけです。

研究のためには、不安を抱え体調の思わしくない方に、食事や生活習慣など多岐にわたる調査や血液のご提供などをお願いします。研究所の疫学・予防部では、一九八八年から

愛知県がんセンター中央病院の初診患者を対象に、大規模な病院疫学研究を実施しており、十万人を超える患者様の膨大なデータをもとに、多くの研究成果が報告されています。「私のデータで癌予防の研究に役立つなら」と、ご協力くださる多くの人たちの思いを感じながら、研究に取り組んでいます。

研究成果がまとまり、それなりに論文が完成した時には、ちよつと難しいパズルやクイズが解けたような快感を味わうことができます。そんな時は、当時流行していた青春ドラマのように、グラウンドを駆け抜け、長良川の堤防を駆け上がり、夕陽に向かって叫びたい気分です。私にとっては、ようやく今が「青春時代」といったところでしょうか。

涙定量・汗無限 故佐光義民先生 の教えから

堀江 誠
昭和五〇年卒



佐光義民先生といえば、私達が一年から二年にかけての校長であり、当時の全校集会などで、ATP(アデノシン三リン酸)のことや、正しい

- ・夢芝居
- ・時をかける少女
- ・三年目の浮城
- ・フラッシュダンス
- ⑤文学・ベストセラ―
- ・芥川賞「空」の世界「笠原淳
- ・芥川賞「光抱く友よ」高樹のぶ子
- ・直木賞「黒い仔虜記」胡桃沢耕史
- ・直木賞「私生活」神吉拓郎
- ・直木賞「秘伝」高橋治
- ・積木くずし
- ・ひとひらの雪
- ・気くばりのすずめ
- ・探偵物語
- ・意識革命のすずめ
- ・新里見八犬伝
- ⑥映画
- ・愛と追憶の日々
- ・南極物語
- ・探偵物語
- ・時をかける少女
- ・東京裁判
- ・家族ゲーム
- ・E.T
- ・アイコ十六歳
- ・フラッシュダンス
- ・戦場のメリークリスマス
- ⑦テレビ
- ・おしん
- ・徳川家康
- ・誰かが私を愛してる
- ・金曜日の妻たちへ
- ・ふぞろいの林檎たち
- ・ステューアーズ物語
- ・家政婦は見た!
- ・キャプテン翼
- ・キャプテン翼
- ⑧有名人を偲ぶ
- ・小林秀雄(82歳)文芸評論家
- ・寺山修司(47歳)作家・詩人
- ・羽仁五郎(82歳)歴史家
- ・カレン・カレン(32歳)歌手
- ・片岡千恵蔵(79歳)俳優
- ・中村鴈治郎(代目)(81歳)
- ・尾崎一雄(84歳)小説家
- ・中村草田男(82歳)俳優
- ・中川二郎(57歳)政治家

姿勢を保つことの大切さなどを説かれたことを思い出される方も多いのではないのでしょうか。私は、幸い卒業後も先生から教えを受けることができ、先生は大変尊敬している人生の師であります。

先生は、古今東西の格言集を全生徒に配布してくださいだったので、その中に「涙定量」というご自身の造語を遺しておられます。これに「汗無限」を加えて語られることが多かったように思います。「涙定量」と聞いただけで目頭が熱くなる思いです。

人生における悲しみの量は誰もが平等である、と先生は教えられました。これに対して、汗をかくことには限りがない。正に岐高校歌にあるところの「百折不撓つとめて止まず」の精神と一致する言葉であると思います。この「涙定量・汗無限」という言葉が、私のいわば座右の銘となっている今日この頃です。

「涙定量・汗無限」という言葉で、現在活躍中の多くの人々が思い出されます。身近な例では、プロ野球で二〇〇七年に日本シリーズ MVP となっ

た中日ドラゴンズの中村紀洋選手です。彼は、この年に育成選手から再出発し、強打を開花。「中日が拾ってくれたことに感謝し、恩返しを、という気持ちで一年間頑張った」とテレビで語りました。

次は、京セラや KDDI の創業者の稲盛和夫氏です。氏は、若い頃には研究と商品開発に昼夜没頭し、事業に成功した後、利益を社会に還元するとともに、六五歳で得度し、利他の心で生きることをその著書で説いておられます。特に「人様のために尽くす（布施）、一生懸命働く（精進）」といった氏の言葉が印象的です。

この他にも、NHKの番組「プロフェッショナル」に登場する、患者の人生をかける手術にリスク覚悟で立ち向かう脳神経外科医や、失敗を繰り返しながらオーダーメイドの靴作りに挑み続ける靴職人などなど。もう一人、私の大学の一年後輩で、改めて紹介したい人物がいます。米国のイラク爆撃の後、イラクの復興支援に奔走中の二〇〇三年一月二十九日に、凶弾に倒れた日本の外交官故奥克彦氏です。彼は、

米国に協力する日本が反米テログループから狙われることを十分承知し、リスクを覚悟の上で、イラク国内における港の緊急浚渫事業やダウン症障害児施設整備への支援、またイラクへの自衛隊派遣のための下準備等々に全力でありました。

私自身、一人の地方公務員として、日頃仕事を進める上で、自分で考え、自ら実行することを目標としています。彼の言葉にあるように、「仕事で逃げたら終わり」という高い志には改めて感服するところでありました。

今は亡き佐光先生は、「汗無限！」と私を励ましてくれましたが、故奥氏も、天国から「いま、何をなすべきなのか」、「いまやらなければいつやるんだ」と私達にメッセージを送り続けているに違いない、と思うのであります。

それは昭和四十六年、私が八幡中学校三年生の秋のことであつた。私は担任の先生に呼び出されてある一室に入ると、岐高硬式野球部監督の永井弘先生がおられた。小さい頃から野球をやってきた私は、高校では是非硬式野球をと思っていた。しかし、自宅から最も近い郡上高校には当時は軟式野球部しかなく、どこの高校を受験するかで迷っていた。そして永井先生とのこの幸運な出会いにより岐高の受験を決心した。

合格発表が終わり春休みになると、野球部の練習に参加することになった。グラウンドへ行くと、新入部員として足立全規君も参加していた。私は、中学の野球部を引退した後も高校で硬式野球をする同級生と硬式球で練習をしていたので、高校の練習に戸惑いは感じなかった。春休みに



硬式野球部の思い出

松田 一雄
昭和五〇年卒

それは昭和四十六年、私が八幡中学校三年生の秋のことであつた。私は担任の先生に呼び出されてある一室に入ると、岐高硬式野球部監督の永井弘先生がおられた。小さい頃から野球をやってきた私は、高校では是非硬式野球をと思っていた。しかし、自宅から最も近い郡上高校には当時は軟式野球部しかなく、どこの高校を受験するかで迷っていた。そして永井先生とのこの幸運な出会いにより岐高の受験を決心した。

合格発表が終わり春休みになると、野球部の練習に参加することになった。グラウンドへ行くと、新入部員として足立全規君も参加していた。私は、中学の野球部を引退した後も高校で硬式野球をする同級生と硬式球で練習をしていたので、高校の練習に戸惑いは感じなかった。春休みに

あんなことこんなこと
一九八四年(昭和五九年)

- ①トピックス
 - ・初の実用放送衛星「ゆり2号a」打ち上げ成功
 - ・陰湿化するいじめ問題
 - ・口久疑惑
 - ・新紙幣(福沢諭吉・新渡戸稲造)夏目漱石発行
 - ・高見山引退、年寄東関襲名
 - ・インドガンジー首相暗殺
 - ・コアラ、初めて日本上陸
 - ・一票の格差に違憲判決
 - ・ミスターシビロ史上初の四冠馬
 - ・植村直己(マッキントッシュ)冬単独登山成功
 - ・米アップルがマッキントッシュ発表
 - ・春の甲子園優勝(岩倉高校(東京))
 - ・夏の甲子園優勝(取手二高(茨城))
 - ・日本シリーズ優勝(広島東洋カープ)
- ②物価
 - ・サラリーマン平均年収 5115万円
 - ・大卒初任給 133800円
 - ・ガソリン(リットル) 150円
 - ・コーヒー一杯 276円
 - ・ビール大瓶一本 285円
 - ・たばこ(ハイライト)一箱 200円
 - ・新聞購読料(一月) 2800円
 - ・都営バス運賃 160円
- ③流行語
 - ・イケイケ
 - ・くれない族
 - ・エリマキトカゲ
 - ・ちやうぶいちやうぶいんどほつち
 - ・普通のおばさんになります
 - ・マル金
 - ・マルビ
 - ・ザンゲ
 - ・ここはどこう私はだれ?
 - ・飽食の時代
- ④音楽
 - ・日本レコード大賞「長良川艶歌」五木ひろし
 - ・ワインレッドの心
 - ・涙のリクエスト
 - ・浪花節だよ人生は
 - ・もしも明日が...
 - ・北の螢
 - ・桃色吐息
 - ・お久しぶりね
 - ・北ウイング



は春のリーグ戦があり、足立君と二人で当時の県営球場のスコアボード係をしたり、負け試合では先輩のユニフォームを着てピンチヒッターで出場したりした。この初打席は詰まったセンター前ヒットであつた。

四月八日に入学式があり、一〇数名が新入部員となつた。一年生部員は当時の理科センターの軒下で着替えるのだが、私は正門前の松尾下宿に戻って着替えることができて、ありがたかつた。

写真は松尾下宿の同級生である。野球の練習が終わり下宿に帰ると、午後六時にベルが鳴り、食堂で皆揃って夕食をとる。夕食後桶に石鹸を入れて、下駄を鳴らして皆で銭

湯に行く。その後ユニフォーム等の洗濯を終えてから、勉強を始めるのである。下宿には岐高生の男一五人がいた。決して風紀が良いとは言えなかつた(詳細は控える)が、楽しい下宿生活であつた。

一年生夏の県大会は、残念ながら一回戦で敗れた。自身もノーヒット、二塁手としてエラーもして散々であつた。

秋の県大会は準々決勝まで進出したが、大垣商業に〇対一で惜敗した。このときは、再三の好機にもかかわらず適時打が出ず、足立投手は相手を一安打に抑えながら押し出して一点を与えてしまった。

三年間で最も甲子園に近い試合であつただけに、今でもOB会で集まると、我々の時代の監督、選手の間で話が出るのである。

二年生夏の県大会は中京商業に完敗した。この後だつたと思うが、当時県下では珍しかつた女子マネージャーとして竹中(葦埜)美保子さんと中村(江馬城)益子さんが入部した。しかし、地区予選ではスコアラーとしてベンチ入りできたが、県大会では許さ

れなかつた。スクイズのサインの一つにマネージャーがスコアブックを立てるというのができたのもこの頃であつた。

新チームでは、私が主将に選ばれた。秋の地区予選を三勝二敗として県大会に進んだが、またもや中京商業に敗れた。

三年生になると永井監督が転任され、生田久尚先生が新しい監督に就任された。また、安田保馬三塁手の御尊父の故安田保男様(野球部OB)が中心となつて父母会を結成して下さり、福井へ宿泊遠征に行つた。

夏の県大会はエース足立が腰痛のため、初戦(二回戦)は溝口啓介君が先発し、土岐高を一安打に抑えて六対〇で完勝した。三回戦の対県岐商戦は腰痛を押して足立君が完投したが、一対二で敗れた。

いづれの試合も、多くの岐高生が県営球場に応援に来てくださり、生徒会応援団も頑張っていたのだとてもありがたかつた。

現在、我々の世代の野球部OBの「絆会」は、毎年お盆に集まり、野球、ゴルフ、夕食会等を行っている。髪は薄

くなり腹も出てきたが、その時ばかりは気持ちは岐高時代に飛んでいる。



ここ数年、在宅診療を担当している患者さんの長男のお嫁さんが、奇しくも岐高の同級生で本年度の会報の役員をされており、その縁で本稿を依頼され、在りし日の高校生時代に思いを馳せることになりました。

中学時代にバレーボール部に所属していた私は、高校に進学したら特に続けるつもりもなかつたのですが、中学校の一年上の先輩に半ば強引に入部させられ、続けることになりました。

当時は華陽高校と校舎を共用していたため、部活は午後五時半で打ち切りでしたが、夏の合宿だけは時間制限がありませんでした。体育館が新築されたばかりで、顧問の鶴飼先生や土川先生に加えて、

つくない

・瞳はダイヤモンド

⑤文学・ベストセラー

・芥川賞「青桐」木崎さと子

・直木賞「恋文」連城三紀彦

・直木賞「てんじ村」難波利三

・天女の未裔

・愛のこころ

・天障院篤姫

・三毛猫ホームズのびっくり箱

・見栄講座

・愛情物語

・第四の核

・華麗なる探偵たち

・箱根の坂

・闇狩り師

・金魂巻

⑥映画

・アマデウス

・インディジョーンズ

・里見八犬伝

・愛情物語

・空海

・ゴーストバスターズ

・レバリーヒルズコップ

・愛と追憶の日々

・お葬式

・瀬戸内少年野球団

⑦テレビ

・心はいつもラムネ色

・山河燃ゆ

・金曜日の妻たちへⅡ

・くれない族の反乱

・スチラーテス物語

・北斗の拳

・ルパン三世Ⅲ

⑧有名人を偲ぶ

・ジヨーン・ワイズミナーラー 80歳 俳優

・長谷川一夫 76歳 俳優

・霧島昇 69歳 歌手

・カント・ベイシー 79歳 ジャズピアニスト

・有吉佐和子 53歳 小説家

・大川橋蔵 55歳 俳優

・美濃部亮吉 80歳 経済学者 政治家

・植村直己 44歳 登山家

・三原節 73歳 プロ野球監督

・大河内一男 80歳 社会政策学者

・インディガジニ 68歳 政治家

卒業された先輩も時折「指導」に来ていただけました。中でも三級上の白木先輩（現白木整形外科院長）は、長良中学時代から「その人あり」といわれた大エースでした。梅林中學出身の三年後輩の私でも名前を知っているほどで、「鬼の白木」で通っていました。当然のごとくしごかれ、夏の暑い体育館の中では延々とボールを追いかけ、フライングレシーブというよりも足がもつれ倒れこむことを繰り返していました。今思えば、熱中症で病院送りになる者が出なかつたことが不思議です。

当時県内では岐南工業がダントツに強く、高校総体で全国三位に入るほどでしたが、高校総体県予選の準決勝で岐南工の監督を若干あわてさせることができたのも、あの厳しい練習に耐えたことがなし得た成果だと思えます。

その後、地元大学の医学部を卒業した私は、研究のボスの指示でテキサス州ヒューストン市のベイラー医科大学で免疫の研究に従事することになりました。研究室では、週に一度研究のカンファランス

が行われました。当時最先端の日本語でも理解が困難な内容の研究論文を一時間英語でプレゼンテーションし、かつ矢のような質問を受ける状況は、その時の私には並大抵のストレスではありませんでした。医学部入試や医師国家試験など、それなりに大変であったであろう経験が、かすむほどの経験でした。

そのような困難な局面に際しても、それを投げ出すことなくやり遂げられたのは、あの合宿でやりきったという達成感と自信でした。あの経験が、その後の人生におけるその時々

の困難な局面で、自身を鼓舞する礎になったと確信しています。

今、医学部に進学し、私の背中を追いかけることになった長男に、以前この話をしたことがありました。岐高時代を含め、限界まで力を振り絞ったことがなかった彼にも、どこかで己の限界までやりきることが経験できればと、父として切に願っています

鶴飼先生、土川先生、白木先生をはじめ諸先輩、そして岐阜県立岐阜高等学校。素晴

らしき体験を与えてくださり、ありがとうございました。歌い継がれる校歌のあの一節「百折不撓つとめてやまず」―この言葉の重みをかみしめる今日この頃です。

「セカチュー」的 岐高生活

村瀬 登志彦
昭和五〇年卒



とはいわないまでもそれに近い帰省回数となっています。

改めて岐阜の街を見渡し、まずと、JR岐阜駅とその周囲は見事に変貌を遂げておりますが、柳ヶ瀬界隈の繁華街や長良橋の旅館街、岐高周辺から西野町付近の様子など、全体としての街の雰囲気は三十年代、我々が岐高に通っていた頃とさして変わっていない印象を受けます。言うなれば「昭和レトロ」状態を保っているように感じますが、如何でしょうか。

昨今の「純愛」ブームのきっかけとなった「世界の中心で愛をさけぶ」という映画（TVドラマもありました）をご覧になりましたか。主人公が高校生ですから、当然ながら観客の大半は若い人たちでした。小生、その時点で四七歳だったと思いますが、あの映像とストーリーに魅入られ、中年真つ盛りのオヤジであるにもかかわらず何度か繰り返し観たくなり…というより観てしまい、言うなれば「セカチュー中毒」なる状態に陥ってしまったのです。

何故そこまでハマったかを

あんなことこんなこと 一九八五年昭和六十年

- ①トピックス
 - ・つくば万博開会
 - ・ファミコンーム
 - ・いじめ問題深刻化
 - ・阪神タイガース日本シリーズ初制覇
 - ・両国国技館落成
 - ・東洋の吊り橋「大鳴門橋」開通
 - ・日航ジャンボ機墜落（御巣鷹山）：4人生存の奇跡
 - ・日電公社・専売公社民営化
 - ・竹下登「創政会」初会合
 - ・過激派による国鉄同時多発テララ事件発生
 - ・ソ連ゴルバチョフ新書記長誕生
 - ・三光汽船倒産
 - ・春の甲子園優勝（伊野商業（高知））
 - ・夏の甲子園優勝（PL学園（大阪））
 - ・日本シリーズ優勝（阪神タイガース）
- ②物価
 - ・サラリーマン平均年取 54.1万円
 - ・大卒初任給 14,000円
 - ・ガソリンリットル 14.6円
 - ・コーヒー一杯 280円
 - ・ビール大瓶一本 320円
 - ・たばこハイライト一箱 200円
 - ・新聞購読料一カ月 2800円
 - ・都営地下鉄初乗り 140円
- ③流行語
 - ・パイオニズム
 - ・新人類
 - ・家庭内離婚
 - ・トラキチ
 - ・角抜き
 - ・やらせ
 - ・金属疲労
 - ・金妻
 - ・花金
- ④音楽
 - ・日本レコード大賞「ミスマーレ」中森明菜
 - ・恋におちて
 - ・飾りじゃないのよ涙は
 - ・セーラー服を脱がさないで
 - ・俺ら東京を走った
 - ・雨の西麻布
 - ・なんてったってアイドル

分析するに、理由の一つは映画の舞台である海辺の田舎町が、我が故郷、昭和レトロ状態を保つ岐阜の情景と重なるせいだと気付きました。ましてやそれが三十年前、我々が岐阜へ通っていた頃の岐阜の街並みであれば、なおさらのことです。

主人公がデートしたアジサイの咲く港の見える丘は長良川を見下ろす金華山や繁華街を見渡せる水道山に重なりますし、彼らが戯れた夏の海岸は長良川の川原に置き換わり

ます。ただ、あの海岸は岐阜の修学旅行で訪れた青海島の浜辺がイメージ的には、より近いかもしれません。さらに夏休みの林間学舎、山の家は主人公たちが泊まらざるを得なくなつた無人島の廃屋にあたるでしょう。(あの学舎を廃屋と一緒にしてすみません)

この映画を観ることであの輝ける青春時代、遙か彼方の岐阜時代へタイムスリップすることができ、甘酸っぱいノスタルジーに浸ることができ

ユニーに匹敵するほどの素晴らしい青春の思い出を我が人生に残してくれた岐阜生活の三年間というドラマに「出演」できたことを嬉しく思い、共演者であるクラスメイト、恩師の先生方には感謝の気持ち一杯です。

ドラマの背景にあつて我々を見守ってくれた校舎は、建て替えのために取り壊しも近いと聞きました。たとえ校舎が変わっても、岐阜の伝統、精神、誇りは受け継いでいられるものと信じ、この稿を閉じることに致します。

岐阜高校よ、永遠なれ。



岐阜高校。三五年前に出会ったその場所は、私の思い出の中で特別な色合いをもっています。

私が生まれ育ったのは大野郡白川村。そこでは自宅から通学できる高校はなく、受け入れられる就職先もありませ



んでした。それは世界遺産に登録され、高速道路が通る今年間と同じです。小・中学校の九年間を同じークラスで過ごした三六人は、この春にみんな村を出たのでした。

私は学校近くの下宿にお世話になりました。最初はつらくて苦しい日々でしたが、先輩や友人たちのおかげで楽しい時代を過ごしました。懐かしく、また感謝しています。

まず困ったのは勉強の習慣がないことでした。中学校まではきちんと家で勉強することがなく、宿題などは授業の間の休み時間に済ませていました。その調子で数学の宿題

を始めたいけれど、さっぱり解けず、すぐに時間切れ。グラウンド二週の罰を受け、女子クラスの体育授業の脇を走りました。一緒に走ったガンちゃん「何で忘れてしまったのかなあ」と不運を嘆いていました。私は相棒がいてくれたことに感謝しつつ、「これからは宿題はちゃんと家でしてこよう」と真面目に考えたのでした。

田舎から一人で出てきた私を、みんなは暖かく受け入れてくれました。クラスでも段々うちとけておしゃべりができるようになりました。何の話題だったか、道路の信号の話になったとき、「白川村には工事の信号以外には一つもない」と言うのと、哑然としたミタニ君は「ヤマちゃんの村には信号が一つもないんだって」と周りの人に広めてくれました。(今では三箇所あります)

六月にあつた球技大会にはバレーボールで参加しました。アタッカーで大活躍したオオクボ君が「ヤマちゃんナイス」とほめてくれたりして、つらかったホームシックを完全に解き放つてくれ、楽しい行事

・タツチ
・浪花節だよ人生は

⑤文学：ベストセラー

・芥川賞「過剰しの祭」米谷ふみ子
・直木賞「魚河岸物語」森田誠吾
・直木賞「京都まで」他 林真理子
・科学万博つくば85公式ガイドブック
・首都消失
・真田太平記
・豊臣秀吉
・洋子

⑥映画

・シルマの竖琴
・銀河鉄道の夜
・乱
・Wの悲劇
・天国にいちばん近い島
・お葬式

・アースバスターズ
・ネバーエンディングストーリー
・アデウス

⑦テレビ

・大河ドラマ 春の波濤
・機動戦士Zガンダム
・連続テレビ小説 湾つくし
・スター誕生
・真田太平記
・ニュースターシオン
・クワチ
・金曜日の妻たちIII
・小公子セーラ

⑧有名人を偲ぶ

・天才たけしの元気が出るテレビ
・石川達三79歳 小説家
・ユージン・オマレイ(87歳)指揮者
・マルクシャガール(97歳)画家
・笠置シズ子70歳 歌手
・坂本九43歳 歌手
・夏目雅子27歳 女優
・エルブリンナー(65歳)俳優
・源氏鶏太73歳 作家
・大友柳太朗74歳 俳優
・向坂逸郎89歳 経済学者
・中野好夫83歳 英文学者

でした。

土日になると、他の下宿生は自宅に帰っていききました。白川村には鉄道は通じていないし、バスも午前中に乗らないと村までは着きません。土曜日の午前中は授業があつて時間的に不可能だし、そんなお金もありませんでした。

そして待ちに待った夏休みを前にして、先輩が「高二コース・八月号」を見せてくれました。特集は「夏休みに行きたい日本の七秘境」。そこには合掌造のイラストとともに「飛騨白川郷」が載っていました。三ヶ月前の自分なら、悲しくなつて記事を恨んだことでしょう。でも、そのときはただ嬉しくなつて、故郷の風景が目に浮かんできたのです。田舎から出てきた少年は少し、でも大きく成長していました。その夏休み、飛びっきりの笑顔で親元に帰つたことは言うまでもありません。

少年時代までを人生の序章とするならば、高校生時代は第一章。ほろ苦く始まった私の第一章は、ここから輝いていくのでした。

VIVA! 高校時代という Vintage

青木 繁美
(旧姓・間野)
昭和六十年卒



仕事柄、ワイン (Vino) を飲む幾多の機会があります。その度に、一人の人間が成長していく様が、まるで葡萄が一本のワインに熟成していく其れに思えてなりません。例えば、新酒 (VinoNovello) は、同年 (Vintage) の葡萄で作られた新しいワインの誕生を祝う、つまり生まれだての赤ちゃんを、家族で親戚でまたは地域でその誕生を祝い、純粹に命に感謝する感があります。或いは、若く澁刺としたスプマンテを作るには、まず健康な葡萄を収穫し、出来るだけ早い段階で压榨機にかけることが肝要

です。

今から二〇年以上も前、若く澁刺とした岐高一年生であった私は、宿題が大嫌いな、いわば青く酸味のあるアセルブナ女子でありました。江崎先生の毎時間の英単語豆テストは専ら、登校で使用する黒野行きの市電の中の約一五分間だけ。運良くクリアできる日もあれば、追試を受ける日が七割位という不出来なキャンイユでした。追試の教室は薄暗く、なんともカビ臭いようなところでした。出来の良かった方はこの教室の存在をご存知ないでしょう。原因は中学時代からの授業中に集中すれば大抵の内容は頭に入るでしょう、というような愚拙な過信でありました。もちろん岐阜高校ではそのような心得違いは通用しません。家庭での学習をしなければとにかく論外なのです。

高校二年生になり、ようやく心具合に変化があつたようで、英語に限っては勉強するように。ある日、英語の授業中に一ページ分の訳をするように指名されました。うろ覚えですが、確か "without facing to" のようなフレーズを。彼は自分の事を棚にあげて "と訳したところ、一年生の時毎朝追試に付き合あわせてしまったあの江崎先生が、その訳を大絶賛してくださったのです。おそらくこの対訳は辞書にも載っていない私オリジナルの訳だったのではないかと思えます。その後幾度か、あのフレーズだけ訳してくれ、とちよつと妙なリクエストには、はにかみ答え、確実にあの一瞬から英語道のスタートラインに起つたのだと思います。江崎先生はその後、高校三年生になつた時も、英語で進むように推薦入試を勧めてくださいました。あの出来事を江崎先生は覚えていらつしやるのでしょうか？なんとなく風変わりな先生だと記憶しています。何しろ、まさに結実不良で晩腐病にでもかかりそうであつたヴィティスにペンレート剤でも散布してくださいだったのですから。

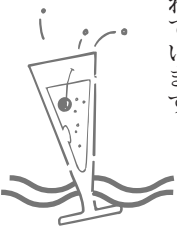
ワインの色づきは果皮から影響されるため、結実の良いヴィティスであることと、さらに早い時期での压榨は非常に繊細なものでなくてはなりません。また、瓶内で二次発酵させてもワインの中に少しでも不純物が残っていればいやな苦味が残ります。いくら寝かせたところでタンニンの青いままのキャンイユとなつてしまします。

あの寸陰から、私の人生は其れ一本となりました。子供への英会話指導、そのマネージャー、セカンダリーでの日本語教師活動、外国語事務などに携わり、現在はワインを扱う夫のお店を手伝いながら、翻訳などしています。江崎先生のあの追試の日々に深謝します。あのカビ臭い密室で熟成できたのだということにさせてください。高校生という時期は誰しもが、まだ摘まれていないもしくは積みだての熟成途中の若いヴィティスの時期であります。压榨なのか、フリーランなのか、バトナージュの加減は、ルモンタージュするべきか……特に師の一言などは永遠に心に刻まれ、そして実際にその人生の水面に一滴を落としてくれます。

私もこの先、さらに二次発酵し、また別の道を選ぶ出来

事が訪れるかもしれない。その時が来たら、大好物、赤の辛口微発泡Vino Frizzante Concerto Lambusco Reggiano Seccoでも飲みながらゆっくり、あの頃を追懐したいと思います。そして、今後の至高の人生は是れ。第一アロマでなくブルーの香り立つような、ラルムのきついようなそれでいて心地よい、余韻は九〜一〇秒で充分であり、そしてワインテージはあの頃一九八五年。……ちよつと、かつこよすぎました？

追記・実際の一九八五年ヴインターですが、開花期間中、降雨があったものの、結実具合はとても良い年です。このヴインターの性格は、夏の暑さに続いて記録的な乾燥度になった九月と、暖かくて乾燥した十月に影響しています。つまり葡萄の品質は非常に高く、ワインに素性の良さが出、一九五三年のような古典的なスタイルも備え、傑出したものと品評されています。



岐阜に戻ってきて思うこと

駒月 正人
昭和六〇年卒



卒業から二三年、目まぐるしく時代は変わっている。携帯電話、インターネット、電子メール、燃料電池……。十年一昔というのだから、高校時代は二昔前だ。しかし、最近でこそ少なくなったものの、未だに夢を見る。「あっ、英単語をまだ覚えていない。明日のテストがヤバイ！起きて勉強しないと。」ハッと、我に返り「あっ良かった。俺は、もう高校生じゃないんだ。起きて勉強しなくてもいいんだ。」と思うのも夢の中。週に三回ぐらいあった英単語のテストが相違きつかった証拠だ。ちなみに、他に見る夢は、大学

入試に失敗する夢、大学で進級できない夢等で、楽しかった部活のバスケットボール、林間学舎、修学旅行等の夢を見る事は無い。

そんな私も四一歳。高校を卒業した後は、名古屋、神戸、宇都宮と渡り歩き、一昨年転職をし、家族を連れて岐阜に戻ってきた。やはり、自分が一八年間生活した故郷は住みやすい。水も言葉も自分に合っている。さらに、極度の花粉症の私にとっては、杉花粉が宇都宮より少ないこの辺りは、まさに天国。私のワガママで、家族にも引越を強いた訳だが、幸い子供達は順応が早く「宇都宮より岐阜の方がいい。」と言ってくれているので、胸を撫で下ろしている。ただ、妻には怖くてまだ聞けてない。

前述したように、神戸や宇都宮で働いていた訳だが、岐阜出身を意識した事は無かった。しかし、現在働いているトヨタでは、どういうわけか「家は？へへ岐阜から通ってるんだ。大変だね。もしかして岐阜高校？」という感じの会話が結構ある。この歳になって出身高校を聞かれるとは思ってもいなかった。

想像以上に、東海地方で岐阜

高校のネームバリューがあるようだ。ネームバリューだけではなく、社内でも卒業生が活躍しており、会報への寄稿を快諾してくれた葛谷孝史さんと森島龍太さんは、職場の同僚である。

以上、取り留めの無い話を書いてきたが、岐阜に戻ってきて、あらためて岐阜の良さ、そして岐阜の偉大さを感じ、岐阜卒業生という看板に負けないように定年まで頑張ろうと思う昨今である。

校歌と卒業式

須原 清貴
昭和六〇年卒



私は岐阜校歌が大好きだ。「華陽の健児此処に生まれて、国家の為に明け暮れ学ぶ。」



羽島の田舎から一念発起して岐阜に入り初めてこの歌詞を聴いた時、自分は軍隊に入ったのかと我が耳を疑ったが、岐阜高生活を送る中で、すぐにこの歌が大好きになった。

色々な機会で歌ったが、最も思い出深いのは卒業式での校歌斉唱だ。

三年生から生徒会長を務めた私は、お世辞にも立派な會長とは言えず、破天荒を絵に描いたような存在だった。既成概念への嫌悪感が強かったのか、従来からの規則に悉く反発し、文化祭運営でも随分と無茶をした。

先生の中には面白くないと感じた方も少なくなく、学校長推薦を頂いていた大学への合格内定取消が教員会で議論されたらしいが、こちらは「取り消せるものならやってみろ」とどこ吹く風。

生徒会長の最後の仕事といえは卒業式での代表答辞。先輩方が数年にわたり、優等生的な答辞をしてきたことをつまらなく感じていた私は、いつもの如く悪巧みを講じ、答辞で式全体を笑いの渦に巻き

込もうとした。

岐阜卒業式といえば、県教育界の重鎮が顔を揃える。そこで笑いを取れば痛快であるし、同級生もきつと喜んでくれるだろう。

先生方も私の動きを察知したようだ。答辞の原稿や本紙(和紙に毛筆書きして折畳んだもの)を事前に提出させられた。それ以前の卒業式ではそんな下らない準備は多分必要なかったろう。ところが、私も先生の動きは織り込み済み。提出用と本番用を巧みに用意した。準備は万端だった。

しかし、卒業式前日に予想外の動きが二つあった。

まずは、私が在校時代三年間在籍した柔道部顧問の古賀先生に体育教員室に呼び出された。大抵の先生の言うことには馬耳東風の私も、古賀先生には頭が上がらない。万事休すと覚悟を決めたところ、先生からは「須原、明日の卒業式は期待しとるぞ」の一言のみ。古賀先生も、私の悪巧みの噂は必ずやご存知の筈。なのに、それに全く言及されないのには正直参った。

帰宅後も多いに悩み、つい

に我が友、星野健君に電話で相談した。星野君は今でこそ

岐阜県中学校教育界の将来を囑望された教員だが、当時は色々な悪巧みを一緒に考えた悪友。彼なら「卒業式で笑いを取れ！」と発破をかけてくれると期待した。

ところが、彼の言葉は意外だった。

「須原、最後なんだから、先生の顔も立てて、ピシッとやったらどうや？」

柔道でいう一本を取られた気分だった。

翌日の卒業式本番。私は、自分が毛嫌いしていた筈の優等生的な答辞を肅々とかつ堂々と読み上げた。

その後の校歌斉唱では、いつも以上に腹の底から熱唱した。

「華陽の健児心雄々しく、百折不撓努めて止まず。」

最高の気分だった。若気の至りとは言え、お恥ずかしいエピソードだが、今となつては良い思い出もある。

このような素晴らしい校歌斉唱と卒業式を経験させてくれた、我が恩師古賀先生と、生涯の盟友星野健君に、この機会をかりて、改めて心から

お礼申し上げたい。

リズム屋の楽しみ

森島 逸郎

昭和六〇年卒



私はリズム屋Electrophysiologistです。心臓のリズムを整えるのが仕事。この仕事がとても気に入っています。心臓の中に直径2mm程度の電極を入れる。とても速い脈、バラバラの脈などいろいろありますが、その原因となる異常な電気信号の流れをミリセカンド単位で追いかける。最後にここだと診断した病巣に高周波を流す。数秒後に不整脈はび

たりと停止し、心臓は正常なリズムで打ち始める。リズム

屋にとって至福の瞬間です。「不整脈がなくなつて世界が変わりました。」治療から一ヶ月後、外来で患者さんからこんな感想を聞かせてもらえると、さらに嬉しくなります。治療する患者さんの動機は実に多様です。不整脈を繰り返して心不全になった七〇歳代男性。治療後に無事心不全も治って退院されました。卓球の全国トーナメントに出ているが、最近運動により不整脈発作がおきる六〇歳代女性。治療後トーナメントで優勝されました。不整脈を治療した後に結婚して新たな生活をスタートしたい二〇歳代女性。

現在幸せな日々とのこと。人の人生の幸福に少しかわることができる環境に身を置くことに価値を感じています。さて、それでは不整脈の診断治療は何を基にするのかというところ、全ては心電図によります。健康診断で用いられる十二誘導心電図が基本ですが、前述の治療のときは、心臓の中に入れて心臓の壁に直接電極をあてて記録する心内心電

図というものを加えて見ます。いずれも横に延びた基線を中心に、ある時は単純に、またある時は複雑に上下に揺れるモノトーンの曲線の組み合わせです。以前の私にとって、この心電図という二次元のトレースは、患者さんの状態を知るツールに過ぎませんでした。ところが、その心電図を見て、患者さんと一喜一憂しているうちに、心電図そのものが見えてくるから不思議です。その曲線の微妙な変化は、逐一心臓の中で起きている電気現象を反映しています。複数の曲線からなる一枚の心電図は、複雑な不整脈の電気の流れを語りかけてくれます。これを読み解くのは、暗号の解読のようで、時に難解ですが、とても興味深い作業です。一つのトレースがとても珍しい心電現象を現していることが分かった時、そのトレースはまさに光り輝く芸術のように感じられるわけです。昨年、そんなトレースを米国人のリズム屋に見せたことがあります。私は敢えて多くを説明しませんでした。私に説明しませんが、しばらく眺めて

いた彼はそのトレースの意味を理解し、「美しい。」と表現してくれました。このような感覚を国境を越えて共有できることをとてもうれしく思いました。自分の気に入った心电图集を作り

"Our Most Beloved

electrocardiograms"

として出版された高名な欧州のリズム屋の兄弟がおられます。心电图一枚ごとにタイトルがつけられ、まるで画集のような本です。最近、この先生からこの本の心电图について解説していただく機会がありました。その造詣の深さに感銘し、探究心が増しました。これが私がリズム屋の世界がますます気に入っている第二の理由です。心电图に魅了されながら、少し人の幸せのお手伝いができることを感謝して日々精進しています。

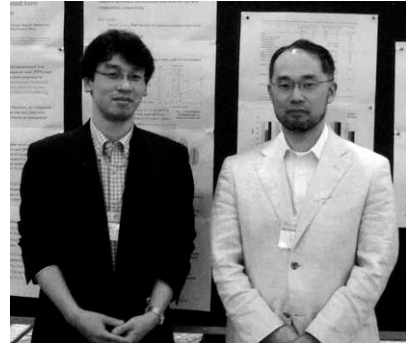


わが人生

久野 壽也

昭和六〇年卒

昭和六〇年に岐阜高校を卒



業して早くも二〇年以上が経過した。振り返ってみると自分の人生といえどもほとんど自分の思い通りになっていない。そもそも思い描く人生なんてあったのかと考えると、その存在自体があやしい。手持ちの知識や情報で、具体的な将来像なんて描きようがないのではないかとも思う。こんなたよりない人生であるのだが、不思議とその節目で岐阜高校との絆が出現し、私自身を驚かせる。

高校時代のことはぼんやりとしていて、鮮明には思い出せない。特に親しい友人がいたわけではなかったが、クラスメイトの安江紀裕君には卒業後ずっとお世話になり続けており、岐阜高校の絆を最も強く感じさせてくれる。大学

卒業後の進路も彼に決めてもらったようなものだ。多分細かいことからなのだろうが、彼の進路を聞いて同じ就職先に決めた。迷惑な話だと思いが、その後、彼と彼の御家族にはお世話になりどおしで、とても足を向けて寝られない。

そういえば大学に入学して同じ班になった社会人入学の頼瀬多加志先輩は岐阜高校の大先輩で、単位の取得方法から処世術までいろいろ教えていただいた。当時は生意気盛りで、先輩も手を焼いたろうと思う。ただ、無事卒業できたのは先輩のお陰だと感謝している。また、高校、大学の一年後輩の北賢二君にもクラブ運営等で並々ならぬお世話になっている。

就職後数年たって、東京に三年ほど修行に出た。出先の施設では大学の先輩もいたが、岐阜高校の先輩後輩が意外と大勢いた。その中でも金光幸秀先輩は仕事がスマートで、業務処理からオフの過ごし方まで御指南いただいた。研修を無事修了できたのも、妻とゴールインできたのも先輩のお陰だ。

東京から帰って大学院に入ると、地元だからかもしれないが、同室の先輩も後輩も岐阜卒であった。実験の組み立て、学位論文の書き方、力強い励ましで計り知れないほど助けられた。人生で一番苦しい時期であったが、楽しかったと振り返ることができるのは、藤井（中村）恵子先輩、山田泰広君、吉田浩二郎君のお陰である。

大学院を修了後、家庭の事情で転職したが、現在のボスである香川大学、今井田克己教授も岐阜高校出身であり、快適な職場環境を提供していただき感謝している。

大学卒業まではずっと自宅通学で岐阜を離れたことはなかったが、就職後は各地を転々とする放浪生活となってしまった。しかし、行く先々には不思議と岐阜高校の先輩後輩達があり、足腰の定まらない私を支えてくれる。高校時代、同級生はみんなライバルだと思っていた。それがくだらないことだったというのに気付いたのは恥ずかしなが



スポーツのすすめ

加野 幸司

昭和六〇年卒

あれは昨年、乾いた空気か、気持ちは良いある秋の朝のこと。いつものペーパーワークに一段落つけて、喫煙室でも行くかと腰を上げた途端に「ハックション！」、その瞬間、身体の中から「コキッ」と小気

味良い響きが聞こえた(ような気がした)。

どこかの国では、ギックリ腰のことを「魔女の一撃」とも言うらしいが、自分でやってみて「なるほどね、うまいこと言うもんだね」と感心してしまった。しかし今は暢気に感心などしている場合ではない。なにしろ中腰のまま、立つことも座ることもできない。動いたら直ちに「死」という感じだ。結局、同僚たちの手で病院に担ぎ込まれた上、そのまま自宅のベッドまで運ばれて家人の帰りを待つこととなった。寝返りも出来ない、トイレにも行けない、のどは渇くし腹も空く。この心許なさといつたら、赤ん坊の頃以来、ほぼ四〇年ぶりと言っても過言ではなからう。

考えてみれば、就職してから二〇年近く、多忙にかまけて運動らしい運動もせず、不規則な生活のなか、本能のままに牛飲馬食を繰り返してきた。体重も見事に文字通りウナギ上り。「成人病なんてオヂサンの病気だから人ごと」と思っていたが、よく考えてみれば、何のことはない、我々こそ正

に適齢期のオヤヂではないか。何はともあれ、あんな痛くて情けない思いは二度とゴメンだ。これを薬にとばかり、重い身体を敢えて動かすことにした。ただし、いきなり流汗のフットサルとやらに走るわけにもいくまい。そこで始めたのが、一に自転車、二に水泳だ。

幼い頃から軽い放浪癖のある小生にとつて、自転車は限りなく楽しい。ちよつとだけ高級な自転車を買ってきて、週末は多摩川あたりを中心にエッチラオッチラやっている。調子が良ければ、日に百キロぐらい走ったりもする。時間をかけてじっくり走れば、たいてはキツクもない割に達成感は格別だ。

水泳の方は、もともとギックリ腰のリハビリと再発予防のため、スポーツ・クラブに入ってから発展した。腰痛持ちに平泳ぎは禁物なので、やはりクロールでいくしかないが、何しろ過去二〇年間、泳いだ記憶は全くない。ドキドキもなかったが、エイヤとばかりに試してみた。ほとんど息継

ぎも忘れてガムシヤラに進み、そのままターンして何とか戻ってきた。が、泳ぎ終わってそのままターンして何とか戻ってきた。が、泳ぎ終わってそのままプールの底で永眠した。さぞや気持ち良からうとまで思った。そんなこんなで散々なクロール再デビューではあったものの、その後は「ゆつくり楽に」を心がけ、毎週泳ぐことを習慣にしている。上達速度は太平洋プレート移動よりも遅いが、なにもイアン・ソープを懲らしめてやろうというのではない。水の中で過ごす時間は、非日常的な癒しに満たされている。のんびりと楽しみながら続けている。

そんなこんなで、あの悪夢の日から早や一年余り、気がついたら体重が十五キロほど減っていた。ダイエットのためではなかったけれど、やはり素直に嬉しい。休みのたび、勝手に一人でサイクリングやプールに出かけるのを黙って許してくれる妻や娘たち。心から感謝。もつと頑張つて、さらにカッコイイ夫、カッコ

イイ父親になろう。さて、同世代のオヂサンたち、オバサンたちよ。シヤレにならない病気をしてからではもう遅い。身体を動かそう、スポーツを楽しもう。我々も若くない。でも、まだまだ楽しいことのネタは尽きないのだから。

あつい想い

高橋 孝夫
昭和六〇年卒



今年度は我々の学年が同窓会の幹事学年であり、岐阜高同窓会「会報」への寄稿依頼があった。思い起こせば岐阜高校卒業後、なんと二十三年が経過しようとしているようだ。しかし、印象的な楽しい思い出やつらい悲しい思い出と共に、私の精神的根底には、

いつも岐阜高校で学んだことが流れているような気がするため、卒業後それほど時間が経過した感じはない。その上、私は価値観のよく似た岐阜高校の同級生と結婚したこともあり、卒業してからも岐阜高校時代のことが私の心の中から離れることがない。今でも高校時代の仲間とは益正月に会うことがあるが、その当時の楽しい話で盛り上がり、酒を飲んだりしている。また、現在は多方面で活躍している同級生もあり、人生観においても大変参考になる話が聞ける。

私は進路を悩んだ末、岐阜高校卒業後、岐阜大学医学部に進学した。卒業後、癌の外科治療をしたいと心に決め、岐阜大学第二外科(現腫瘍外科)に就職した。現在岐阜大学附属病院腫瘍外科(消化器外科)に勤務し、消化器外科を担当している。岐阜での消化器癌の治療成績がよくなるよう外科医として日々研鑽を積み、精進している。岐阜県下の医師には岐阜高校出身の諸先輩方が大勢いらつしやう、大変お世話になったり、また後輩たちも多数おり、診療面にお

いて大変やりやすいと思うことがあつた。私は岐阜大学医学部の教官なので、授業を行ったり、手術中に指導を行ったりする機会がある。このときに出身高を尋ねて、岐阜高校の出身者であるとわかるとうれしく思い、それだけで意気投合することもあつた。このように岐阜高校で学べたことが、現在でも仕事や人間関係に繋がつていて、今現在の私に活かされていようような気がしてならない。

さて、私は外科医として癌の手術手技を磨くため、また癌の研究も行うため、愛知県がんセンターに四年間国内留学をした。その後平成一四年には約二年間テキサス大学に癌遺伝子の研究のため留学した。この癌研究所はテキサス州ダラスにある。最初はアメリカ東海岸、西海岸の癌研究所にいつてみたいと思つていたが、応募してもお金をもらいながら雇つてくれるところがなく、ここで働くこととなつた。しかしふたを開けてみると、現役のノーベル医学賞受賞者が三人も教授でいらつしやる優秀な癌研究所であることがわ

かつた。癌は手術だけでは残念ながらもまだまだなかなか治癒しない。また癌は遺伝子異常でおこることがわかつてきたため、これについての研究をしたかと思つた。私はここで研究する機会を得て、アメリカはやはり凄いなと感じた。なぜなら世界中から優秀な癌の研究者が集まつてくるし、資金は豊富にあるからである。また日本人も多数留学しており、優秀な医学者が多かつた。勤勉であり、信頼できるデータを多数産出する日本人医師は他国の研究者達からの信頼が厚く、海外からみた日本人の凄さも実感できた。新たな発見をしたかと思つた。新たな発見をしたかと思つた。新たな発見をしたかと思つた。

大きな宝となつていふ。ただ、家族三人（私、妻と当時五才の幼稚園児）で初めての海外生活を送ることとなり、言葉、文化が異なるためたいへん苦労した。しかし、今では家族の絆として良い経験となつていふ。私はこれらの経験を糧に現在岐阜大学腫瘍外科に所属し、少しでも癌撲滅に貢献できればとあつた思いを持つていふ。

諸先輩方のように岐阜高校卒業生として是非活躍したいものである。



剣道場を知りました。師範は剣道七段の英国人先生。青目の剣道家の方々の稽古に好奇心を掻き立てられ、入門することにしました。そこでは剣道人口が減り続ける日本を尻目に、欧州では剣道愛好家が増え続けていることを知り、また次の赴任先の香港でも、[Sekisinkan(赤心館)]という、これまた剣道を愛する中国人先生の道場で、中国人と共に稽古に励みました。

剣道に『交剣知愛』という言葉があります、その言葉に言い表されているとおり、たとえ知らない人でも、また、異国人で言葉が通じなくても、一緒に剣道をする、その剣風からお互いを理解し、稽古が終わった後は既に友人となつた気になります。稽古が終わると、「第二道場」で稽古

よりも長い、剣道談義が始まります。英国ではパブでギネスを飲みながら、香港では本場中華料理をつまみに、中国産ビールを酌み交わしながら、剣道技術論、精神論に始まり、酒が進むと英国政治、中国経済、日本の行く末等、話題は尽きません。英語に中国語（広東語）と会話には苦労しましたが、そこは『交剣知愛』、同じ剣道を愛する人とのコミュニケーションは不思議と楽なんですね。このように、岐阜で学んだ剣道は、異文化とのコミュニケーションのツールとなり、さらには、外国で長く暮らす私に、日本人としてできること、語れることといった日本人としてのアイデンティティーを認識させてくれるものであります。

また、海外生活を通じ、駐在員を中心に海外に広まった日本文化（最近では、和牛、吟醸酒、漫画が人気だそうですが）が、着実に世界の各所に根付き、確固たる地位を築いていることを実感しました。たとえば、世界の人に愛される日本の精神文化の一つとして、剣道は着実にその地位を固め

が大学の教員になってからは教育について語り合うことが増えた。ただ、お互いまじめな話に慣れていないので、十分なまま終了することが多い。まあ、我々らしいんだけど。

私が勤務する大学は、道路をはさんで西に公営競馬場、東に自衛隊駐屯地と、とても勉強・研究に適した場所にある。勤務した当初は「バン！バン！ダダダダダダ！」という大きな射撃訓練の発砲音に怖くなって家に逃げ帰ってた。冷静に考えれば空砲なんだけど。

競馬場には家族で行くようになった。必ず学生に会うから恥ずかしい。が、初めての時は学生に投票方法を教えてもらった。中部圏で暮らしている時と違うのはそれくらいかな。子供は北九州弁だ。実は私も北九州弁ほいのが出るようになっていた。すっかりなじんでしまった。

そういえば、私の勤務する大学から、中日ドラゴンズに入団した選手が。中田賢一投手だ。なんと彼は、私のゼミナールに所属していた。大学で行われたドラフト指名会見では、横にいたんだけど、全

くTVに映ってなかった。当然か。とにかく中日ファンの方はもちろん、中日ファンでない方も彼だけは応援していただきたい。

最後にお詫びをして。まず、この原稿の体裁に関して、恥を忍んでお詫びを。気付いた方もおられると思います。実はどんな書き方をしていいかわからなかった。前年度の「伊藤寿浩」先輩の書き方を参考にさせていただきました。勝手にパクって申し訳ありません。

次に大学の教員というのは締め切りを守らないのが普通なんだ、という言い訳はここでは通用しないでしょうから、T君、T君の奥さま、Hさん、会報にかかわっておられる方々、締め切りを守らず本当に申し訳ありませんでした。

今年、イチバンの出来事

梅本 雅史

昭和六〇年卒

高校を卒業して四半世紀。現在は公務員をやっています。岐阜県庁の広報課で「ふれあ



い「くらしと県政ぎふ」という県の広報紙をつくっています。毎月一日発行で県内の各世帯にお配りしていますので、機会があれば目を通して頂けると幸いです。

ところが、そんな仕事をしているにも関わらず文章を考えるのは極めて苦手で、この原稿も遅々として書き進まず、編集の方には大変ご迷惑をかけました。(すいませんでした。) そんな筆無精の私が何を書こうかというのを考えた挙げ句、私個人にとって、今年イチバンの出来事について書くことにしました。それは、FC岐阜がJ2昇格を果たしたことです。

FC岐阜は、岐阜からプロのサッカーチームを出そうというところで、サッカー関係の有志が立ち上がり、県サッカー協会の後押しをうけて、二

〇〇一年四月に産声をあげました。県サッカー協会の後押しがあるからといって、飛び級のようなことはなく、県リーグ、東海リーグ二部、東海リーグ一部、JFLと、階段をひとつひとつ登ってきました。

私自身、小学校五年生からサッカーを始め、岐阜高校在学中もサッカー部に所属しました。サッカーが好きで、四〇歳を過ぎた今も審判員の指導という形でサッカーに関わっています。Jリーグが始まった頃は、岐阜でもJ1リーグの試合を見ることが出来ましたが、あまり観客が入らないせいか、最近はやらなくなっていました。サッカーが好きな人間にとっては寂しいことです。でも、FC岐阜がJ2入りしたことで、岐阜のチーム、自分たちのチーム、本当の意味での地元チームが応援できるようになったことは、色々な意味でうれしい出来事でした。J2リーグの試合が岐阜で見られるということで、サッカーをする岐阜の子ども

達にとっても、日本のトップレベルのサッカーを実際に見られるよい機会であり、子供達が目指すべき目標も出来たのではないのでしょうか。

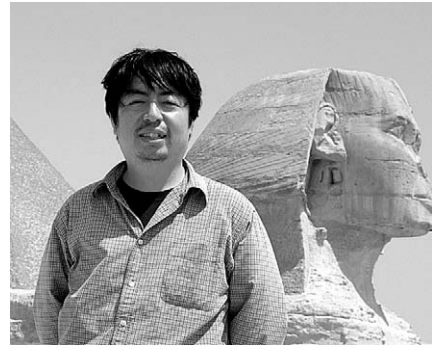
全国レベルのステージで活躍する「岐阜」の名前を持つプロチームの誕生です。私たちのチームです。サッカーに興味ない人も、一度試合会場に来てFC岐阜を応援してみませんか？緑の芝生の上で一生懸命プレーする地元チームの姿を見に来てください。二〇〇八年のJ2リーグは三月開幕です。さあ、みなさんで、スタンドをいっぱいにしましょう。

文化祭の思い出

葛谷 孝史

昭和六〇年卒

岐阜を卒業し、岐阜を離れて二〇年、高校時代の記憶もだんだん薄れてきていますが、三年生のときの文化祭だけはいまでも鮮明に記憶に残っています。きっかけまでは思い出せませんが、「担任の日比



野安平先生の高校時代の思い出をドラマにしよう！」という事になったので、先生から何度も聞かされていたという事でしょうか。

高校の入学式で一目惚れした子が剣道部のマネージャーになったことが理由で剣道部に入った主人公。彼女が岐阜駅でチンピラに絡まれたところを目撃したのだが、怖くて何もできずにいたところ、颯爽と現れてチンピラを退治したのはなんと剣道部の主将。その後、彼女が先輩に告白する姿を見てしまったが、彼女を助けることができなかった自分の出る幕はなく、あっさり失恋。情けなさど彼女への思いで落ち込んでいた彼を救ったのは剣道だった。ロッキ

ーも顔負けの練習を重ねた彼は、遂に全国大会で優勝！ というバタなストーリー、この文を書くにあたって一〇数年ぶりにビデオを見たのですが・・・感動しました！

監督、脚本、出演、編集などすべてクラスのみんなで分担し、えっ、男子クラスでしたからもちろん主演女優も男！国鉄岐阜駅での迫力のロケ、徹夜での編集作業で友人宅で朝まで騒いだりしたことを思い出しました。

さて、文化祭での評判は？アンケートで連続首位だった職員劇を破り、堂々の一位！でした。ご覧になりたい方、もう一度あの感動を味わいたい方は、昭和六十二年、三年五組の卒業生に声をかけてください！



高校生活での最大の関心事にして、誰もが患う病気といえは、そう、「トキメキ☆」。あのときのピュアな気持ち、



覚えていますか。

とある春の、妙に晴れた日。廊下にて。休み時間。

うぶ毛程の頼りない無精ひげ(当時格好いいと信じていた)をひとさし指でナゼナゼしながら、廊下の窓越しにしみじみと桜を見ていた。長良川の堤防沿いに植えられた桜は、散る寸前。淡いピンクの帯が太陽に照らされて、うつすら涙が出るほど眩しい。

そのとき、廊下の向こうに、「トキメキ☆」のあの子を発見！近づいてきた、一瞬の緊張、そしてすれ違う。思わず、深く深く匂いを吸い込む(無論ばれないように)のは私の癖。私の癖(かなり変態的ではあるが)を誰にも非難できないはず。自分の胸によく手を当てて聞いてごらん下さい。岐高での、淡い春の思い出のひとつ。

とある夏の、妙に晴れた日。教室にて。休み時間。

教室には、勿論クーラーはない。男子

クラスは、男の匂いでむせ返る。ある席の周りに十人強の男共が群がっている。その男の輪の中心には、誰かが内緒で持ち込んだ「子供は見えてはいけない本」。真ん中でページをめくるクラスメートは、汗びつしより。私もわりと積極的にその輪に参加。男子なら一度はある経験だろう。

そのとき、教室の前を「トキメキ☆」のあの子が通りかかる！我ら男の輪をちらと一瞥。とつても冷ややかな視線。(当然だわな)あろうことか私はその視線に胸キュン(あほか)。岐高での、切ない夏の思い出のひとつ。

とある秋の、妙に(以下省略)

さて、いまから三分の間、時計の秒針をただ眺めて、何もせず、待つてもらいたい。

・ ・ ・
(我慢できずテレビを見ては、だめです)(
(ズルして一分半で切り上げ

ては、だめです)(
(社会人なんだから暇ではないという言訳は、聞きません)(
・ ・ ・

・ ・ ・(三分目) ・ ・ はい、終了。

トキメキ☆ながら、岐高で悶々とすごした三年間は、時計の秒針を眺めて待つ三分間より短かったな、いま思えば。



在校生3年 角井 智美